白ケ野第2・第3遺跡

(第2分冊 縄文前期~中・近世編)

上の原第1遺跡 (B地区)

東九州自動車道(西都~清武間)建設 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 X WI

2002年 宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第62集

白ヶ野第2・第3遺跡 (第2分冊) 正誤表

訂正	箇所	原文	訂正文
P14	L27	手堀り	手掘り
P14	L32	陥し穴状遺跡	陥し穴状遺構
P14	L35	北半部び	北半部及び
P15		遺構分布模式図図	遺構分布模式図
P16	L12	南東約 40 離れた	南東約40m離れた
P16	L17	3.21cm	3.21m
P16	L19	5程cm	5cm 程
P16	L20	竹菅様 (工具)	竹管様 (工具)
P24	L15	竹菅様 (工具)	竹管様 (工具)
P24	L26	4周	四周
P24	L34	4周	四周
P26	L2	SC 1 1 1	SC3
P26	L4	4周	四周
P26	L11	(第9·10図)	(第 9·10·11·24 図)
P27	L3	I基	1基
P27	L18	竹菅様 (工具)	竹管様 (工具)
P28	L13	竹菅様 (工具)	竹管様 (工具)
P30	L12	撫で	ナデ
P99	L32	須恵器甕形土器	須恵器甕
P100	L1	5基検出されて	5基が検出されて
P100	L6	AS3	SA3
P100	L11	AS3	SA3
P100	L16	主軸が	長軸が
P100	L18	堆積しいる	堆積する
P100	L31	堀立柱建物	掘立柱建物

上の原第1遺跡 (B地区) 正誤表

	訂 正 個 所	原文	訂正文
P130	L 2	土器片(1)	土器片 (24)
P 132	第11図 SC3断面図	E - E'	E' - E
P 159	図版 右側中央写真キャプション	SI3小穴(東より)	SC3小穴(東より)

白ケ野第2・第3遺跡

(第2分冊 縄文前期~中・近世編)

うえ はる 上の原第1遺跡 (B地区)

> 東九州自動車道(西都~清武間)建設 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 X WI

2002年 宮崎県埋蔵文化財センター 宮崎県教育委員会では、東九州自動車道建設に伴う発掘調査を日本道路公団より委託を受け、平成7年度から実施しております。本書は、平成7年度から8年度にかけて実施した西都~清武間予定地内に所在した白ケ野第2・第3遺跡(縄文前期~中・近世編)及び上の原第1遺跡B地区の発掘調査報告書です。

白ヶ野第2・第3遺跡は、縄文時代草創期から中・近世にかけての遺構・遺物が検 出され、当地が先人の生活の場であったことが判明しました。中でも遺物の出土量が 最も多く、また多数の遺構が確認されたのは縄文時代早期後半でありますが、この時 期については第1分冊で報告しております。縄文時代前期以降については、縄文時代 後期前半の竪穴住居跡、後期~晩期の陥し穴や中・近世の掘立柱建物跡などの遺構が 検出されています。上の原第1遺跡(B地区)においては後期旧石器時代の礫群や縄 文時代早期の陥し穴状遺構が検出されております。

白ヶ野第2・3遺跡、上の原第2遺跡では陥し穴状遺構が発見されておりますが、 近年、県内の調査でも発見されつつあり、縄文時代の狩猟の形態などを知る上で好資 料であります。ここに報告する内容が、学術資料としてだけではなく、学校教育や生 涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助となれば幸い です。

なお、発掘調査にあたりましては、多大なご協力をいただいた地元の方々をはじめ、 関係各位に対し心から感謝申し上げます。

平成14年3月29日

宮崎県埋蔵文化財センター 所長 矢野 剛

例 言

- 1 本書は、東九州自動車道(清武~西都間)建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した白ヶ野第2・第3遺跡(第2分冊)、上の原第1遺跡(B地区)の発掘調査報告書である。白ヶ野第2・第3遺跡については縄文時代前期以降についての報告であり、縄文時代草創期、早期の遺構・遺物については宮崎県埋蔵文化財センター調査報告書第52集 白ヶ野第2・第3遺跡(第1分冊)に掲載している。なお、神子柴型石斧については、第1分冊で報告しているが、その後、刃部において剥片の接合が確認されたのでその状況を本書で報告している。
- 2 白ヶ野第2・第3遺跡は、発掘調査・整理作業中は「白ヶ野遺跡」と称していたが、清武町教育委員会発行の遺跡詳細分布調査報告書の遺跡名に合わせ、遺跡名を標記のとおり変更する。ただし、現地での記録や遺物注記などの記録類については変更を加えていない。
- 3 南九州では、通常、アカホヤ火山灰をもって縄文早期と前期を区分し、轟A式は早期、轟B式からを前期しているが、本書では北部九州の土器編年に従い、轟A式からを前期として報告している。
- 4 上の原第1遺跡(B地区)におけるテフラ、植物珪酸体分析については、(株)古環境研究所に委託した。
- 5 現地での平面図作成・写真撮影は、各調査員が行った。
- 6 整理作業は、宮崎県埋蔵文化財センターで行い、遺物の実測、製図は整理作業員の協力のもと 各調査員が行った。
- 7 白ヶ野第2・第3遺跡については、青山尚友、竹井眞知子、面髙哲郎、谷口武範、藤木聡が協同して執筆し、上の原第1遺跡については日髙広人が執筆した。
- 8 本書の編集は、面髙、日髙が行った。
- 9 本書で示す北は、基本的に磁北 (M. N.) である。座標北 (国土座標第Ⅱ系) を示す場合は「G. N」と標記している。
- 10 土層断面図および土器の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準 土色帳』による。
- 11 本書で示した遺構の略号は、以下のとおりである。

SA:竪穴遺構、竪穴住居跡 SB:掘立柱建物 SC:土坑、陥し穴状遺構

SE:溝状遺構 SI:礫群、集石遺構

12 出土遺物および記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

図面・観察表に関して

土器実測図

- 1 土器実測図の縮小率は、1/3を基本にしている。これは実物大で作成した原図を33.3%縮小したものである。完形品については1/4としている。
- 2 土器実測図の径の推定は、原則として1/6以上残存している場合に行った。ただし、縄文土器に関しては歪みの大きい個体もあり、状況に応じて判断している。
- 3 径の復原に至らなかった土器個体については、基本的に左から外面、内面の順に拓影によって 文様・調整を表現している。
- 4 土器の傾きの確定しないもの、疑問が残る場合については口縁部線を破線で表現した。ただし、その他の個体でも、特に小破片、胴部のみの破片に関しては、必ずしも確定した傾きでないことを明記しておきたい。

- 5 波状口縁を呈する土器の中で、径の復原に至らなかったものについては、下図のような「記号」で示している。
- 6 土器の調整の表現に関して、ケズリとの境には、▲印を付している。

土器観察表

- 1 胎土については、混入物の中で特徴的な物質の色調、大きさを記している。鉱物名は、肉眼で明確に判断できる場合のみ記入した。
- 2 調整・文様の中で、「丁寧なナデ」は器面に擦過痕の残らないような場合、「ケズリ状ナデ」 「工具ナデ」は、器面にヘラ状工具による粗い擦過痕の残る場合で、特に前者については、他の 調整部位との間に稜線を形成する。

石器実測図

- 1 石器実測図の縮小率は、細石刃・細石刃核が1/1、敲石類・礫器が1/3、石皿類が1/4であり、それ以外はすべて2/3に統一している。
- 2 欠損部をもつ石器実測図は、表面・側面にのみ復元線を入れた。裏面に入れていないのは、欠 損後の石器の形をよく理解するためである。
- 3 剥離のうち、調査中に欠損するなど、明らかに新しい剥離(欠損)に関しては、稜のみ図化し、 リングを抜いている。
- 4 人為的と考えられる微細剥離・磨面・ナレ面・凹面を持つ石器実測図中には、その範囲を「← ーー→」で表現した。なお、微細剥離・磨面・ナレ面・凹面が明確でない場合は、「←・・・」で表した。
- 5 4と関係し、磨石の磨面の範囲はうすいトーンで示した。石皿類のナレ面・凹面についても同様である。
- 6 今回の遺物整理の中で、石器全体の接合作業は行えていない。ただし、一部の石器について接合できたものは、図と図の間に「1---→」を示し、接合関係を表した。

石器観察表

- 1 表の内容は、左からレイアウト番号である図No、出土位置である層・グリッド・番号、器種、石器の計測値である長・幅・厚・重量、石材、備考の順になっている。
- 2 報告中では、石器個々の細かな出土位置については触れておらず、大まかな出土傾向の提示までとなっている。したがって個々の石器の細かな出土位置については表中の層・グリッド・番号を参照されたい。
- 3 器種名は一般的に用いられているものをそのまま使用した。器種分類が明確でない場合も多く、 その点については、備考中で触れている。
- 4 計測値は、現存部位での長・幅・厚・重量の最大値である。値の単位は、長・幅・厚は「cm」、 重量は「g」である。重量の計測は、石皿類は体重計を使用したほかは、0.1gまで計測可能の電 子秤を使用した。
- 5 石材名は、青山尚友氏(現在宮崎県総合博物館)の肉眼観察による分類をもとに、藤木が付与 した。石材名は、6の略号を用いた。なお、自然科学的分析は一切行っていない。
- 6 石材名の略号
 - Ob=黒色黒曜石(南九州系・西北九州系も含むか)Obl=白色黒曜石(大分県姫島産)Ob2=青灰色黒曜石(西北九州系)An=安山岩(大分県姫島産、香川県五色台ほか産、南九州系)南九州系)Rh=流紋岩Ch=チャートK=珪岩Sh=頁岩KSh=珪質ラルト岩質頁岩Sl=シルト岩KSl=珪質シルト岩S=砂岩Os=尾鈴山酸性岩Q=水晶Hl=ホルンフェルス
- 7 備考には、石器の加工、欠損状況、推定石材産地などの特記事項を記した。したがって、本文中では石器個々については詳述することはせず、全体の傾向を示すにとどめた。

本文目次

第一編 は		
第[章 (まじめに	
第1節	調査に至る経緯と経過	
第2節	調査組織	
第3節	遺跡周辺の地形	
第4節	周辺遺跡	. 6
	ケ野第2・第3遺跡	
第 I 章 i	遺跡の概要	
第1節	遺跡の基本層序	
第2節	調査の概要	
第Ⅱ章 副	調査の成果	• 16
第1節	縄文時代前期以降の遺構と遺物	
1	遺構と遺物	
2	包含層出土の土器	• 27
3	包含層出土の石器	. 52
第2節	弥生時代以降の遺構と遺物	
1	遺構	
2	遺物	
第3節	神子柴型石斧	
第Ⅲ章	まとめ	. 99
	D原第1遺跡(B地区)	
第 [章]	調査の経過と概要	
第1節	遺跡周辺地形と調査区の設定	
第2節	遺跡の基本層序	
第3節	調査の概要と経過	
第Ⅱ章 謞	凋査の成果	
第1節	旧石器時代の遺構と遺物	
1	遺構	
2	遺物	
第2節	細石刃石器群の遺物	
第3節	縄文時代草創期の遺物	
第4節	縄文時代早期の遺構と遺物	
1	遺構	·131
2	遺物	
)土器	
)石器	
第5節	縄文時代晩期の遺物	
第6節	弥生時代以降の遺物	
1	土器	
2	石器	·145
	自然科学分析	
	上の原第1遺跡(B地区)のテフラ分析	
第2節	上の原第1遺跡(B地区)の植物珪酸体分析	·150
第Ⅳ章	まとめ	·154
	挿 図 目 次	
第一編 はし	ごめに	
	- Substitution	. Д
	遺跡の位置及び周辺遺跡分布図	

第二編 白	ケ野第2・第3遺跡	
第1図	B区(N-6) 東壁土層図	13
第2図	遺構分布模式図	15
第3図	SA1・SA2遺構及び出土遺物実測図	17
第4図	SA2出土遺物実測図	18
第5図	SA3遺構及び出土遺物実測図	19
第6図	SA4遺構及び出土遺物実測図	21
第7図	SA4出土遺物実測図	22
第8図	SA5遺構及び出土遺物実測図	23
第9図		25
第10図	S C 3 、 S C 4 出土遺物実測図	26
第11図	S C 4、包含層出土土器実測図(1) ······	31
第12図	包含層出土土器実測図(2)	32
第13図	包含層出土土器実測図(3)	33
第14図	包含層出土土器実測図(4)	34
第15図	包含層出土土器実測図(5)	35
第16図	包含層出土土器実測図(6)	36
第17図	包含層出土土器実測図(7)	37
第18図	包含層出土土器実測図(8)	38
第19図	包含層出土土器実測図(9)	39
第20図	包含層出土土器実測図(10)	40
第21図	包含層出土土器実測図(11)	41
第22図	包含層出土土器実測図(12)	42
第23図	包含層出土土器実測図(13)	43
第24図	S C 4、包含層出土土器実測図(14) ······	44
第25図	包含層出土石器実測図(1)	54
第26図	包含層出土石器実測図(2)	55
第27図	包含層出土石器実測図(3)	56
第28図	包含層出土石器実測図(4)	57
第29図	包含層出土石器実測図(5)	58
第30図	包含層出土石器実測図(6)	59
第31図	包含層出土石器実測図(7)	60
第32図	包含層出土石器実測図(8)	61
第33図	包含層出土石器実測図(9)	62
第34図	包含層出土石器実測図(10)	63
第35図	包含層出土石器実測図(11)	64
第36図	包含層出土石器実測図(12)	65
第37図	包含層出土石器実測図(13)	66
第38図	包含層出土石器実測図(14)	67
第39図	包含層出土石器実測図(15)	68
第40図	包含層出土石器実測図(16)	69
第41図	包含層出土石器実測図(17)	70
第42図	包含層出土石器実測図(18)	71
第43図	包含層出土石器実測図(19)	72
第44図	包含層出土石器実測図(20)	73
第45図	包含層出土石器実測図(21)	74
第46図	包含層出土石器実測図(22)	75
第47図	包含層出土石器実測図(23)	76
第48図	包含層出土石器実測図(24)	77
第49図	包含層出土石器実測図(25)	78
第50図	包含層出土石器実測図(26)	79
第51図	包含層出土石器実測図(27)	80

第52区		
第53図	包含層出土石器実測図(29)	82
第54図	掘立柱建物跡実測図(1)	92
第55図	掘立柱建物跡実測図(2)	93
第56図	包含層出土土器、須恵器実測図	95
第57図	包含層出土土器、陶磁器実測図	96
第58図		
	上の原第1遺跡(B地区)	00
第1図		120
第2図		
第3図	旧石器時代の遺構及び遺物分布図	
第4図	礫群(SI)実測図(1)	
第5図		
第6図	旧石器時代遺物実測図(1)	
第7図	旧石器時代遺物実測図(2) ····································	
第8図	細石刃石器群遺物分布図	
第9図	細石器実測図	
第10図	縄文時代早期遺構分布図	
第11図	土坑・陥し穴状遺構(SC)実測図及び出土遺物実測図	
第12図	縄文時代草創期~早期遺物分布図	
第13図	縄文時代早期遺物分布図(2)	
第14図	縄文時代草創期~早期土器実測図	
第15図	縄文時代早期石器実測図(1) ····································	
第16図	縄文時代早期石器実測図(2) ····································	
第17図	縄文時代早期石器実測図(3) ····································	
第18図	縄文時代晚期土器実測図	
第19図	弥生時代終末~古墳時代土器実測図	
第20図	弥生時代石器実測図	
第21図	C 1 1 グリッド土層柱状図 ····································	
第22図	第3トレンチ(T3)土層柱状図 ····································	
第23図	C 1 1 グリッド植物珪酸体分析結果	
第24図	第3トレンチ (T3) 植物珪酸体分析結果	
Marie	が 0 1 0 7 (1 0 7)	100
	表目次	
	衣 日 久	
第一編	白ケ野第2・第3遺跡	
第1表	周辺の主な既調査遺跡	8
第二編	白ケ野第2・第3遺跡	
第1表	石器観察表(1)	22
第2表	土器観察表	45
第3表		
表4表		
	上の原第1遺跡	- •
第1表		130
	上の原第1遺跡 (B地区) 縄文土器観察表 ····································	
	上の原第1遺跡(B地区)石器計測表(2) ····································	
	上の原第1遺跡 (B地区) のテフラ検出分析結果	
第5表		
	植物珪酸体分析結果	
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

第一編 はじめに

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と経過

東九州自動車道の延岡~清武間は、平成元年2月に基本計画がなされ、平成3年11月には西都 ~清武間が整備計画路線となっている。西都~清武間は平成5年11月に建設大臣から日本道路公 団に施行命令が出され、道路公団は平成6年から事業に着手している。

その間、宮崎県教育委員会文化課では、平成3年度に西都~清武間及びその周辺の遺跡詳細分布調査を行っている。西都~清武間の路線内にかかる遺跡は33遺跡である。この遺跡の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響を受ける部分については工事着手前に発掘調査を実施することとなった。

宮崎市古城町・清武町大字船引地内においては、台地上に立地する白ケ野第2・第3遺跡、上の原第1遺跡が路線にかかり、平成7年度から発掘調査を実施することになった。白ケ野第2・第3遺跡は、平成7年6月7日から平成8年9月30日まで、上の原第1遺跡平成7年7月21日から平成7年11月1日までの間実施した。上の原第1遺跡は、県営特殊農地保全整備事業実施に伴い今回の調査地の西を発掘調査していたので東九州自動車道部分については「B地区」と呼称することにした。白ケ野第2・第3遺跡は、前述の詳細分布調査の報告書では、「上の原・白ケ野遺跡」とされ、縄文時代から中世に至る時代・時期の散布地とされた1)。このため、当初より「白ケ野遺跡」という遺跡名で事業が進められたが、一方、例言でも触れられているとおり、清武町教育委員会による詳細分布調査の報告書では、当該地の北側(宮崎市側)が白ケ野第3遺跡、南側が白ケ野第2遺跡となっている2)。既刊行の近隣遺跡の報告書では、この辺りの遺跡名に混乱が見られる3)。それは、小さな谷地形で区切られる部分があるとはいえ、実態としては台地上の連続する遺跡群であり、「線引き」が難しいことによるものと考えられる。ここでは、命名当初の遺跡名に立ち返り、白ケ野第2・第3遺跡と称することにした。

(注)

- 1 宮崎県教育委員会『東九州自動車道関連遺跡詳細分布調査報告書(西都~清武間)』 1992
- 2 清武町教育委員会『清武町遺跡詳細分布調査報告書 清武町埋蔵文化財調査報告書4』 1990
- 3 宮崎県教育委員会『上の原第3遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書13』 1999 など.

第2節 調査組織

調査組織は以下のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

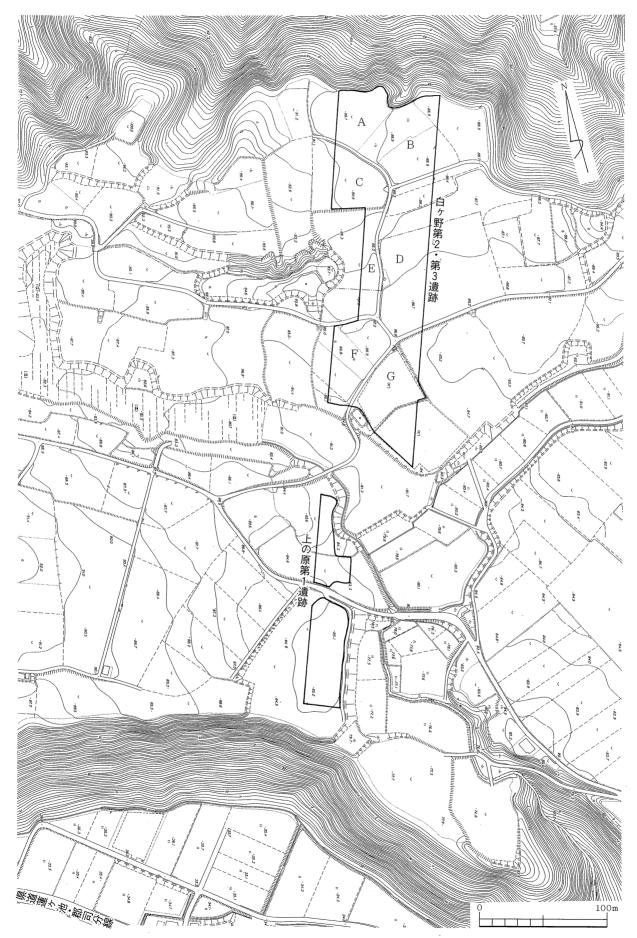
教育長 田原 直廣

教育次長 八木 洋・中田 忠(平成7年度)

川崎 浩康・河野 聚 (平成8年度)

文化課長 江崎 富治

課長補佐 田中 雅文(平成7年度)・稲田 憲男(平成8年度)



第1図 発掘調査対象区域

(平成7年度) 文化課が調査を実施

主幹兼埋蔵文化財第二係長 岩永 哲夫

埋蔵文化財第二係主査 園田 和宏(調査担当) 同主事 戸高 真知子(調査担当)

調查員 白岩 修

(平成8年度) 埋蔵文化財センターが調査を実施

所 長

藤本 健一

副所長兼調査第一係長

岩永 哲夫

調查第一係主查 青山 尚友(調查担当) 同主查 日浅 雅道(調查担当)

調査員 井田 篤

遺物整理は、宮崎県埋蔵文化財センターで実施した。

(平成13年度)

所 長

矢野 剛

副所長兼総務課長

菊地 茂仁

副所長兼調査第二課長

岩永 哲夫

調査第一課長

面高 哲郎

総務課総務係長

亀井 維子

調査第一課調査第一係長

谷口 武憲

総務課総務係主任主事

上野 広宣

第3節 遺跡周辺の地形(第1図)

高岡町西方の山地は、標高 200~400mの丘陵状地形を呈し、急傾斜の谷が多く刻まれている。地質は四万十累層群とよばれる砂岩、頁岩、珪質頁岩、チャート、塩基性岩などから成る。田野盆地は清武川の上流に位置し、北の高岡山地と南の鰐塚山地に挟まれた凹地に周囲から砂礫が流れ込み、その上をシラスや火山灰層が覆って平坦な地形を形成している。宮崎市から清武町にかけて分布する丘陵および台地状の地形のうち大淀川より南の清武町から高岡町にかけての丘陵は大淀川南岸丘陵とよばれる。丘陵の高さは西方の高岡山地から東に向かってしだいに低くなり標高約 100mの平坦な台地状地形に変わる。本遺跡はこの台地状地形の上に立地する。清武川より南の丘陵は清武川南岸丘陵とよばれ、清武町から田野盆地にかけて広がっている。

河川は大淀川と清武川が日向灘へ注いでいる。大淀川は都城盆地から宮崎平野へ東流する宮崎県内最大の一級河川である。途中で岩瀬川と本庄川の流れを加えて水量を増し、宮崎市に入ると蛇行をくり返しながら氾濫原を広げ、沖積平野を形成している。清武川は田野盆地から宮崎平野に流れる二級河川である。田野盆地から清武町にかけて川の両岸には段丘地形が顕著に発達している。この段丘地形は宮崎平野が第四紀洪積世に数次の隆起をくり返した結果形成されたものである。また清武川両岸の段丘崖には、礫が露出している。これは平衡状態にあった河川が地盤の隆起によって再び下刻浸食が活発となり河床面が下がった結果、旧河床や氾濫源に堆積した砂礫が崖にあらわれたものである。

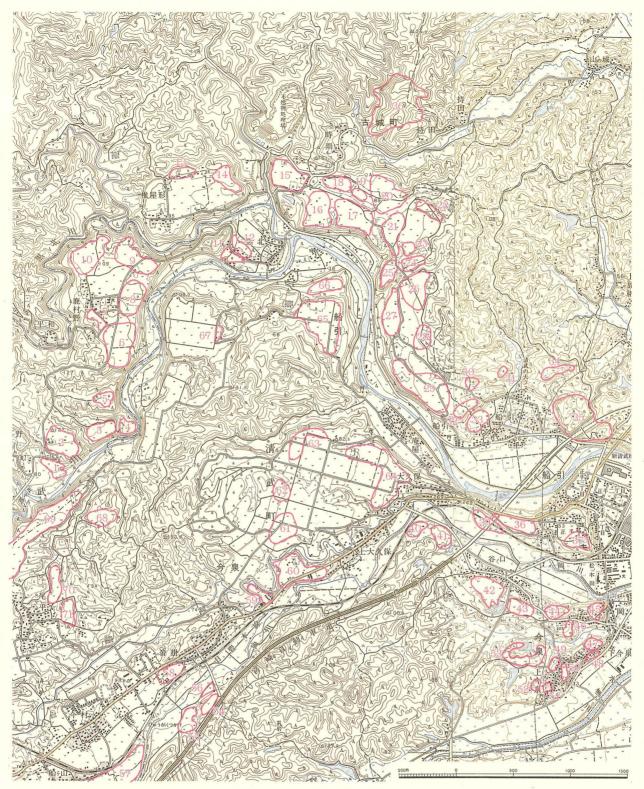
第4節 周辺遺跡

自ケ野第2・第3遺跡、上の原第1遺跡は、東西に延びる標高約90mの台地上に立地する。遺跡の北では谷を挟んで丘陵地が発達している。南では眼下に清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられ、その上位には台地が発達している。白ケ野第2・第3遺跡周辺では多数の遺跡が確認されているが、その立地場所は河岸段丘や台地上である。昭和60年代以降、台地上では特殊農地保全整備業などの開発事業が実施されており、それに伴い各遺跡で発掘調査が実施されている。その調査結果の概要は、第1表のとおりである。表に掲載している25遺跡では、各時代・時期の遺構・遺物が検出されており、旧石器時代の遺構・遺物は10遺跡で、縄文時代の遺構・遺物は25遺跡全ての遺跡で、弥生時代の遺構・遺物は6遺跡で、古墳時代の遺構・遺物は4遺跡で、古代の遺構・遺物は6遺跡で、中〜近世の遺構・遺物は5遺跡で検出されている。全ての遺跡で縄文時代の遺構・遺物が検出されているのは、調査例が台地上中心ということからきていると考えられる。

旧石器時代の遺物は、AT上位でナイフ形石器などが出土し、遺構は滑川第2遺跡、下星野遺跡 C区の2遺跡で集石遺構(礫群)が検出されている。小林軽石層(Kr-Kb)上位で細石刃などが 出土しているが、土器と供伴するのか否かが課題となっている。

縄文時代の遺構・遺物は25遺跡全ての遺跡で検出されている。時期別に見てみると草創期が5遺跡、早期が23遺跡、前期が9遺跡、中期が5遺跡、後期が11遺跡、晩期が6遺跡となっている。草創期の遺跡については5遺跡あり、この時期としては高い密度であり、さらに椎屋形第1遺跡では多くの隆帯文土器やのみ形石器など注目される遺物が出土している。早期は23遺跡あり、極めて高い密度で分布しており、大半の遺跡で集石遺構が検出されている。その基数も数十基と大規模な遺跡になる場合が多い。また、椎屋形第2遺跡では早期前半の連結土坑が検出されているが、最近、県内で検出例が増加している遺構である。前期については9遺跡、中期については5遺跡と少なくなり、また、遺跡の規模も小さくなり、遺物の出土量も少なくなる。後期になると11遺跡と数は若干増加しているのみの感があるが、上の原第3遺跡では後期前半~中頃の竪穴住居跡が47軒、竹之内遺跡でもほぼ同時期の竪穴住居跡が51軒検出されて、また、後者の遺跡では岩偶、土偶も出土しており、前時期とは様相が一変している。晩期については、また、6遺跡と少なくなり、遺跡の規模も小さくなり、遺物は、前半の孔列文土器などが出土している。清武川流域におけるこのような縄文時代の遺跡のあり方は特筆されるところである。

縄文時代以降については、弥生時代が6遺跡、古墳時代が6遺跡と少なくなるが、これは調査例などが台地上に多いためであり、この時代以降の遺跡の立地条件が縄文時代とは異なっているためである。今後、低地の調査が進むことによって遺跡数は増加すると推定している。この中にあって古代、特に平安時代と推定される遺跡が規模は小さいながらも6遺跡が点在しているが、今後、当時代を考える際には注意する必要があると思われる。



- 第2図 遺跡の位置及び周辺遺跡分布図 1 堀ノ下第2遺跡 2 堀ノ下第1遺跡 3 突星ケ野第3遺跡 4 突星ケ野第2遺跡 5 突星ケ野第1遺跡 6 前ノ原第2遺跡
- 7 古木場遺跡 8 前ノ原第1遺跡 9 ズクノ山第2遺跡 10 ズクノ山第1遺跡 11 黒北南第2遺跡 12 黒北南第1遺跡
- 13 椎屋形第2遺跡 14 椎屋形第1遺跡 15 上の原遺跡 16 上の原第2遺跡 17 上の原第1遺跡 18 上の原第3遺跡
- 19 上の原第4遺跡 20 白ケ野第2・第3遺跡 21 白ケ野第1遺跡 22 白ケ野第4遺跡 23 滑川第3遺跡 24 滑川第2遺跡
- 25 滑川第1遺跡 26 山田遺跡 27 坂元第2遺跡 28 坂元第1遺跡 29 上猪ノ原遺跡 30 札立第2遺跡 31 札立第1遺跡
- 32 下猪ノ原遺跡遺跡 33 園田遺跡 34 不動迫遺跡 35 清武城跡 36 本城跡 37 井手ノ城遺跡 38 下ノ原遺跡 39 小原遺跡
- 40 通山第1遺跡 41 通山第2遺跡 42 谷ノ口遺跡 43 岡第1遺跡 44 岡第2遺跡 45 岡第4遺跡 46 岡第3遺跡
- 47 中泉遺跡第1地区 48 中泉遺跡第2地区 49 中泉遺跡第4地区 50 中泉遺跡第3地区 51 中泉遺跡第5地区
- 52 中泉遺跡第6地区 53 竹ノ山遺跡 54 小原遺跡 55 小原第2遺跡 56 小原第3遺跡 57 元木遺跡 58 上ノ原遺跡
- 59 下ノ原遺跡 60 永ノ原遺跡 61 下星野遺跡C区 62 下星野遺跡A区 63 杉木原遺跡 64 竹之内遺跡 65 権現原第1遺跡
- 66 権現原2遺跡 67 牧原遺跡 68 穴ノ口遺跡 69 楢原遺跡 70 山田第1遺跡 71 山田第2遺跡

第1表 周辺の主な既調査遺跡

番号	遺跡名	時代・時期	主 な 遺 構	主 な 遺 物	主な文献
9	ズクノ山第2	縄文早期 縄文前期 縄文中期 縄文後期	集石遺構65、配石遺構6	中原 I 式併行、知覧式、桑ノ丸式、手向山式、押型文土器、石鏃、石槍、石匙、磨石、局部磨製石斧曽畑式春日式(船元式) 沈線文土器、磨消縄文土器(中津式)	田野町文化財調査報告書第30集 前ノ原第2遺跡 ズクノ山第2遺跡
6	前ノ原第2	縄文早期 縄文後期 古代	集石遺構27、	岩本式?、前平式、中原 I 式併行、押型文、手向山式、平拵式、石鏃、石斧、縦斧(or鑿) 土器 布痕土器	上に同じ
14	椎屋形第1	縄文草創期 縄文早期 弥生中末~後初	集石遺構2 竪穴住居跡(花弁状) 掘立柱建物跡(棟持柱)	隆帯文土器、爪形文土器、のみ形石器、蔵石、局部磨製石斧、台石、磨石 中原 I 式併行、石鏃、石匙、石錘 中溝式タイプ、磨製石鏃、磨石、石皿、台石、石庖丁、 鉄鏃、鑓鉋?、石製装身具	宮崎市文化財調查報 告書第32集 椎屋形遺跡
13	椎屋形第2	縄文草創期 縄文早期	集石遺構69、連結土坑24、 土坑21	隆带文土器、爪形文土器 前平式1、知覧式、吉田式1、中原 I 式併行、押型文1、 石鏃、尖頭器、磨石、敲石、局部磨製石斧 、楔形石器	14同じ
16	上の原第2	後期旧石器 縄文早期 縄文中末~後中 近世	集石遺構45、礫群 1 竪穴(住居跡)47、土坑66 配石土坑、道路状遺構、 掘立柱建物跡8、土壙144	ナイフ形石器 中原 I 式併行、知覧式、手向山式、平拵式、石鏃石斧、凹石 指宿式、松ノ木式?、市来式、丸尾式、納曽式、辛川Ⅱ式 石製装身具、石皿、凹石、石錘、石斧、石鏃	17に同じ
17	上の原第1	縄文草創期 縄文草期 縄文草前期 縄文中期 縄文陀期 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	竪穴(住居跡)、土坑、石 組炉 土坑 竪穴住居跡6 土器埋納土坑 溝状遺構4 道路状遺構1	隆帯文土器? 前平式、押型文土器、平拵式 曽畑式 春日式(轟木ケ迫段階)、大平式 石剣、石皿、石錘 夜臼式、磨研土器 壺、甕、石包丁、砥石、石皿 壺、甕(1点は搬入布留式甕)、高坏形土器、手捏ね土器	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第25集(第1分冊) 上の原第2遺跡 上の原第1遺跡 上の原第4遺跡 白ケ野第3遺跡A地区
18	上の原第3	後期旧石器 縄文早期 縄文後期 古墳中~後期 古代	礫群2、集石遺構9 竪穴住居跡10	細石刃 知覧式、押型文土器、平拵式、 丸尾式、 須恵器、土師器、磨石、砥石、打製石斧、鉄鏃 土師器坏	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告 書第13集 上の原第3遺跡
19	上の原 4	後期旧石器(Kr-Kb下) 縄文草創期 縄文早期	集石遺構3	ナイフ形石器、三稜尖頭器、石核 隆帯文土器?、爪形文土器、岩本式? 前平式、桑ノ丸式、平拵式、塞ノ神式、石鏃、尖頭器、 凹石、磨石、石皿、台石	17に同じ
20	白ケ野第2 ※遺跡を第3か ら第2に修正	縄文早期 縄文後期・晩期 古代	集石遺構11 竪穴住居跡(竈付き)	手向山式 丸尾式、孔列文土器、夜臼式、磨研土器 甕形土器、布痕土器、内黒土師器、土師器坏、雁股鏃	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第25集(第
20	白ケ野第3	縄文早期	集石遺構 9	下剥峰式、押型文土器、手向山式、撚糸文土器、天道ケ 尾式、平拵式、塞ノ神式 (撚糸文)、石鏃,石匙、異形 石器、磨石	2分冊)白ヶ野第3遺跡B 地区
21	白ヶ野第1	後期旧石器 縄文早期 縄文前期 縄文晩期 時期不詳(Ah上)	集石遺構13 土坑 107	スクレイパー 押型文土器、手向山式 曽畑式 孔列文土器	清武町埋蔵文化財調 査報告書第5集 白ケ野第1遺跡・白 ケ野第4遺跡
22	白ケ野第4	縄文早期	集石遺構 7、土坑 2	下剥峰式、押型文土器、平拵式、石鏃、石製装身具、石匙	21に同じ
23	滑川第3	後期旧石器(AT直上) 縄文早期 縄文前期	集石遺構36、陥穴2、土坑8	ナイフ形石器、石核 桑ノ丸式、平拵式、 曽畑式	清武町文化財調査報告書 第6集 滑川第1·第2遺 跡-1- 滑川第3遺跡
24	滑川第2	後期旧石器(AT直上) 後期旧石器(Kr-Kb下) 後期旧石器(Kr-Kb中) 縄文早期 縄文前期 時期不詳(Ah上)	集石遺構 (礫群) 3 集石遺構 (礫群) 集石遺構43、土坑16 竪穴住居跡 1	ナイフ形石器、ナイフ状剥片、チップ(黒曜石)、 剥片(頁岩) 剥片(頁岩) 下剥峰式、押型文土器、手向山式、平拵式(拵ノ原式)、 塞ノ神式、轟A式、石鏃、石皿、磨石 野口・阿多タイプ	25同じ 清武町文化財調査報 告書第7集 滑川第 1遺跡-2- 滑川 第2遺跡-2-

第1表 周辺の主な既調査遺跡

番号	遺跡名	時代・時期	主な遺構	主な遺物	主な文献
25	滑川第 1	縄文早期 縄文前期 縄文中期 縄文後期 時期不詳(Ah上)	集石遺構34 土坑 土坑 178、竪穴住居跡 2 土坑16 (高原スコを含む)	下剥峰式、押型文土器、手向山式、塞ノ神式、局部磨製石斧、石鏃、石匙 覇B式、野口・阿多タイプ、曽畑式、石核(黒曜石) 里木式 綾式、北久根山式	清武町文化財調査報告書第6集 滑川第1·第2遺跡-1-滑川第3遺跡清武町文化財調査報告書第7集 滑川第1遺跡-2-滑川第2遺跡-2-
29	小原遺跡	縄文前期 縄文晩期 古代		曽畑式、轟D式 黒色磨研土器、条痕文土器 、夜臼式、打製石斧 布痕土器、土師器坏	九州縦貫自動車道埋 蔵文化財発掘調査報 告書(3)
35	清武城跡	縄文後~晩期 弥生中期 古代 中世	空堀、虎口、掘立柱建物跡	鉢形土器、条痕文土器 下域式系、甕形土器(逆L字口縁)、 内黒土師器 青磁、白磁、染付、土師器皿・坏、擂鉢	29に同じ 城内遺跡として報告 あり
60	永ノ原	後期旧石器 縄文早期 縄文前期 縄文後期 弥生中末~後 時代不詳	集石遺構14 竪穴住居跡1 竪穴住居跡3、掘立柱建 物跡8	細石刃、細石核 前平式、下剥峰式、塞ノ神式、石鏃、凹石、砥石、石核 轟B式 沈線文土器、条痕文土器、 肥後系甕、ほか	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第33集 権現原第 1遺跡杉木原遺跡 水ノ原遺跡
61	下星野C区	後期旧石器 縄文早期	集石遺構3、土坑3 集石遺構10、土坑3	細石核、細石刃 岩本式? 、前平式、平拵式、塞ノ神式、石鏃	62に同じ
62	下星野A区	縄文早期 縄文後期 縄文晩期 弥生中、古墳後 中・近世	集石遺構 4、 土坑 1 竪穴住居跡 3 溝状遺構	前平式、桑ノ丸式、塞ノ神式、石鏃、スクレイパー 市来式、丸尾式、磨消縄文土器、 黒色磨研土器、条痕文土器 中溝式、二重口縁壺、高坏形土器	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告 書第47集 権現原第 1遺跡下星野遺跡
63	杉木原	後期旧石器後期(Kr-Kb中) 縄文草創期 縄文早期	集石遺構42、陥穴1 土坑3	ナイフ形石器、スクレイパー、細石刃、細石核、 隆帯文土器2、爪形文土器1 岩本式、中原 I 式併行、知覧式、下剥峰式、桑ノ丸式、 押型文,拵ノ原式、石鏃、磨石、凹石、石皿、蔵石	宮崎県埋蔵文化財センタ 一発掘調査報告書第33集 権現原第2遺跡 杉木原 遺跡 永ノ原遺跡
64	竹之内遺跡	後期旧石器 縄文早期 縄文後期 弥生後期 古代 中世	集石遺構37 竪穴住居跡51、土坑106 竪穴住居跡1 掘立柱建物跡3、溝状遺構5	ナイフ形石器、楔形石器、台形様石器、細石核 中原 I 式併行、桑ノ丸式、下剥峰式、平拵式、塞ノ神式、 石鏃、トロトロ石器、石錐 指宿式、市来式、寛野式、鐘ケ崎式、納曽式、石鏃、装身具 岩偶、土偶、打製石斧、磨製石斧、石錐、石錘、磨石、石皿 二重口縁壺、甕形土器、紡錘車 高坏形土器 布痕土器、甑、甕形土器、坩堝 土師器坏・皿、青磁、白磁、擂鉢、石鍋、土製羽釜	宮崎県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書第 27集 竹ノ内遺跡
65	権現原第1	縄文早期 縄文前期 弥生中末~後初 古墳中期	集石遺構 8 竪穴住居跡 2 竪穴住居跡 1	中原 I 式併行、知覧式、押型文、石鏃、石斧、石錘、磨石、凹石、敲石 轟B式、曽畑式 甕形土器(亀ノ甲タイプ、くの字口縁)、壺形土器 甕形土器、壺形土器、高坏形土器、小型丸底壺	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告 書第47集 権現原第 1遺跡下星野遺跡
66	権現原第2	縄文早期	集石遺構8	中原 I 式併行、知覧式、押型文土器、塞ノ神式、轟A式、石鏃、敲石	宮崎県埋蔵文化財センタ 一発掘調査報告書第33集 権現原第2遺跡 他
69	楢原	縄文早期 縄文後期 古代~中世	集石遺構 5 竪穴住居跡 1	手向山式土器、塞ノ神式 、石鏃 市来式系 土師器坏、布痕土器、甕形、白磁碗	宮崎県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書第 8集 楢原遺跡 他

第二編 白ケ野第2・第3遺跡

第 | 章 遺跡の概要

第1節 遺跡の基本層序(第1図)

白ケ野第2・第3遺跡の基本層序については第1分冊で詳細に説明しているので、ここでは縄文 前期以降の遺物を包含している層を中心としてその概要を説明する。

Ⅰ層:耕作土で褐灰色を呈する。

Ⅱ層:径2~3 mmのスコリアを含み、ざらざらしている褐灰色土。

Ⅲ層:細粒でしまりの弱い暗褐色土。炭化物粒を含む。

Ⅳ層:細粒でしまりの弱い黒褐色。

№層: しまりがなくさらさらしており、 2次アカホヤと通称しているにぶい黄褐色土。

Vb層: 黄橙色火山灰で、約6,300年前鬼界カルデラから噴出した「アカホヤ火山灰」の一次堆積 層である。Vb層の直下にはブロック状又は薄い層状に堆積している緑黒色土があり、こ れは霧島山の古高千穂峰を噴出源とする「牛の脛火山灰」に相当すると考えられる。

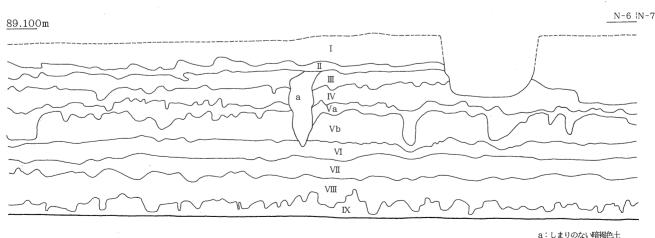
VI層:白色長石を斑点状に含み、硬く締まり、乾燥すると細かな方形のクラックが発達する黒 色土。炭化物粒を多く含む。

Ⅷ層:白色の長石を斑点状に含み、硬く締まり、層全体に明暗のまだら模様を呈する黒褐色土。 炭化物粒を含む。VI層とVII層の間には「桜島末吉」(p11、桜島嫁坂)と考えられるテフ ラがレンズ状に堆積している。

Ⅷ層:円又は楕円形をした明黄褐色土をまだら状に含み、やや硬く締まる黄褐色土。Ⅷ層の中 程には「桜島薩摩」(p14) 考えられるテフラが親指大塊状に点在している。

IX層:橙色軽石(霧島小林軽石)、青色岩片等の混じった塊状ブロックを含み、硬く締まる暗 褐色土。

この層序の中で、通常、県内ではVI層上層で縄文前期の轟A式が、Va層から上位の層では轟B 式以降の時期の遺物が包含されている。



a: しまりのない暗褐色土

第1図 B区(N-6) 東壁土層図

第2節 調査の概要(第2図)

調査地は東西方向に展開する標高約90mの台地にあり、その南北両縁は急崖となっている。台地と眼下の沖積地との比高差は約55mである。台地の中央部には西から或いは北東からのびてくる小谷があり、その小谷は合流して南へ延びている。小谷には小川が流れており、現在、西の小谷は湿地であり、東の小谷は水田として利用されている。また、合流点付近には湧水点が見られる。

道路予定地は、この合流点の東側近くを南北に横断する形になっており、南北約300m、東西50~80mが調査対象地となっている。調査地は広範囲に渡り、また、農道による分断や作物等による引き渡しの関係から調査着手時期が異なったため、着手時期や地形などを考慮して調査地をA~G区に区分して調査を実施している。さらに調査地全体には、国土座標を基に10mグリッドを設定している。A~G区は地形からの区分であるので、国土座標上のグリッドとは次のように整理している。A区(F~K-1~3区、F~J-4・5区)、B区(M~O-3区、K~O-4~10区)、C区(E~J-6~10区)、D区(I~M-11~16区、H~K-17~20区)、E区(F~H-11~16区、F・G-17・18区)、F区(D・E-18区、B~G-19~25区)、G区(D~H-26~30区)。

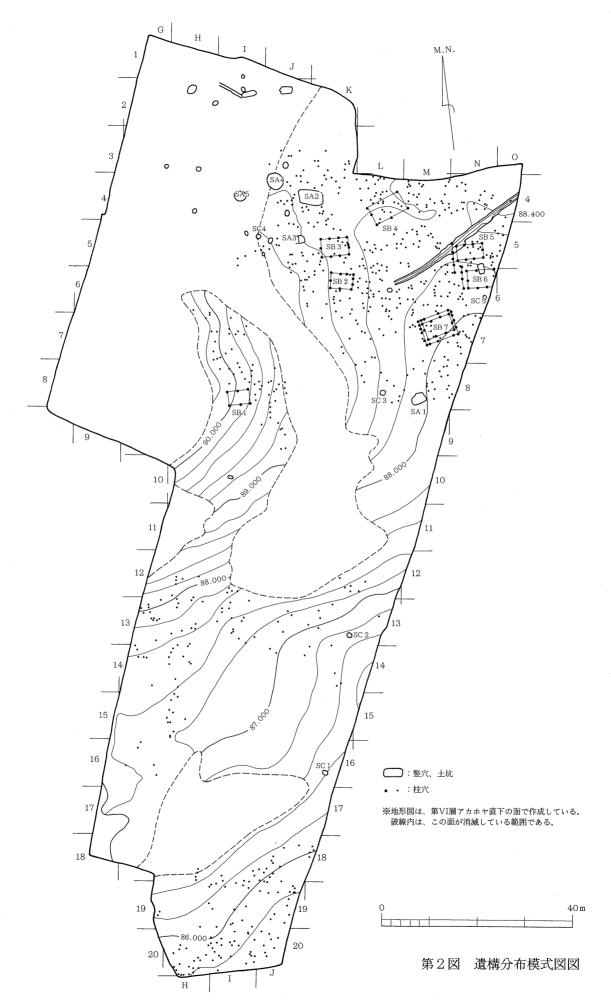
調査地は、調査区中央西のC区を最高位にしてA・B・D・E区に向かって傾斜しており、調査区全体としては、南北約300mに対して6mほどの比高差がある。基本層序は、第1節で説明したとおりであるが、当地は畑として整地されていたため、第 I 層表土を除去した下位の層は各区によって異なっている。その各区の状況は、A・B区については、A区西半部では第 I 層下の層がVI 層で東に行くほど層の残存度は良く、東端部では基本層序が認められる。B区の北半部のL-5区からN-7区方向には南東方向に傾斜する浅い谷がある。当区は本来東面する緩斜面であることがわかる。A区の南にあたるC区についても同様であり、西端ではXII 層のシラス、東端ではVa層アカホヤ下層となっている。調査区の境界とした農道部分では、その工事等により、第V層ないしその下位まで消滅している。

調査区の南半部にあたるD区では表土下は第 \mathbb{N} 層黒褐色土、 \mathbb{E} 区では \mathbb{N} \mathbb{N}

調査は、第 I 層を重機で除去し、第 II 層から第 V a 層については手堀りによる掘り下げを行っている。遺構については第 IV 層まではその確認が困難であったので、A 区北半分を除き、第 V a、 V b 層面で検出している。遺構は、調査区北半部のA・B 区中心に縄文時代の竪穴住居跡、竪穴遺構、陥し穴状遺構、古代から中・近世の掘立柱建物跡、溝状遺構などが検出されている。

縄文時代の遺構についてはA区とB区の境界付近を中心に検出されており、中期末から後期前半の竪穴遺構が $I\sim K-4$ 区周辺及びM-8区、晩期前半以降と推定される陥し穴状遺跡がI-5区、N-6区、L-8区、K-13区、K-16区に位置する。この時期の遺物は大半がA区で出土している。

古代から中世の遺構は、B区北半部びC区で検出され、この時期の遺物は検出遺構周辺で出土している。この他、調査区全域で調査対象外の近・現代の芋などの貯蔵穴である円形や長方形プラン



の土坑が列状に検出され、また、風倒木によると考えられる層の横転部も多く確認されている。

B区北東部($K \cdot L - 4$ 区、J - 6区)では、空中写真で褐色を帯びる黒色土が埋土である $10 \sim 20$ 列の小穴群が認められるが、調査中はその性格は不明で、畑の開墾などによる比較的新しい攪乱の可能性が高いととらえ簡単に記録したのみであった。この遺構は、平成 9 年度に検出された沖縄県名護市宇茂佐古島遺跡の $14 \sim 15$ 世紀の畑跡と考えられている小穴列に類似しているので、白ケ野第 $2 \cdot 第 3$ 遺跡で検出された小穴群も畑跡であった可能性がある。

第Ⅱ章 調査の成果

第1節 縄文時代前期以降の遺構と遺物

1、遺構と遺物

縄文前期以降の遺構は、竪穴遺構ないし竪穴住居跡(SA)が5基、陥し穴状遺構(SC)が5基検出されている。竪穴遺構は $J \cdot K - 4 \cdot 5$ 区周辺で4基、その南東約40離れたM - 8区に1基があり、竪穴4基については5m ~ 7 mの間隔をもって半円状に分布している。陥し穴状遺構5基の分布状況には纏まりは認められず、数10mの距離をもって分散している。

SA1 (第3図)

SA1は、M-8区に位置する。平面形は隅丸梯形を呈する竪穴である。長軸は東西方向で3.21 cm、短軸は東辺で約2.00 m、西辺で1.60 m、最大幅2.40 mを測る。壁高は20cmが計測される。柱穴は竪穴中央部の短軸方向に2個に配置されている。深さは40cm程が計測される。床面は、中央の柱穴付近より東半部が5程cm低くなっている。

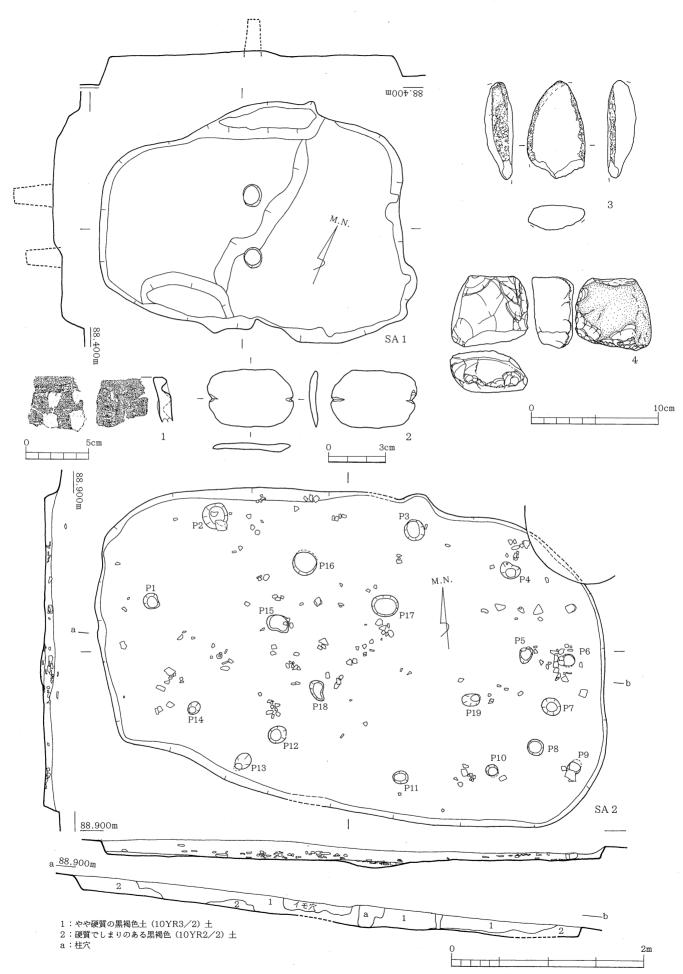
遺物は、床面近くで数点出土しているのみである。1は竹菅様工具による凹点文が2列認められる口縁部である。2は切目石錘である。素材は、厚さ4mm程度の小判状に薄い堆積岩系石材(砂岩か)である。礫の長軸両端に浅い切り込みをいれる。重量は8.7gと非常に軽い。

SA2 (第3·4図)

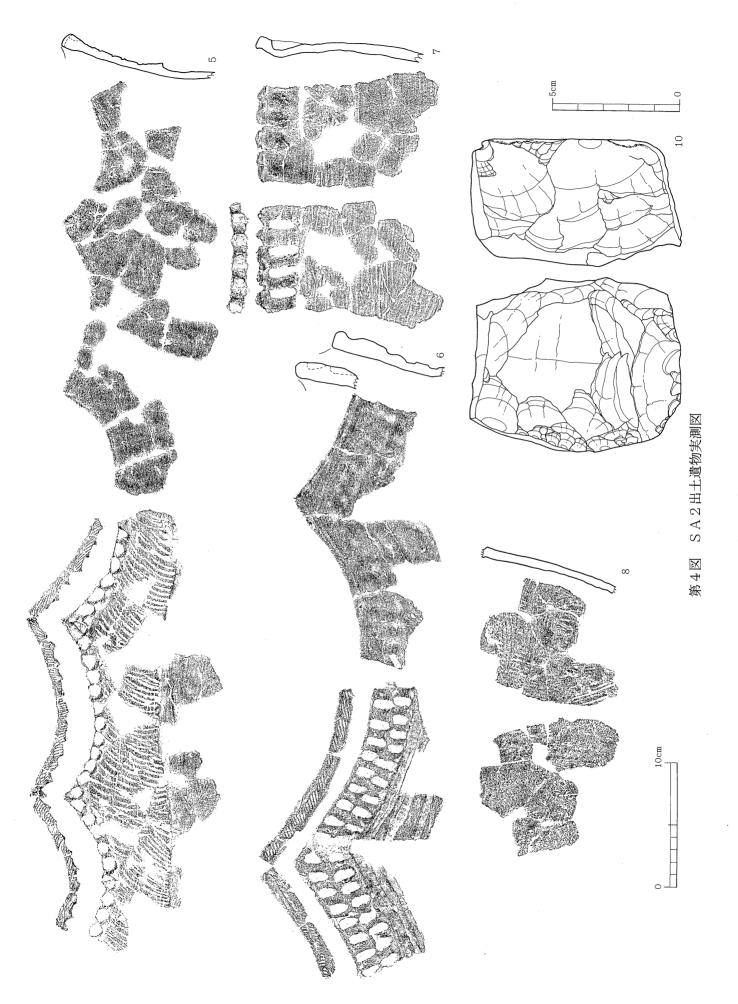
SA2は、J・K-4区に位置する。平面形はいびつな隅丸長方形状を呈する竪穴である。長軸は東西方向で5.41m、短軸は東辺で2.26m、西辺で3.22mを測る。壁高は削平を受けているため、遺存状況は悪く、 $10\sim15$ cmが計測されるのみである。竪穴内ではピットが20個検出されているが、竪穴住居跡に伴うと考えられる柱穴は $P1\sim P19$ で、住居内の外周に沿って $P1\sim P14$ が、 $P15\sim P18$ はほぼ中央に位置している。

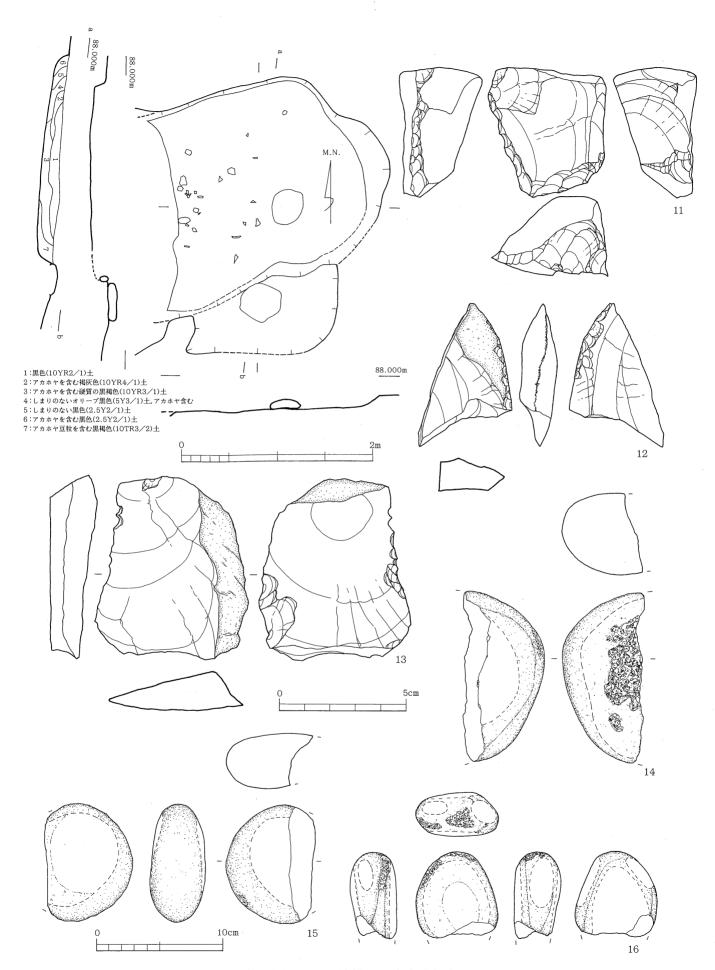
遺物は、若干の纏まりはもちつつも住居内全域から土器や石器が出土している。

3・4 は敲石である。3は磨石の転用であり、裏面には磨石の割面がそのまま残る。潰れは左両側面に帯状に見られ、右側面の方がより顕著に潰れる。割面表面の凹凸はやや摩滅した感があり、手擦れなどの原因が考えられる。砂岩製。4は河原礫を直方体に成形したもので、左側縁から下線の稜が摩滅する。砂岩製。3・4は潰れのあり方が近似する。5は波状の口縁部である。口縁部は緩やかに外反し、外面に肥厚部を作出し、上端に円形刺突文、その下位に貝殻腹縁による刺突文が施文



第3図 SA1・SA2遺構及び出土遺物実測図





第5図 SA3遺構及び出土遺物実測図

されている。口唇部には浅い短沈線文が見られる。器面調整は貝殻による調整後ナデている。色調は全体的に黄褐色をていしている。6 も波状の口縁部で、外面に肥厚部が作出され、その部分に長方形状の凹点文が二段施されている。その下位には凹線文が施文されている。器面はナデ調整である。7 は口縁外面に長方形状の凹点文が施され、内面にはそれによる瘤状の盛り上がりが認められる。口唇部には指頭による円形の深い刻目があり、小さな波状を呈している。8 は胴部下半部で内面に貝殻条痕文が認められる。10 は石核である。河原礫を分割し、礫面から不定形剥片を剥離する。石器の角の稜がやや摩滅する。砂岩製。

SA3 (第5図)

SA3は、J-5区に位置する竪穴である。竪穴の西半は風倒木により消滅しているが、平面形は隅丸長方形状と推定される。南辺には幅1.60 m、全長0.87 m程の張出部があり、10cm程高くなっている。長軸は東西方向で2.30 m、短軸は2.10 mが現存している。壁高は削平を受けているため、遺存状況は悪く、15cmが計測されるのみである。柱穴は確認されていない。埋土は黒色土をベースにしており、層によってはアカホヤが混入している。埋土の堆積はレンズ状である。

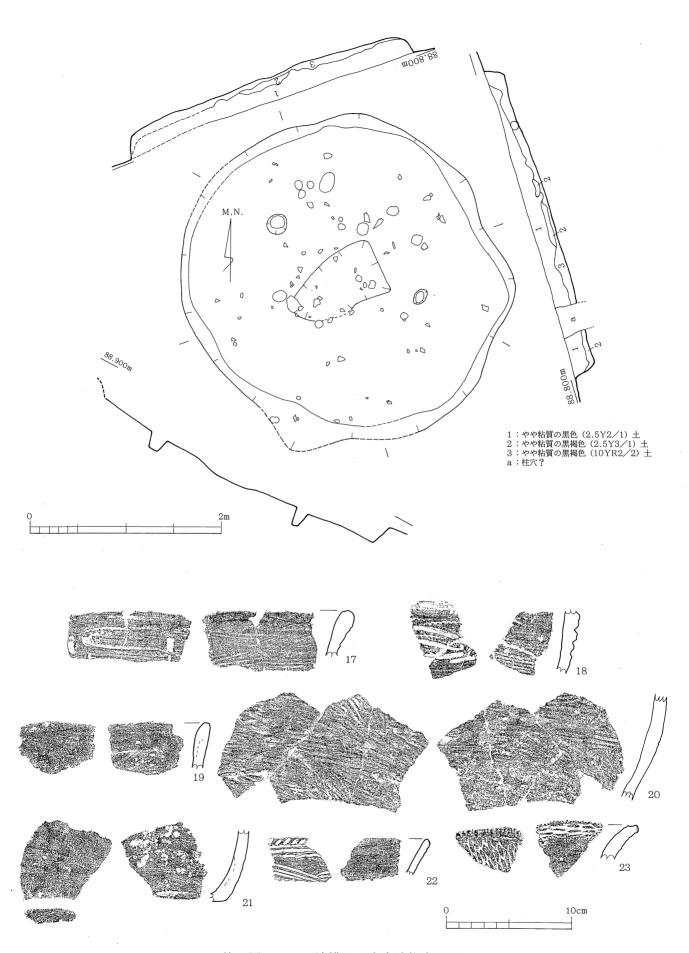
遺物は、長軸 40cm 程の扁平気味の河原石や掻器、削器、蔵石、磨石などが床面付近で出土している。土器の出土は確認されていない。11 は掻器である。砂岩製の石核を転用している。左側縁から下縁が刃部となる。12 は削器である。不定形剥片の端部に刃部を設ける。刃部の稜は摩滅する。砂岩製。13 は微細剥離のある剥片である。河原礫から剥離された縦長剥片の左側縁に微細剥離が残される。砂岩製。14 は鈍重な楕円礫を用いた台石である。表面にアバタ状の敲打痕がある。砂岩製。15 は磨石の可能性がある。表裏面の磨痕は顕著でない。側面にわずかに敲打痕が残る。16 は 敲石の可能性がある。端部を中心に弱い敲打痕が認められる。磨面は確認されない。砂岩製。

この他、石核1点、磨石1点、不定形剥片が多数ある。石核は砂岩製で4~5 cm角のサイコロ状を呈する。小形の不定形剥片が剥離されている。磨石は風化が著しく、磨痕が明確でない。砂岩製。なお、掻器・削器・石核に利用される砂岩は硬質、台石・敲石・磨石に利用されるそれは軟質である。

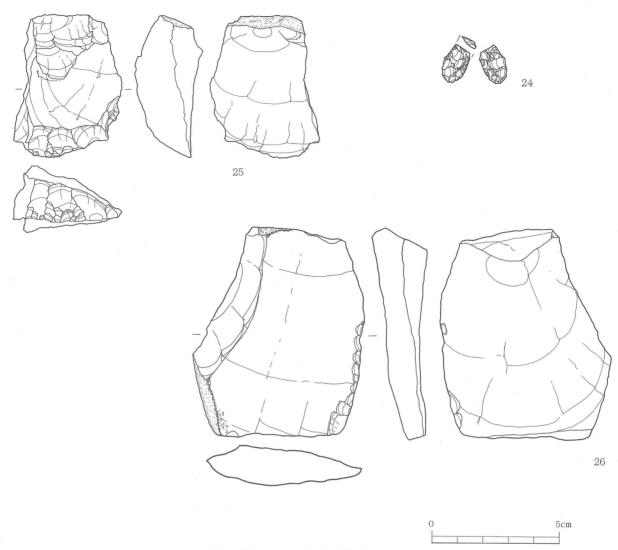
SA4 (第6図)

SA4は、J-4区に位置する。長軸は3.51 m、短軸は3.32 mを測り、平面形がほぼ円形に近い竪穴である。壁高は $17\sim35$ cmを測る。柱穴は2 個で略東西方向に配置されている。柱穴は2 15cm、20cm、深さ20cm 程が計測される。竪穴中央部の柱穴間には、四角形の浅い窪みが認められる。埋土は3 層に分層され、レンズ状に堆積している。

遺物は、床面付近で貝殻文系土器や石鏃、掻器などが出土している。この他、流れ込みではあるが縄文早期の平拵式土器 (22) や押型文土器 (23) も出土している。17は口縁部の沈線文が反転し、平行沈線文となっている。18は反転平行沈線文、貝殻腹縁刺突文のある口縁部付近であり、内面には貝殻条痕が見られる。19は口唇部を丸くおさめた口縁部で、器面はナデ調整である。20は内外面とも貝殻条痕文が見られる胴部下半部である。21は平底の底部で器面はナデ調整である。24は打製石鏃の脚である。漆黒色黒曜石製。下位包含層遺物の混入の可能性がある。25は分厚い縦長



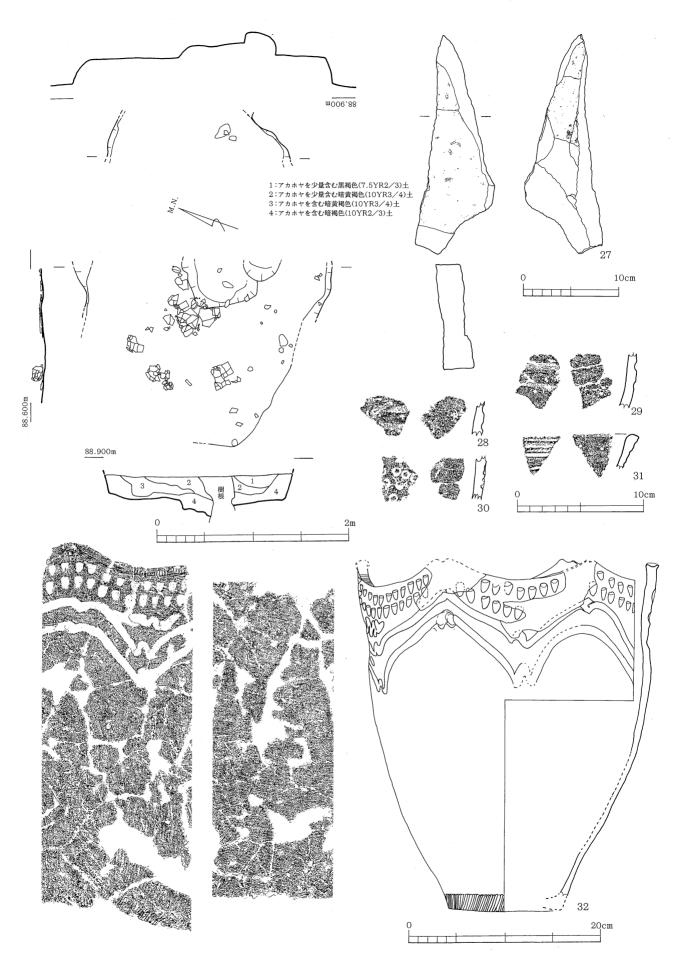
第6図 SA4遺構及び出土遺物実測図



第7図 SA4出土遺物実測図

第1表 石器観察表(1)

レイアウトNo.	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 材	備考
2	SA1	切目石錘	4.5	0.3	0.5	8.7	砂岩	
3	SA2	敲石	7.8	4.6	2.1	82.7	砂岩	
4	SA2	礫器	5.8	6.0	3.4	168.2	砂岩	
10	SA2	石核	8.3	6.8	5.1	460.6	砂岩	
11	SA3	掻器	5.1	4.5	3.3	74.5	砂岩	
12	SA3	削器	5.7	3.7	1.5	21.8	砂岩	
13	SA3	削器	7.3	6.0	1.9	81.0	砂岩	
14	SA3	台石	13.5	6.4	6.8	683.0	砂岩	
15	SA3	磨石	9.5	7.1	4.4	339.0	砂岩	
16	SA3	敲石	6.9	6.4	3.5	211.4	砂岩	v
24	SA4	石鏃	-	_		0.4	黒曜石	9
25	SA4	掻器	5.8	4.0	2.3	56.5	砂岩	
26	SA4	削器	8.3	6.8	2.1	91.5	砂岩	
27	SA5	石皿	17.5	5.6	5.3	636.9	砂岩	



第8図 SA5遺構及び出土遺物実測図

剥片を素材とし、剥片端部に刃部を設けた掻器である。素材剥片は礫面から剥離される。砂岩製。 26は削器である。縦長剥片を素材とし、右側縁下に刃部を設ける。石器表面右下と上縁は、稜が 磨滅する。

この他、砂岩・黒色黒曜石・姫島黒曜石製の剥片が若干出土している。

SA5 (第8図)

SA5は、I-4区に位置する。平面形は先行トレンチなどで北東隅や東半部の一部が欠損しており詳細は不明であるが、隅丸長方形と考えられる。規模は、長軸は $3.50\,\mathrm{m}$ 以上、、短軸は $2.30\,\mathrm{m}$ 程であると推定される。壁高は $30\,\mathrm{cm}$ 程が残存している。柱穴は確認されていない。埋土はアカホヤ粒を含む暗褐色~黒褐色土であり、4層に分層される。全ての層には炭化物粒が含まれている。堆積はレンズ状である。

遺物は、床面で押し潰れた状態の土器や石皿片が出土しているが、個体数は多くはない。また、流れ込みではあるが縄文早期の平拵式土器(31)も出土している。

27は石皿の破片である。表裏面ともよく擦れている。砂岩製。この他、姫島黒曜石製の石鏃が 1点出土している。28、29は平行凹線文が認めらる口縁部付近である。30は竹菅様の工具による刺 突文のある土器である。32は床面で押し潰れた状態で出土し、ほぼ完形に復元できた波状口縁の深 鉢形土器である。文様帯は胴部上半部にある。文様は、口縁部下に2列ないし3列の三角形状の凹 点文が施され、その下位には平行凹線文が波状口縁の波に沿って施文されている。その頂部、下部 の反転部では「逆W字」、「W字」状となっている。口唇部には一部短沈線文が施文され、波頂部に は指頭による凹点文がある。胴部下端には縦方向の短沈線文が巡っている。器面は貝殻調整後、ナ デ調整している。

SC1 (第9図)

SC1は、K-16区に位置する。平面形は隅丸長方形状を呈し、規模は、上端で長軸を1.08 m、短軸は0.92 mを測り、深さ1.42 mが現存する。下端は、長軸0.92 m、短軸0.64 mを測り、4周に径12cmほどの小ピットが8個巡り、中央部に2 個ある。深さは26cm ~ 8 cm である。

遺構内の埋土は、大きくは最下層の黄褐色土、その上位の黒色系の土の2層に分層され、レンズ 状に堆積している。上位の黒色系の土は、黄色粒(アカホヤ)などの混入状況から細分される。遺 物は土器が出土しているが、詳細は不明である。

SC2 (第9図)

SC2は K-13区に位置する。平面形は隅丸長方形状を呈する。規模は、上端で長軸1.22 m、短軸は1.02 mを測り、深さ1.00 mが現存する。下端は、長軸0.91 m、短軸0.68 mを測る。4周には幅15cm程の浅い溝が巡り、その溝内に径10cmほどの小ピットが11 個ある。深さは11cm~5cmである。遺構内の埋土は、大きくは下層から黒褐色系、黄褐色系、黒色系の3層に分層でき、さらにアカホヤなどの混入状況から細分される。遺物は出土していない。

SC1.SC2.SC3.SC4.SC5遺構実測図

第9図

-25-

SC3 (第9·10図)

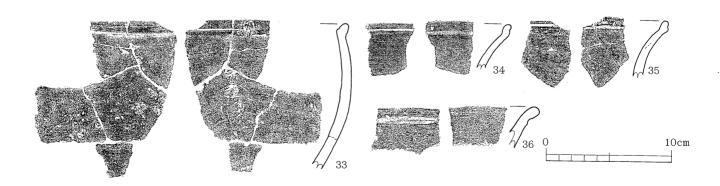
SC111は、L-8区に位置する。平面形は上端で変楕円形を呈し、規模は長軸1.39 m、短軸は0.95 mを測る。深さ1.47 mが現存する。下端は隅丸方形状を呈し、長軸0.60 m、短軸0.56 mを測り、4周に径7 cm程の小ピットが巡っている。深さは5~10cmである。遺構内の埋土は、大きくは最下層の茶褐色土と黒色系の土の2層に分層でき、黒色系の土についてはアカホヤなどの混入状況からさらに細分される。遺物は、7層に細分された層の5層、遺構内の中程から上位で黒色磨研の土器片が出土している。33 は胴部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が短く外へ開く精製浅鉢である。口縁内面に沈線文が施されている。34、35 は口縁部が弧状に外反し、口唇部が短く立ち上がる精製浅鉢である。口縁内外面に沈線文が施されている。時期は晩期である。

SC4 (第9·10図)

SC4は、I-5区位置する。平面形は上端で変隅丸長方形を呈し、規模は長軸1.36 m、短軸は1.00 mを測る。深さ1.65 mが現存する。下端は円形状を呈し、径0.70 mを測る。床面には50cmの円形状に径10cm程の小ピットが17個巡っている。深さは10cm程である。遺構内の埋土は、大きくは最下層の黒色土と褐色土の混土、黒褐色径系、黒色系の土の3層に分層でき、アカホヤなどの混入状況からさらに細分される。遺物は、開く口縁部の端部がわずかに外反し、外面に沈線文が施文される晩期の精製土器(36)、内外面に貝殻条痕文、口唇部口端に刻目のある前期の轟式の口縁部(49)が出土している。36と49は時期が異なるので、遺構は前者の時期である。

SC5 (第9図)

SC5は、N-6区位置する。平面形は隅丸長方形状を呈する。規模は、上端で長軸 $1.20\,\mathrm{m}$ 、短軸 $0.90\,\mathrm{m}$ 、下端は長軸 $0.70\,\mathrm{m}$ 、短軸 $0.60\,\mathrm{m}$ が復元される。深さ $1.56\,\mathrm{m}$ が現存する。 $4\,\mathrm{Blc}$ 程 $10\,\mathrm{cm}$ ほどの小ピットが巡っており、計 $15\,\mathrm{dl}$ ほどはあったと思われる。深さは $10\,\mathrm{cm}\sim15\,\mathrm{cm}$ 程である。遺構内の埋土は $2\,\mathrm{Blc}$ 居に分層され、レンズ状に堆積している。上層はアカホヤ上位の黒色系の埋土である。遺物は不詳である。



第10図 SСЗ、SС4出土遺物実測図

2、包含層出土の土器(第11~24図)

縄文前期以降の遺物は、前期から晩期の各時期のものが出土している。遺構は、A区とB区の堺付近で後期初頭から前半の竪穴住居跡等 4 基、B区で同時期の竪穴住居跡が I 基、そのほか晩期前半と考えられる陥し穴状遺構が A ・B・D区で検出されているが、遺物の出土はA区で大半が出土し、その他の区ではあまり出土していない。晩期の遺物についてはE区($G-11\sim18$ 区、 $H-11\sim16$ 区)、F区で多く出土しており、前期から後期の遺物とはその分布が異なっている。

白ケ野第2・第3遺跡で出土した縄文前期以降の遺物はつぎのとおりである。

A類 (37~55)

外面に貝殻条痕文が施され、内面には貝殻条痕文があるもの(39、46など)とないもの(37、45など)がある。口唇部は丸く或いは平坦に仕上げている。丸く仕上げられたもの(41、44など)は全面に刻目が、平坦に仕上げられたもの(37、47など)は口唇部外端に刻目がみられる。

B類(56、57)

微隆線文のある土器で、器面調整はナデ調整(56)と貝殻条痕調整(57)がある。

C類 (58~74)

外面に貝殻条痕文のある胴部である。この中には器面調整としての条痕上に横或いは斜め方向の 条痕文が文様風に施されたものがある。内面調整は貝殻、板状工具の使用やナデ調整などである。

D類(75~77)

器面調整としての貝殻条痕上に竹菅様の工具使用による鋸歯状或いは波状の平行線文のある土器である。77の右端には縦方向の突帯文が認められる。

E類 (78~82)

水平或いは弧状の沈線文が施文された土器である。78には横方向の突帯が認められる。79は口縁部で内面口縁部下に沈線文がある。82は横平行沈線文を中心にして上下に重弧沈線文が施されている。器面は内外面ともナデ調整である。

F類 (83~101、103~130)

刺突連点文、短沈線文が施文された土器で、次のように細分される。

- F-1類:口縁部の外面に刺突連点文或いは短沈線状連点文、短沈線文、内面にも刺突連点文、 短沈線文或いは沈線文が施文された土器である。ただし、92の内面は無文である。(83 ~85、87、91、92)
- F-2類:口縁部の外面に沈線文ないし短沈線文、内面には刺突連点文、短沈線文或いは沈線文が施文された土器である。93、94は文様、器面調整、焼成、色調などから90と同一個体である。97、98は弧状の短沈線である。(86、88~90、93、94、97、98、100、101)
- F-3類:口縁部の外面に短沈線文ないし短沈線文が施され、内面は無文の土器である。沈線文は粗雑な感がある。(95、96、99)
- F-4類: 横区画沈線文や方形区画沈線文、短沈線文、刺突文などが施文された頸部から胴部である。103と108は同一個体で山形文が施文されている。(103~124)
- F-5類:丸底或いは丸底気味の底部で外面に短沈線文が施文されている。(125~130)

G類 (131~140)

口縁部に幅広の文様帯を作出した土器で、その形状から次のように細分される。

- G-I類:内湾ないし直行する口縁部を肥厚させて文様帯を作出し、その文様帯上に貝殻、ヘラ 状或いは木口状工具で鋸歯文が施文された土器である。(131~137、140)
- G-2類: 頸部で若干くびれ、外に開く口縁部の文様帯上にヘラ状工具で施文したもの。138、 139は同一個体とである。(138、139)

H類(141)

波状の口縁部で凹線文、凹点文が施文され、口唇部には短沈線文が施文されている。器面調整は、 貝殻条痕のあと丁寧なナデ調整がなされている。色調は内外面とも浅黄橙色である。

| 類 (143、144、145~166、169、170、171)

口縁部下を肥厚させて文様帯を作出し、その文様帯上に凹点文や凹線文、その下位に凹線文を施 文した土器で、次のように細分される。

- I-1類:口縁部肥厚帯上に竹菅様工具による方形或いは長方形の凹点文や凹線文、その下位に 凹線文が施文されている。口縁部は平縁、波状があり、後者が多くみられる。口唇部 には指頭による円形状の刻目、棒状工具による刻目、沈線文などが施される。肥厚帯 上の凹点文の内面には施文時の圧力による瘤状の盛り上がりが認められるものが多い。 器面は貝殻条痕のあとナデ調整がなされていると考えられ、内面に条痕の痕跡が一部 残るものがある。(143、145 ~ 158、170)
- I-2類:I-1類に類似する口縁部であり、波頂部に短く垂下する突帯あり、多くはその突帯上に刺突文が施されている。 $(159\sim163)$
- I-3類:胴部で沈線文が施文されている。164には入り組み状繋ぎ文がみられる。 $(164\sim166)$
- I-4類: I類に含まれる思われるものを一括する。144は横走する蛇行凹線文、入り組み状繋ぎ文が施文されている。169は口縁部肥厚帯上に棒状工具による押引文が施文されている。171は小型の深鉢で口縁部下に横方向を基調とする短沈線文が施文され把手をもつ。その下位には縦方向を基調とする沈線文が施文されている。

J類(167、168)

口縁部下に突帯もつものである。167は、口縁部下に指頭による刻目が施された二条の突帯文が 巡っている。口唇部には指頭により深く押圧されて口縁部は波状を呈している。内面は貝殻条痕文 上をナデ調整している。168は平縁の口縁部で、長方形の突起が貼り付けられている。口縁部下に 指頭による刻目が施された一条の突帯文が巡り、その下に凹線文が施され、口唇部は貝殻を使用し て平坦に仕上げている。器面はナデ調整である。一カ所で穿孔が確認される。

K類(172)

短く外反する口縁部で、横走する沈線文、その沈線文端部には刺突文が施されている。沈線文間 にも貝殻刺突文が施文されて、口縁部下に把手が付けられている。

L類 (173∼191)

口縁部下に三角形状の肥厚部を作出し、器面調整は内外面とも貝殻条痕のものが大半である。L

類は文様などによって次のように細分される。

- L類−1:口縁部下に三角形状の肥厚部を作出し、そこを文様帯として貝殻刺突文、刺突連点文、 沈線文が施文された土器である。口縁部は波状口縁、平縁がある。 (173、174、176~183)
- L類-2:口縁部下に三角形状の肥厚部を作出した土器である。器面調整は175、185が内外面とも貝殻条痕で、色調は175がにぶい橙色、185は赤褐色である。184は内外面ともナデ調整で色調は明赤褐色である。186の器面調整は貝殻条痕であるが、内面の調整は丁寧で一部は条痕後ナデている。色調は淡黄色である。(175、184~186)
- L類-3:口縁部下に三角形状の肥厚部を作出した平縁の土器である。口縁部に突起部をつくり、 187は口唇上に指先による刻目、190は外面に貝殻刺突文を施文している。 (187、189、190)
- L類-4:直口或いは内湾する口縁部で、器面調整は内外面とも貝殻条痕である。188は強く撫でて外面を内湾させその部分に貝殻刺突文を施文している。191は外面に二段の貝殻刺突文を施文している。(188、191)

M類(192、194、195、197、198、201)

口縁部が外反する平縁の口縁部である。、口唇部が丸く仕上げられ、中には肥厚しているものもある。胴部は球形に近いと考えられる。器面調整は内外面とも貝殻条痕である。色調は赤褐色系を呈している。

N類(196)

1点だけであるが、器形は円筒形で波状口縁なすと考えられる土器である。調整は内外面とも貝 殻条痕で、色調は明赤褐色を呈している。

〇類(199、200)

つくりの丁寧な小型の鉢形土器である。199の底部は充填法であり、器面はナデ調整である。200 は、口唇部に外に張り出す突起があり、器形は半円状である。器面は板状工具で撫でている。

P類 (142、193、202、203)

口縁部が直行する深鉢で、最大径は口縁部にある。器面は貝殻などによる荒い調整である。色調はにぶい黄橙色を呈している。142は口唇部に蝶ネクタイ状?の突起があり、193は波状口縁である。

Q類(204、205、208、209)

口縁部が直行する深鉢で、外面に段を有する口縁帯が作出されている土器である。口縁帯の状況から次のように細分される。

- Q類-1:口縁帯が無文の土器である。外面段下の器面調整は、板状工具による荒い調整である。 色調は黄灰色系を呈している。(204、205)
- Q類-2:口縁帯に外面から施文された刺突文のある土器である。208は貫通していない。 (208、209)

R類 (206)

外面に断面台形状の突帯文がある土器で、1点のみ出土している。内面調整は貝殻条痕である。

色調は黄灰色を呈している。

S類 (207)

器形は浅鉢と推定され、口縁部下に外面から刺突された小孔がめぐる土器である。孔は貫通せず、 内面には刺突による瘤状の盛り上がりが認められる。色調はにぶい黄色を呈している。

T類 $(210 \sim 212)$

若干内湾気味に外に開きに立ち上がる口縁部で、内面はヘラ状の工具で段が作出され、外面には 沈線文が施文されている。器面はナデやヘラミガキなどで丁寧に調整している。210 は、中央の抉 りを中心に四方に沈線が延びており、三叉文の施文法に類似している。上方に延びる沈線文は「Y」 字状に分かれ、その分岐点上に穿孔がある。

U類(213~216)

胴部が丸く屈曲し、口縁部が短く外反ないし立ち上がる浅鉢形土器である。器面はナデやヘラミガキなどで丁寧に調整しているが、216は屈曲部外面に木口による撫でがみられる。213と215は、器面調整や色調などから同一個体と考えられる。

V類(217)

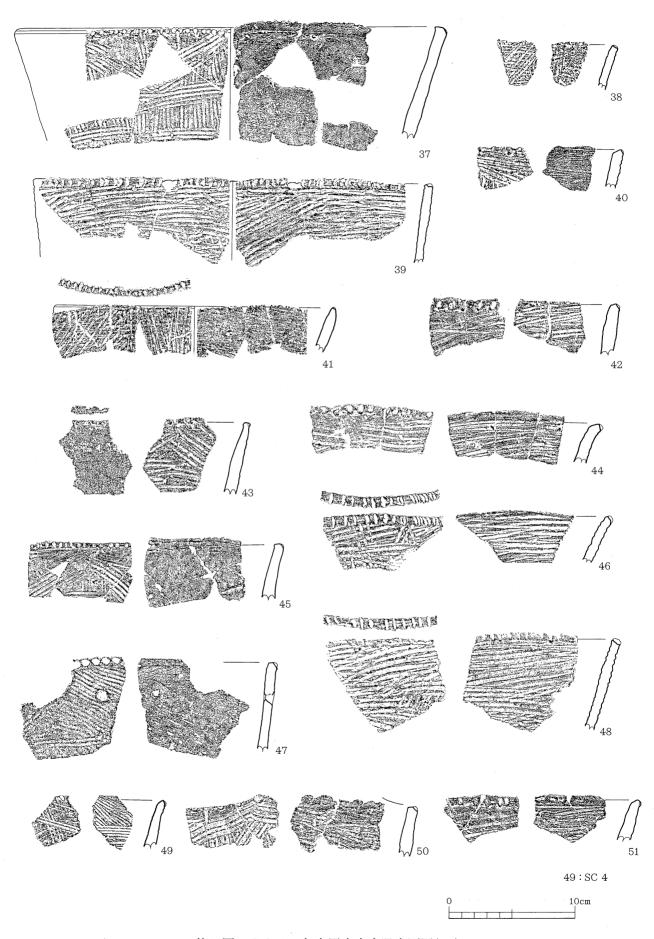
胴部下半部と推定される組織痕土器である。風化のため詳細は不明であるが、編み目状の圧痕が と見てとれる。

W類 (218~239)

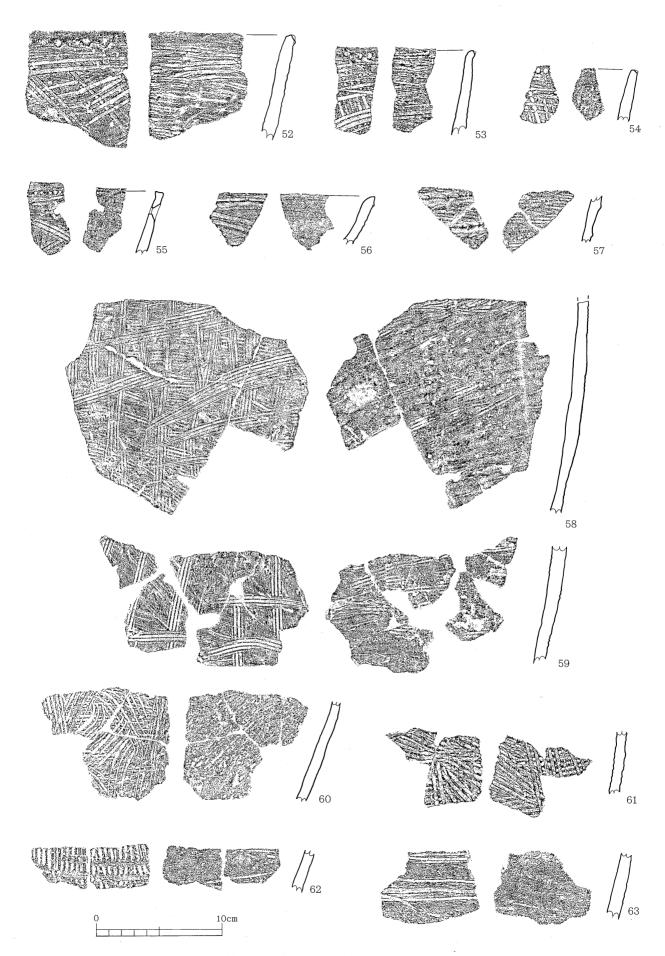
底部には高台状底部 (218、219)、上げ底 (220~224)、平底などがある。高台状底部は外端部が外に張らず、上げ底は外端部が外に張るものが多い。器面の調整は貝殻条痕が大半であり、また、貝殻条痕の後ナデ調整されたものも多い。238 は底部外縁に刻目がほどこされている。

X類 (240~257)

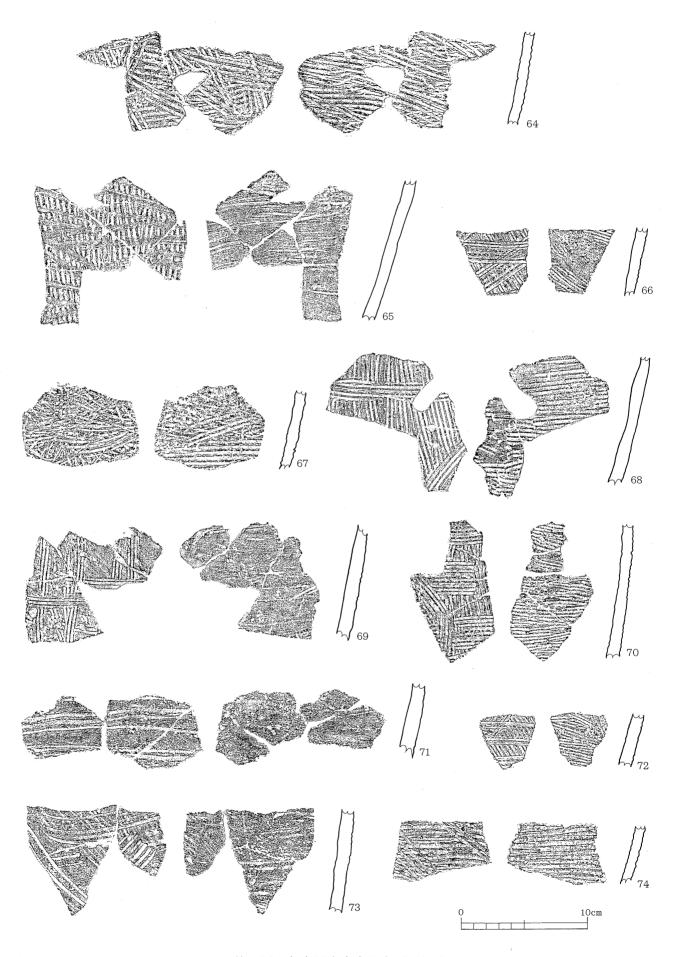
編み物圧痕のある底部を一括している。圧痕は、スダレ状の257以外はアジロ状である。底部から胴部への立ち上がりはやや大きく開くようである。



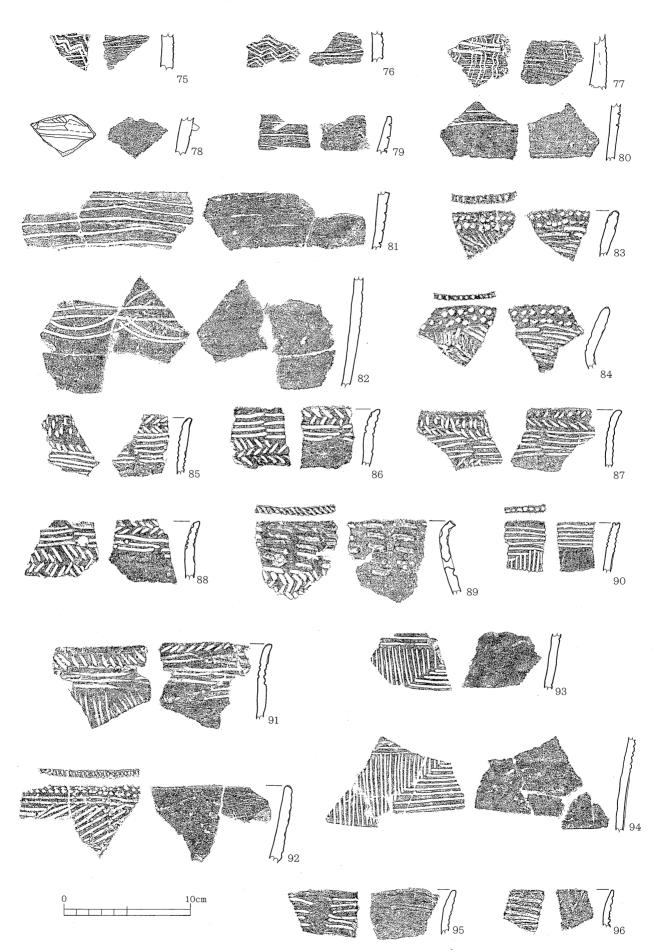
第11図 SС4、包含層出土土器実測図(1)



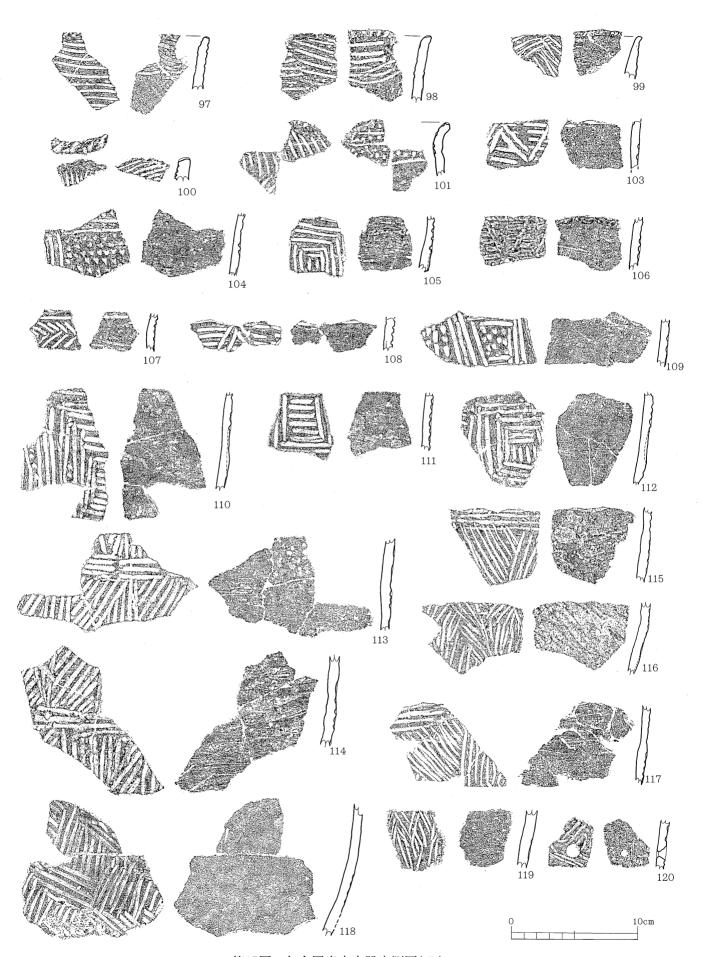
第12図 包含層出土土器実測図(2)



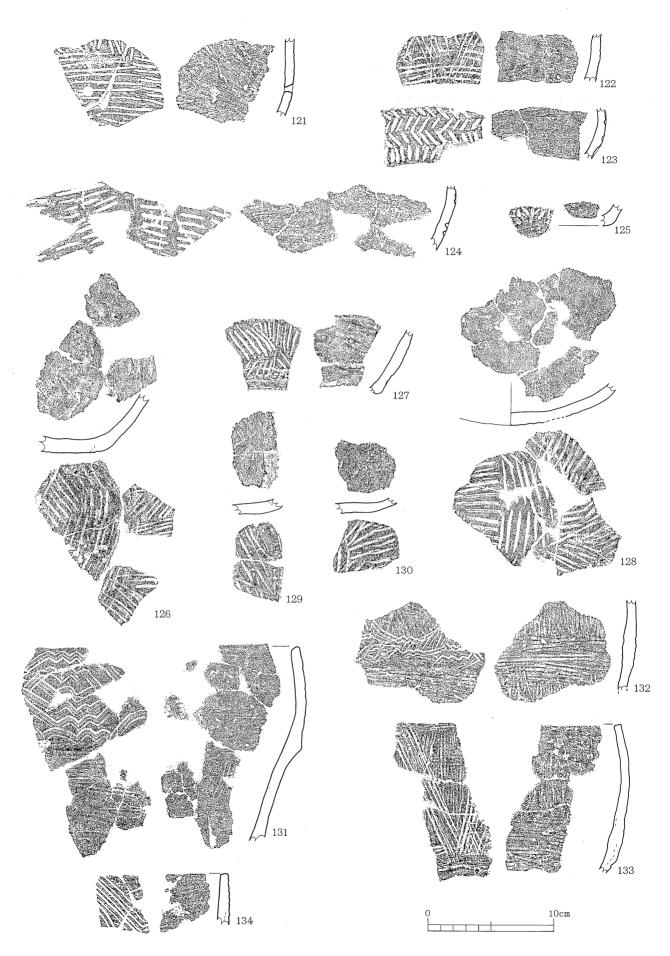
第13図 包含層出土土器実測図(3)



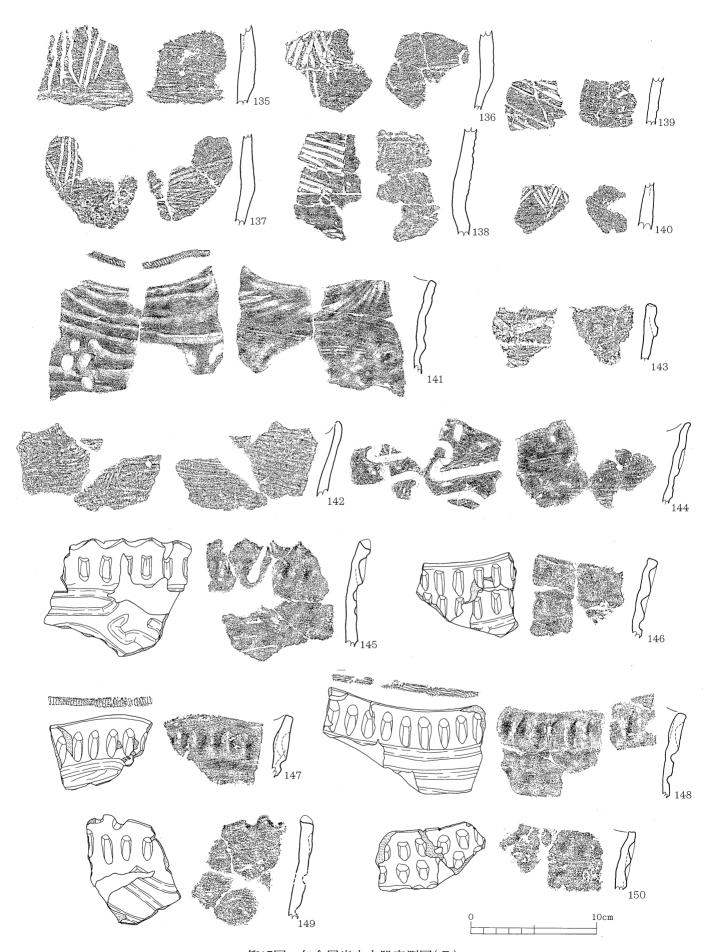
第14図 包含層出土土器実測図(4)



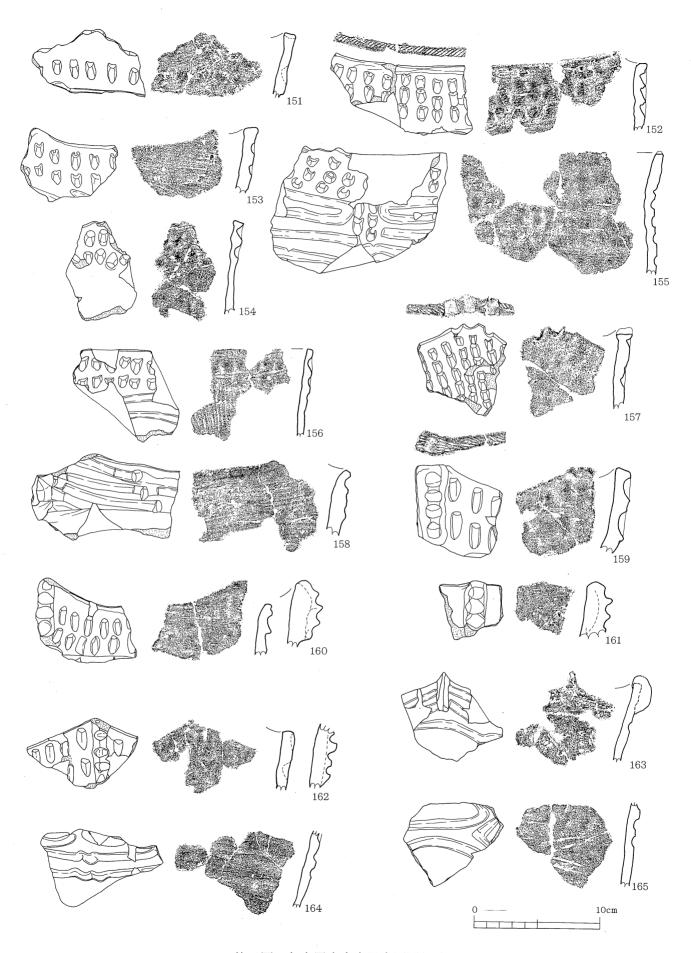
第15図 包含層出土土器実測図(5)



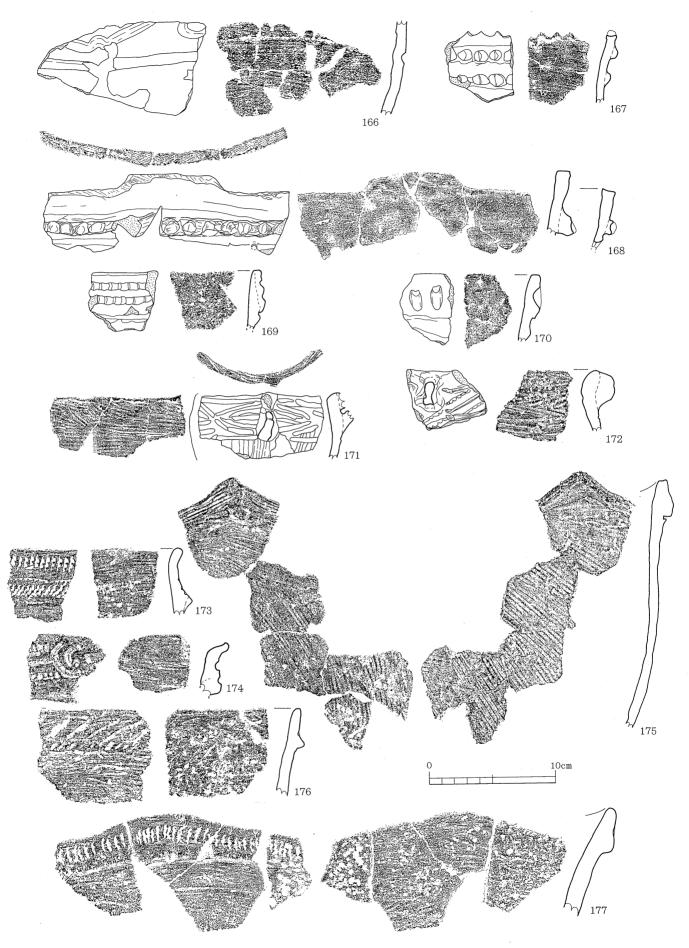
第16図 包含層出土土器実測図(6)



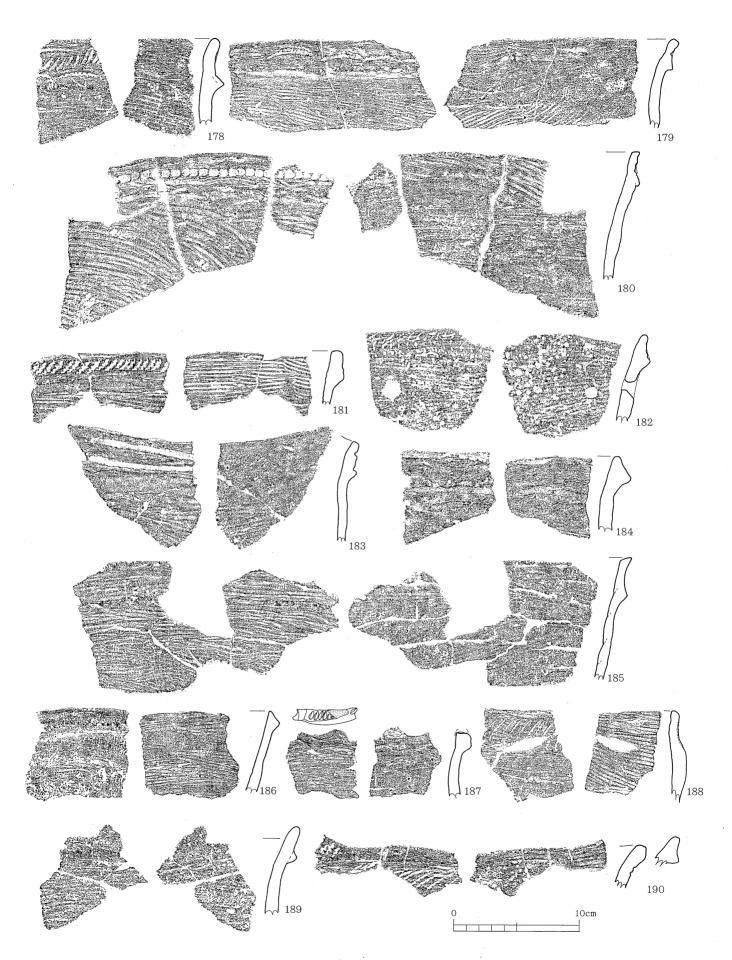
第17図 包含層出土土器実測図(7)



第18図 包含層出土土器実測図(8)



第19図 包含層出土土器実測図(9)

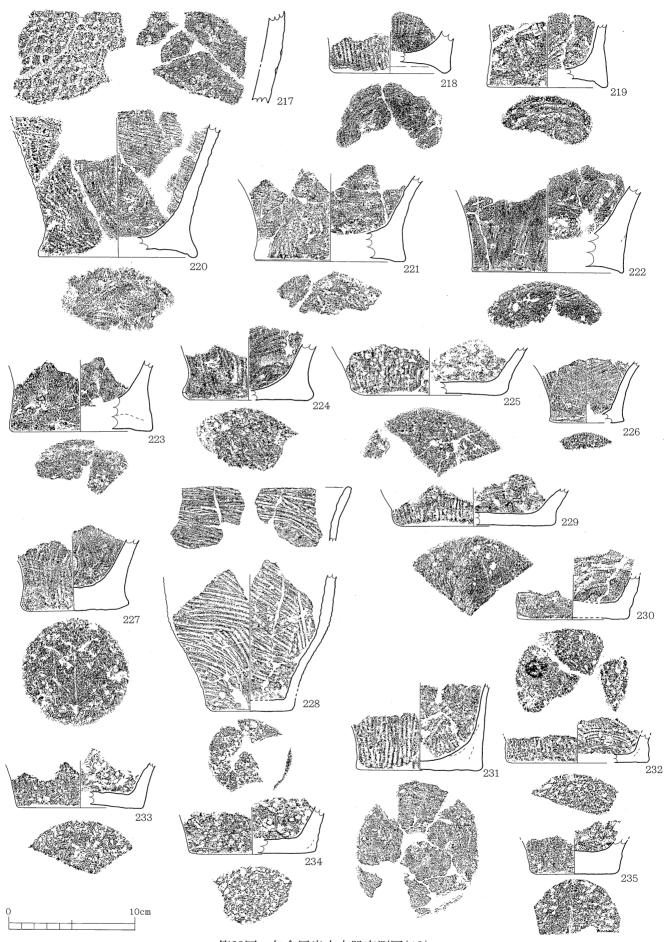


第20図 包含層出土土器実測図(10)

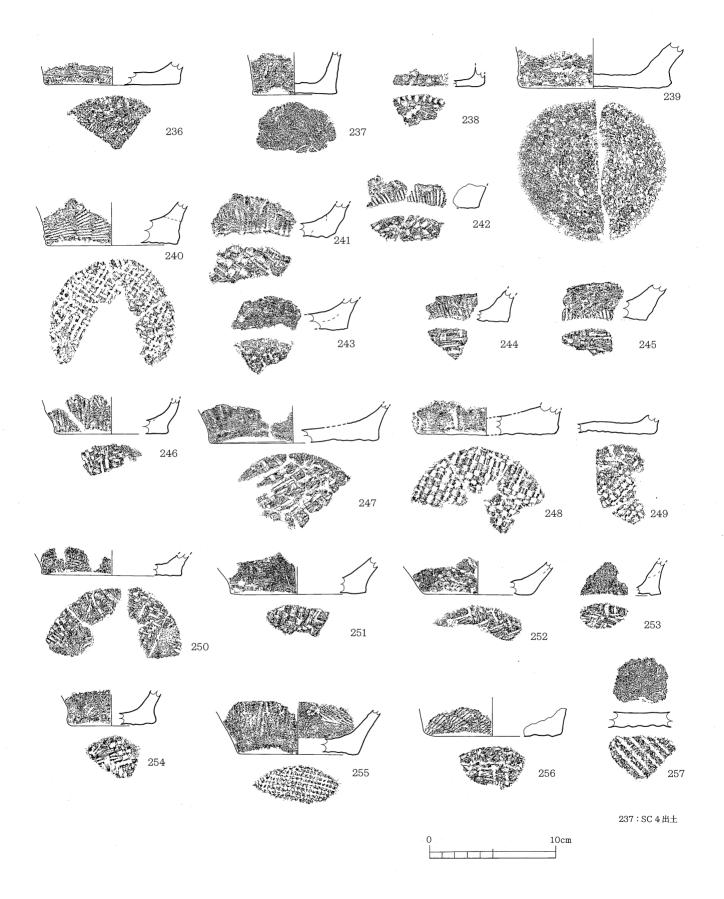


-41-

-42-



第23図 包含層出土土器実測図(13)



第24図 SC4、包含層出土土器実測図(14)

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	p = de	文様及び調整		色		胎土	備考
			口唇部	外外	内	外	内		, and
1	SA1	_		竹管による連続凹点文,ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4褐、φ2黒褐	-
5	SA2	_	貝殼条痕文	棒状工具による円形刺突文, 貝殻腹縁による刺突文, 貝殻 条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	黄褐	にぶい黄橙	φ3灰褐、φ0淡黄、微細無色透 明光沢	
6	SA2	_	貝殻腹縁に よる条痕文, 両端ナデ	2段の凹点文,凹線文,ナデ	貝殻腹縁による条痕後ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ3黒、φ2明赤褐、φ2橙、φ1.5 灰白、微細無色透明ガラス質光 沢	, ,
7	SA2	_	指頭による 刻目	凹点文,貝殼腹緣条痕文	貝殻腹縁条痕後部分的にナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	φ2.8褐灰、φ2灰白、微細無色透 明ガラス質	〔外〕スス付着
8	S A 2	_	d)	沈線文,ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙, にぶい黄	にぶい黄橙	φ2.5褐、φ2.5灰、φ2.5黒、φ 2.5長石、φ2.5石英	
17	S A 4	_		沈線文,貝殼条痕文	貝殼条痕文	明赤褐	橙	φ1灰白、微細無色透明光沢	(外)スス付着
18	S A 4	=		貝殼腹縁刺突文,沈線文	貝殻条痕後ナデ	黒褐	にぶい黄褐	φ1.5以下の石英、長石を含む	
19	S A 4	_		ナデ		オリーブ黒	にぶい橙	φ2の灰,白色、φ1の長石を少し 含む	(外)スス付着
20	S A 4	-		斜,横方向の貝殼条痕文	横方向の貝殻条痕文	赤褐	明赤褐	φ4.5橙、φ1灰、微細無色透明	
21	S A 4	- 1		ナデ	ナデ	にぶい橙	明黄褐	φ1白、φ1黒、φ0.5の長石·石英 を少し含む	
22	S A 4	-	横状工具に よる刻目	沈線文,横ナデ	ナデ	浅黄	にぶい黄褐	φ2の白の粒・長石を含む	
23	S A 4	_	棒状工具に よる刻目	楕円押型文	楕円押型文,ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	φ4褐、φ2の白色の粒、長石を含 む	
28	S A 5	-	13	ナデ,凹線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	φ2灰、φ2黄灰、φ2黒、微細透明 黒光沢	
29	S A 5	-		ナデ,凹線文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	φ2灰、φ2黄灰、φ3黒、微細透明 黒光沢	
30	S A 5	-		ナデ,円形竹管文	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	φ2灰、φ2黄灰、φ4黒、微細透明 黒光沢	
31	S A 5	_		ナデ,沈線	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ1の長石、石英を含む、φ1黒	
32	S A 5	-	波頂部に指頭による凹点文、一部 に短沈線文	の凹点文、波状凹線文、「W」 字文、胴部下端に短沈線文、	貝殻条痕後ナデ	灰オリーブ	記入なし	φ4灰、φ4白、φ4褐	推定口径 31.9cm 器高 37.1cm
33	SC3	_		ヘラ状工具による沈線文,主 に横方向のヘラミガキ	ヘラ状工具による沈線文,横 方向のヘラミガキ痕あり	浅黄	灰黄	φ2.5白半透明、φ2.5黒鋭光沢	推定口径 23.3cm
34	SC3	- 7		ヘラ状工具による沈線文,へ ラミガキ方向不明	横方向のヘラミガキ,ヘラミ ガキ方向不明	にぶい橙	にぶい黄橙	微細白半透明、微細黒鋭光沢	
35	SC3	-		ヘラ状工具による沈線文,横ナ デ残る,横方向のヘラミガキ	横方向のヘラミガキ,ヘラミ ガキ方向不明	にぶい褐	にぶい褐	微細白半透明、微細黒鋭光沢	
36	SC4	-		棒状工具による沈線文,わず かにミガキ残る		にぶい黄橙	黄褐	微細白透明	
37	J • 2	b層		横方向の連続押圧文,斜,縦, 横方向の貝殻条痕文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ1乳白、φ1黒光沢、微細黒褐	推定口径 32.3cm
38	J•5	VI	外端に刻目	横,斜方向の貝殻条痕文	粗いナデ	灰褐	褐	φ2白半透明、φ1褐、微細赤褐	
39	J•18	w^*Ah下	刻目	横、斜方向の貝殻条痕文	横,斜方向の貝殻条痕文	黒褐,にぶい 橙	にぶい黄褐, 黄灰	φ3褐~赤褐、φ1.5白、φ1.5灰白、 φ1.5白半透明、φ1黒鋭光沢、φ 1黒透明	推定口径 31.4cm
40	J•2	b層	外端に刻目	縦、斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	褐灰	にぶい褐	φ2黒、φ2灰、φ2白、φ2半透明	
41	J•3	b層	刻目	縦,横,斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	浅黄橙	黄褐,にぶい	φ3灰白、φ1半透明、微細黒褐	推定口径 21.6cm
42	A⊠	a'	外端に刻目	横,斜方向の貝殻条痕文	横,斜方向の貝殻条痕文	灰黄褐	にぶい黄橙, にぶい橙	φ1浅黄、徽細無色透明、微細黒 鋭光沢、微細黒、微細赤褐、微細灰、 微細白	j.
43	J • 4	VIa	外端に刻目	貝殼条痕文	貝殻条痕文後ナデ	にぶい黄橙,橙	浅黄	φ2灰半透明、φ2黒	(外)スス付着
44	I • 3	b層	外端に刻目	横方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	喑灰黄	にぶい黄褐, 灰黄褐	微細白、微細黒、微細透明光沢	
45	J • 2	b層	外端に刻目	横,斜方向の貝殻条痕文	ナデ	黒褐	灰褐	φ1黒褐、微細褐	
46	A区	a'	刻目	横,縦方向の貝殻条痕後,一部 に縦方向の粗い貝殻条痕文	横方向の条痕文	褐灰,にぶい 黄褐	褐灰,にぶい 黄褐	φ1浅黄橙、φ1褐灰、φ1灰白、 微細透明光沢	

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	口唇部	文様及び調整 外	内		調 内	胎土	備考
47	I • 3	b層	外端に棒状工 具による刻目	横,斜方向の貝殻条痕文,穿 孔	横,斜方向のケズリ?,穿孔	橙,にぶい黄 褐	灰黄褐	φ1.5黒褐、φ1.5灰、φ1無色透明、 微細黒鋭光沢	
48	AΚ	a'	刻目	横、斜方向の貝殻条痕文	横,斜方向の貝殻条痕文	にぶい黄橙	にぶい黄橙, 暗灰黄	φ3褐、φ2灰半透明、φ1.5灰白、 φ1.5無色透明	
49	SC4		外端に刻目	縦,横,斜方向の貝殼条痕文	斜,横方向の貝殻条痕文	黒褐	にぶい黄褐	φ2灰白	
50	A⊠	a'	外端に棒状工 具による刻目	縦・斜方向の貝殻条痕文	貝殼条痕文	にぶい黄橙	浅黄	φ1黒鋭光沢、φ1灰半透明	
51	T 2 5	b下層	外端に棒状工 具による刻目	横方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	浅黄	にぶい黄	微細黒褐、微細褐	
52	A区	_	外端に刻目	横,斜方向の条痕文,ナデ	横方向の貝殻条痕文	橙,にぶい黄	橙,にぶい橙	φ1乳白、微細黒褐、微細白半透明	
53	H • 4	b層	外端に刻目	斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	褐	にぶい橙	φ1.5黄、微細白半透明光沢	
54	A⊠	a'	外端に棒状工 具による刻目	横、斜方向の貝殻条痕文	ナデ	黒褐	にぶい褐	φ1自	
55	J•2	b層	外端に刻目	横、斜方向の貝殼条痕文、穿孔	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ1.5乳白、φ1無色透明、微細褐	
56	H•4	b層	丁寧なナデ	微隆起線文、貝殻条痕文、丁 寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	ϕ 5.5灰、 ϕ 1.5灰白、 ϕ 1黒鋭光沢、 ϕ 1無色透明	
57	A区	III		隆起線文、貝殼条痕文	横方向の貝殻条痕文	にぶい褐	暗灰黄	微細黒鈍光沢、微細灰白	
58	J • 2	b層	-	横方向の貝殻条痕後、縦・斜 方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文後ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ2浅黄橙、φ1無色透明、φ1 黒鈍光沢、φ1白不透明	
59	I • 5	VI		浅い条痕後、縦,斜方向の深 い貝殻条痕文	横,やや斜方向の貝殻条痕後 部分的に横ナデ	にぶい橙	灰黄褐,褐灰	$\phi 6.5$ 褐、 $\phi 1$ 灰白、 $\phi 1$ 白半透明、 $\phi 1$ 黒鈍光沢、 $\phi 1$ 無色透明	
60	J • 2	b層	120	横方向の貝殻条痕文後、3 単 位の深い斜方向の貝殻条痕文	斜方向のケズリ	にぶい橙	にぶい黄	ϕ 2黄灰、 ϕ 2灰、 ϕ 2黒、 ϕ 1白半 透明	
61	AZ	a'		不定方向の貝殻条痕文	不定方向の貝殼条痕文	にぶい黄橙	暗灰黄	φ2.5灰褐、φ1白不透明、φ1半 透明、微細黒鋭光沢	
62	J•2	b層	147	縦方向の貝殻条痕文後、横ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	φ3黄、φ1白	
63	Н•3	b層	,	ナデ調整後横方向の貝殻条 痕文	ナデ	にぶい赤褐	橙	φ1.5黄、φ1.5無色半透明、φ 1.5黒、φ1橙、φ1褐灰	
64	A区	IV		横,斜方向の深い貝殻条痕文	斜方向の深い貝殻条痕文	橙,にぶい褐	オリーブ褐, 黒	φ1白半透明、微細白不透明	
65	J•2	b		縦方向の貝殻条痕文後、間隔 をおくナデ	横方向のナデ、貝殻条痕文	にぶい黄褐, 黒	褐灰	φ1黄、φ1無色半透明、φ1灰褐	
66	Н•3	b		縦方向の貝殻条痕後横方向 の貝殻条痕	縦方向の条痕後、一部横方向 のナデ	にぶい橙 黒	にぶい褐	微細黒鋭光沢、微細白鋭光沢、微 細白不透明、微細黄灰、微細灰	(外)スス付着
67	A区	IV		斜方向に貝殻条痕文	横・斜方向の貝殼条痕文	にぶい褐	褐灰	φ5黒、φ4褐、φ2灰白、微細無色 透明	
68	A区	IV'	21	縦方向の貝殻条痕後横,斜方 向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕、一部ナデ	にぶい褐	黄灰	φ1灰、φ1黄灰、微細黒、微細透 明光沢	
69	I · 4	VI		縦,斜方向のナデ後縦,横方 向の貝殼条痕文	横方向の貝殻条痕,横ナデ	にぶい黄橙, にぶい橙	黄灰	φ5褐、φ1灰白、φ1無色透明、φ 1黒鋭光沢、φ1黒鈍光沢	-
70	-	b層		横,縦方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	黒褐,にぶい 黄橙	にぶい黄橙	微細赤褐、微細灰白	
71	I • 2	b層		ナデ調整後、間隔をおく横方 向の貝殻条痕文	ナデ	橙,褐灰	橙,褐灰	$\phi 6$ 黄橙、 $\phi 4$ 灰白不透明、 $\phi 3$ 灰白、 $\phi 3$ 橙、 $\phi 1$ 黒光沢	
72	AZ	a'		斜方向の貝殻条痕後横方向 の貝殻条痕文	斜方向の貝殻条痕文	暗灰黄	にぶい黄褐	微細白半透明、微細黄灰、微細灰	(外)スス付着
73	I · 4	b層		ナデ調整後横,斜方向に貝殻 条痕文	横,斜方向の貝殻条痕文	にぶい褐	にぶい黄橙	微細無色透明、微細白不透明	(外)スス付着
74	A区	Ш"		横,斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	にぶい黄	にぶい黄	φ3褐~赤褐、φ1.5黄	
75	A区	IV'	is .	ナデの後2本単位の工具に よる鋸歯状の沈線文	斜方向の貝殻条痕文	浅黄	にぶい黄	φ1.5白、φ1.5白半透明	76と同一個体
76	A区	IV'		ナデの後3本単位の工具に よる鋸歯状の沈線文	斜方向の貝殻条痕文	にぶい黄橙	にぶい黄	φ1.5白、φ1.5白半透明	
77	J•2	6層		波状平行線文、垂下する突帯 文、貝殼条痕文	横方向貝殼条痕文	明黄褐	にぶい黄橙	φ2.5茶褐、φ1白、φ1半透明	(外)黒斑
78	I • 3	b層		沈線文,貼け突帯文,ナデ調整	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2淡黄、φ2白半透明	(外)スス付着
79	I • 4	_		沈線文,ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細黒鋭光沢	(外)スス付着
80	I • 3	b層		沈線文,ナデ	ナデ,主に横ナデ	浅黄	浅黄	φ6白,φ2.5黒鋭光沢、φ2.5白半透明	
81	A	-	-	横沈線文,ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	φ5茶、φ2白半透明、φ2黒	推定径 30.1cm
82	H•3	b層		横沈線文、重弧沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2黒鋭光沢、φ2無色透明	(外)スス付着

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	口唇部	文様及び調整 外	内		調 内	胎土	備考
83	AK	IV	刺突連点文	刺突連点文、短沈線文、ナデ	刺突連点文、短沈線文、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	微細白	
84	AK	a	刺突連点文	刺突連点文、短沈線文、ナデ	刺突連点文、短沈線文、ナデ	にぶい橙	橙	φ1灰白、φ1透明光沢、φ1黒	
85		a層		刺突連点文、短沈線文、ナデ	羽状沈線文、短沈線文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ0.5白、φ0.5黒光沢	
86	Α区	IV		羽状文線文、短沈線文、ナデ	羽状沈線文、短沈線文、ナデ	浅黄	にぶい黄橙	φ1透明光沢、φ1灰白	(外)スス付着
87	_	b 層		短沈線状連点文、短沈線文、ナデ	羽状沈線文、短沈線文、ナデ	にぶい黄橙	明黄褐	φ2赤褐、微細褐	
88	I - 4	b 層		短沈線文、羽状文線文、ナデ	羽状沈線文、短沈線文、ナデ	浅黄	橙	φ1黒鋭光沢、φ1半透明	7 5
89	G•5	-	刻目	短沈線文、羽状文線文、ナデ	短沈線文、ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ2乳白、微細褐	
90	126	_	刺突連点文	沈線文、網代文、ナデ	沈線文,ナデ	にぶい橙	橙	φ1白半透明、φ1黒鋭光沢	
91	A区	IV	刻目	短沈線状連点文、横区画沈線 文、沈線文、ナデ	短沈線状連点文、沈線文,ナ	黄灰	黄灰	φ1透明光沢、φ1黒光沢、φ1灰 白	口唇部・外面にスタ 付着
92	, - "	b層	刻目	連点文、横区画沈線文、斜沈 線文など、ナデ	ナデ	浅黄	暗灰黄	φ1白、φ1透明光沢	
93	А	-		網代文、ナデ	ナデ	にぶい褐	明褐	φ2半透明、φ2透明、φ2黒光沢、 φ1灰、φ1黄灰、φ1褐	(外)スス付着 90と同一固体
94	A	_		網代文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5白半透明、φ1.5黒鋭光沢	(外)スス付着 90と同一固
95	G•5	C層		短沈線文、ナデ	貝殻?条痕の後ナデ	淡黄,暗灰	浅黄,暗灰	φ1白、φ1黒鋭光沢、φ1褐	(外)スス付着
96	J • 2	b'		沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	φ0.5白光沢	
97	AΚ	Ш	刻目	沈線文、ナデ	弧状沈線文	黒褐	にぶい黄橙	φ1無色透明、φ1黒、φ1赤褐	(外)スス付着
98	В	-	刻目	短沈線文、ナデ	弧状沈線文,ナデ	橙	橙	φ1淡黄、φ1黒鋭光沢、φ1無色 透明	
99	H•4	b層	刻目	斜方向の沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙, 褐灰	にぶい黄橙	φ2黒褐、φ2透明、φ1浅黄橙	
100	ト1	-	刻目	縦・斜方向の沈線文、ナデ	斜方向の沈線文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ6橙、φ1黒、φ1ガラス質透明	
101	-	IV	刻目	斜方向の沈線文、ナデ	刺突連点文、沈線文、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ1白	
103	AΚ	IV		短沈線文、山形文、ナデ	横方向の短沈線文,ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	φ1.5白半透明、φ1.5黒鋭光沢	108と同一個体
104	AΖ	IV		方形区画沈線文、刺突連点文、ナデ	ナデ	灰	にぶい黄	φ3灰、φ1.5灰白、φ1.5黒鋭光沢、 φ1黒透明	
105	J•3	VI		方形区画沈線文、ナデ	条痕文	にぶい黄・黒褐	にぶい黄褐	φ2黒褐、φ1半透明	
106	H·a/2	_		短沈線文、山形文、ナデ	短沈線文,ナデ	にぶい黄褐, 褐灰	にぶい褐	φ2白~乳白、φ1赤褐、微細黒光 沢	
107	H•6	VI		沈線文,羽状短沈線文、ナデ	沈線文、ナデ	灰	浅黄	φ2白	
108	H•3	b下層		短沈線文、山形文、ナデ	短沈線文、ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	φ1白半透明、φ1黒鋭光沢	103と同一個体
109	A⊠	IV		縦区画沈線文、方形区画沈線 文、刺突連点文、ナデ	粗い横ナデ	にぶい黄,黒 褐	にぶい黄	φ9.5乳白、φ1半透明、微細橙~ 褐	,
110	I • 3	b⊠		方形区画沈線文、刺突連点文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙, 褐灰	にぶい黄橙	φ4灰白、φ1黄橙	
111	層転			方形区画沈線文、短沈線文、ナデ	ナデ	灰	にぶい黄	φ4.5白、φ4.5灰、φ2黒光沢、φ2透明	
112	A区	a'		方形区画沈線文、短沈線文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ3半透明、φ1黒褐、微細赤褐	5
113	А	_		横区画沈線文、複合鋸歯文、ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄橙	φ5薄褐,φ5黒,φ5白,φ3黒光沢	
114	A⊠	IV		横区画沈線文、複合鋸歯文、 ナデ	ナデ	褐灰,にぶい 黄橙	にぶい黄橙, 暗灰黄	φ6薄褐、φ6白、φ2黒光沢	
115	_	a層	2	横区画沈線文、複合鋸歯文、ナデ	ナデ	オリーブ黒	にぶい黄橙	φ3.5褐、φ3.5白、φ2白、φ2黒、 φ2黒光沢	, s
116	A区	IV		羽状沈線文、ナデ	斜方向の強いナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	φ1.5無色透明、φ1.5白不透明、 φ1.5灰白、φ1褐、φ1黒鋭光沢、 φ1やや黄透明	119と同一個体?
117	_	a層		横区画沈線文、複合鋸歯文、ナデ	ヘラ状工具による粗いナデ	オリーブ黒	にぶい黄橙	φ2白、φ2薄褐、φ2黒光沢、φ2透明	ii
118	А	-		複合鋸歯文、ナデ	ナデ	浅黄,暗灰	浅黄,暗灰	φ1白、φ1黒鋭光沢、φ1淡黄、φ 1褐、φ1灰半透明	
119	-	C層		状沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	φ2乳白、φ2灰半透明	116と同一個体?
120	AΣ	IV		短沈線文、ナデ、穿孔	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2無色透明、φ1.5褐、φ1.5灰白、 φ1黒鋭光沢	
121	I • 3	b下層		複合鋸歯文?、短沈線文、穿孔、ナデ	ヘラ状工具による粗いナデ	にぶい橙	暗灰黄	φ2.5白、φ2.5灰、φ1.5透明光沢、 φ1黒光沢	-

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	口唇部	文様及び調整 外	内	外	調 内	胎 土	備考
123	H • 4	b層	7, 4, 4,	羽状沈線文、ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	φ2白、φ2黒、φ2灰	(外)スス付着
124	I · 3	bF層		短沈線文、ナデ	粗いナデ	橙	黒褐	φ3.5褐、微細黒、微細赤褐	
125	H•3	b層		斜沈線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰白	φ1黒鈍光沢、φ1白半透明	
126	I · 3	b層		短沈線文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	φ2白、φ2褐、φ2半透明	
127	A区	IV		複合鋸歯文、刺突連点文、ナデ	ナデ	橙	にぶい黄橙	微細白、微細黒、微細褐	
128	A	_		短沈線文、ナデ	ナデ	灰,にぶい黄橙	灰	φ2白、φ2黒、φ2透明光沢	
129	A区	IV		短沈線文、ナデ		にぶい黄橙, 暗灰	暗灰	φ4灰白、φ4淡黄半透明、φ4 黒鋭光沢、φ4褐	(内)炭化物付着
130	AΚ	IV	,	短沈線文,ナデ	ナデ	浅黄橙	淡黄,暗灰。	φ1灰白、φ1黒、φ1黒鋭光沢	
131	J • 2	b層		肥厚する口縁部文様帯上に 鋸歯文、貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙	灰黄	φ3褐、φ3白半透明、φ3黒鈍光 沢	(外)スス付着
132	J•3	b'		肥厚する口縁部文様帯上に 鋸歯文、貝殻条痕後粗いナデ	貝殻条痕後一部ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	φ2白半透明、φ2黒鈍光沢	(外)スス付着
133	J	D層		肥厚する口縁部文様帯上に 複合鋸歯文、貝殻条痕	貝殻条痕文後一部ナデ	にぶい赤褐	明赤褐	φ1白、φ1半透明	(外)スス付着
134	A区	IV		鋸歯文、ナデ	貝殻条痕文後ナデ	にぶい黄橙	灰黄	φ1白、φ1白半透明	
135	A⊠	Ш		肥厚する口縁部文様帯上に 斜沈線文、ナデ、貝殻条痕	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3.5白半透明、φ3.5白、φ3.5 灰	£ _
136	A区	IV		肥厚する口縁部文様帯上に 鋸歯状沈線文、ナデ	貝殻条痕文後ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5白半透明、φ1.5白	
137	AZ	IV		肥厚する口縁部文様帯上に鋸歯 状沈線文、浅い貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後一部ナデ	にぶい橙	橙	φ2白半透明、φ2黒鈍光沢	-
138	I · 3	b層	14	若干肥厚する口縁部に斜沈線文・強い縦ナデ、胴部沈線文・ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3白半透明	139と同一個体
139	I · 2	b層		沈線文、強いナデ、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	黒褐	φ3灰~褐、φ1白半透明	(外)スス付着
140	A区	IV	短貝殻条痕文		ナデ	にぶい褐	暗灰黄	φ2白、φ2半透明	
141	H·0/2	_		凹線文、凹点文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	浅黄橙	浅黄橙	φ2黒、φ2黒鈍光沢、φ1.5白半透明	
142	H•4	b層	蝶ネクタイ 状突起	貝殻条痕後粗いナデ	貝殻条痕後粗いナデ	にぶい黄橙	灰黄	φ3淡黄、φ2黒鈍光沢、φ2白半 透明、φ1黄橙、φ1浅黄橙、φ1黒 褐、φ1灰白	(外)スス付着
143	H•4	IV	指頭による 刻目	肥厚する口縁部上に凹線文、 その下に凹線文、貝殼条痕後 粗いナデ	ナデ、指押さえ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3黒鈍光沢、φ3黒鋭光沢、φ3 灰白、φ3灰、φ2黄橙、φ2淡黄、 φ2灰オリーブ	
144	A	_		凹線文、入り組繋ぎ文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	灰黄	黄灰	φ4黄灰、φ4灰、φ4褐、微細白不透明、微細無色透明、微細黑鈍光沢	推定 14.5cm
145	A	-	指頭による 刻目	竹菅状工具による凹点文列、 凹線文、鉤手文、ナデ	凹圧による盛り上がり、ナデ	にぶい橙,浅 黄	浅黄	φ2.5褐灰、φ2灰白、φ2浅黄、φ 1.5黒鋭光沢、微細無色透明光沢	(外)スス付着痕
146	-	b層		竹菅状工具による2段の凹 点文列、凹線文、ナデ	凹圧による盛り上がり、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3黄灰、φ2.5灰白、φ2にぶい 黄褐、φ1黒鋭光沢	(外)スス付着
147	A区	IV	短貝殼条痕文	棒状工具による凹点文列、凹線文、ナデ	凹圧による盛り上がり、ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2白、微細黒鋭光沢、微細半透明	148と同一個体
148	AΖ	IV .	貝殼条痕文	棒状工具による凹点文列、凹 線文、ナデ	凹圧による盛り上がり、ナデ	橙	橙	φ1乳白、φ1灰半透明、微細黒	(外)スス付着
149	A	_	棒状工具に よる刻目	棒状工具による凹点文列、凹線文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙	橙	φ2白半透明、φ2白、φ2黒鋭光 沢	(外)スス付着
150	AZ	IV IV		棒状工具による2段の凹点 文列、凹線文	凹圧による盛り上がり、貝殻 条痕後ナデ	橙	橙	φ3.5赤褐、φ3白半透明、φ2白、 φ2黒鋭光沢	(外)スス付着
151	AΖ	IV	指頭による 刻目	棒状工具による凹点文列、凹 線文、ナデ	凹圧による盛り上がり、貝殻 条痕後ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2黒、φ2褐、微細黒、 微細透明光沢	(外)スス付着
152	AΖ	b層	短貝殼条痕 文	竹管状工具による3列の凹 点文列、凹線文、	凹圧による盛り上がり、貝殻 条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白、φ2黒、φ2褐、φ2透明光 沢	(外)スス付着
153	A区	Ш'	波頂部に指頭 による刻目	竹菅状工具による2段の凹 点文列、凹線文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ4灰、φ1.5黒鋭光沢、φ1.5白 半透明、φ1.5茶、φ1.5白	(外)スス付着
	A区	IV	波頂部に棒状工 具による刻目	棒状工具による2段から3 段の凹点文列、ナデ	凹圧による盛り上がり、ナデ	橙	橙	φ2白半透明、φ2黒鈍光沢、φ2 灰	
154			指頭による	竹管状工具による3段の刺	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ6薄灰褐、φ2.5白不透明、φ 2.5灰、φ2.5黒	推定口径 27.0cm (外)スス付着
154 155	н•6	VI	刻目	突文列、凹線文、ナデ	1			Δ.000. ΨΔ.0Α.	(プト) 人人刊有
Partition (Inc.)	H·6	VI a'			貝殻条痕後ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ3白、φ1白、φ1白半透明、φ1茶、 微細黒鋭光沢	(分)人人刊有

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	口唇部	文様及び調整 外	内	色 外	調 内	胎土	備考
158	A	_	1 th	棒状工具による凹線文・刺突 文、垂下する隆帯、ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙	にぶい黄,橙		(外)スス付着
159	AΚ	IV	波頂部に凹点 文、貝殻条痕文	棒状工具による2段の凹点文、 垂下する隆帯上に刺突文	凹圧による盛り上がり、ナデ	明赤褐	橙	φ2黒鋭光沢、φ2白	(外)スス付着・(内) 黒変
160	G 5 1	-		棒状工具による2段の凹点 文列、垂下する隆帯上に刻目、 凹線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰黄褐、φ2黒鈍光沢、φ2無 色透明鋭光沢、φ1.5灰白	(外)スス付着
161	A⊠	IV		垂下する隆帯上に棒状工具 による刻目、凹点文	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	φ4.5にぶい黄橙、φ4にぶい黄褐、 φ3.5黄橙、φ2灰不透明、φ2黒、φ 2灰褐、φ1.5褐灰、微細無色透明	(口唇部・外)スス作 着
162	I · 4	IV	波頂部に竹 菅状工具に よる刺突文	棒状工具による2段の凹点 文列、垂下する隆帯上に棒状 工具による刻目、ナデ	凹圧による盛り上がり、ナデ	にぶい黄橙	橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細黒透 明光沢	(外)スス付着
163			波頂部から垂 下する隆帯文	凹線文、ナデ	粗いナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2.5無色透明、φ2.5黒鋭光沢	
164	G • 4	А	В	入り組繋ぎ文・横走凹線文、 貝殻条痕後ナデ	横方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙, 灰黄褐	φ1灰白、φ1黒光沢、φ1透明光 沢	
165	A	-		凹線文、ナデ	ナデ	にぶい黄橙	浅黄	φ1黒、φ1乳白、φ1褐、微細黒透 明光沢	
166	AΚ	IV		横走凹線文、入り組繋ぎ文、ナデ	貝殼条痕	にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ2黒光沢、φ2黄灰、φ2灰、φ2褐	(外)スス付着
167	AΚ	IV	指頭?によ る刻目	指頭による刻目の貼付突帯文、 ナデ	貝殻条痕文後ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	φ2白、φ2やや黄、φ1黒鋭光沢	(外)スス付着
168	AΚ	IV	貝殼条痕文	指頭による刻目のある貼付 突帯文、凹線文、穿孔、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3白不透明、φ3黒、φ3灰、φ3 半透明光沢、φ3黒光沢	(外)スス付着 推定口径 40.3cm
169	В	- ,		肥厚帯上に棒状工具による 押引文、凹線文、ナデ	ナデ	橙	橙	φ2.5赤茶、φ2白、φ2白半透明、 φ2黒鋭光沢、φ2灰	
170	AΚ	IV		肥厚帯上に棒状工具による 凹圧文、凹線文、ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ2黄灰、φ2灰、微細半透明、微 細黒光沢	4
171	AΣ	IV'		横走沈線文、左右対称沈線文、 刺突文、把手、貝殼条痕文	貝殻条痕後ナデ	にぶい褐	橙	徽細透明、徽細黒光沢、徽細黄灰、 徽細灰	(外)スス付着
172	AΣ	Ш'		貝殻腹縁刺突文,沈線文、刺 突文、把手、ナデ	貝殻条痕後ナデ	明褐,褐灰	にぶい褐	φ4赤褐、φ2橙、φ1.5黒鋭光沢、 φ1灰白	
173	A	-	,	貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕後 ナデ	貝殻条痕文後ナデ	明褐	明黄褐,明赤褐	φ2黒鈍光沢、φ1灰白、微細無色 透明	(外)スス付着
174	A	_		沈線文、連続刺突文,刺突文、 押引文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3茶、φ3白半透明、φ3黒鋭光 沢	
175	AZ	Ш'	口唇部に平行 する沈線文	肥厚帯、貝殻条痕後一部ナデ	貝殻条痕後一部ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ3茶、φ3灰	(外)スス付着 (内)炭化物付着
176	I • 4	IV		貝殻腹縁刺突文、断面三角形 突帯文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい赤褐	φ1白光沢、φ1褐、φ1黄褐	(外)スス付着
177	A·h 1	-		肥厚帯上に貝殻腹縁刺突文、 貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙,にぶい橙	にぶい黄橙	φ3.5灰、φ3.5白、φ2白半透明、 φ2黒光沢	推定口径 30.8cm
178	A⊠	Ш'	- 4	断面三角形突帯文、貝殻腹縁 刺突文、横ナデ	貝殼条痕後ナデ	明黄褐	にぶい黄橙	ϕ 1灰白、 ϕ 1黒鈍光沢、微細無色透明	
179	H•1	Ш'		断面三角形突帯文、貝殻腹縁 刺突文、貝殻条痕後一部ナデ	貝殻条痕文後ナデ	にぶい橙	橙	φ4黄褐、φ1褐、φ1白、φ1白光 沢	推定口径 16.8cm (外)スス付着
180	A⊠	IV		突帯文、竹管状工具による連続 刺突文、貝殼条痕後一部ナデ	貝殻条痕文後ナデ	明黄褐	明黄褐	φ4茶、φ1黒鋭光沢、φ1白半透 明	推定口径 25.6cm (外)スス付着
181	A区	IV	A	断面三角形突帯文、貝殻腹縁 刺突文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	明褐	橙	φ1黄灰、φ1灰、微細透明光沢	
182	A			断面三角形突帯文、貝殻腹縁 刺突文、穿孔、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙	にぶい黄橙	φ3赤褐、φ2半透明、微細灰白~ 黒	推定口径 22.2cm
183	A	_		断面三角形突帯文、沈線文、 貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	φ0.5白透明、φ0.5灰	
184	J•4	VI		断面三角形突帯文、ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	φ4茶、φ4灰、φ1白半透明、φ1黒鈍光沢	(外)スス付着
185	H•1	IV'		断面三角形突帯文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	赤褐	φ1黒鋭光沢、φ1白半透明、φ1 白不透明	推定口径 22.9cm (外)スス付着
186	H•13	_		断面三角形突帯文、ナデ	貝殻条痕後一部ナデ	淡黄	浅黄	φ2半透明、φ2黒光沢、φ2灰。φ 2黄灰、φ2褐	8)
187	Α区	IV'	蝶ネクタイ状 突起、刺突文	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	微細金色光沢、微細白半透明、微 細褐、微細灰	
188	А	- "		貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕文 後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙	にぶい橙	φ2赤褐、φ2黄褐、微細白光沢	推定口径 15.1cm (外)スス付着
189	AΣ	IV'	貼付突起	断面三角形突帯文、ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	φ3灰、φ3白、φ3黒光沢	(口唇部・外)スス付着

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	口唇部	文様及び調整 外	内	外	調 内	胎 土	備考
190	I • 4	IV	- E Uh	断面三角形突帯文、貝殻腹縁 刺突文、貝殼条痕後一部ナデ	貝殼条痕文	橙	橙	φ1黄灰、φ1灰、微細透明、微細 黒光沢	
191	B • 2 4	IV		貝殻腹縁刺突文、貝殻条痕後 一部ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙	橙	φ7茶(岩片)、φ1黒鋭光沢、φ1 白	推定口径 32.6cm (外)スス付着
192	H • 1	Ш'		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	φ0.5白半透明、φ0.5黒鏡光沢	推定口径 24.4cm (外)スス付着
193	A区	IV'		浅い貝殻条痕後一部ナデ	浅い貝殻条痕後一部ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3茶、φ3灰	
194	H • 1	Ш'		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後一部ナデ	にぶい黄橙, にぶい橙	にぶい赤褐, 浅黄	φ3灰、φ3浅黄、φ3白半透明	推定口径 24.7cm (外)スス付着
195	A			ナデ	貝殼条痕文	橙	橙	φ3浅黄、φ1白半透明、φ1黒鋭光沢	
196	A	, -		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後一部ナデ	明赤褐	明赤褐	φ1白透明、φ1白半透明	推定口径 20.9m (口唇部)スス付着 (内)炭化物付着
197	А	_		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい褐	橙	φ1灰、φ1黄灰、微細無色透明、 微細黒光沢、微細白半透明	推定口径 24.4cm
198	AΚ	IV'	横ナデ	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙,褐灰	褐	φ3.5褐、φ3.5白、φ3.5灰、φ 3.5無色透明	推定口径 18.7cm 推定最大径 23.0cm
199	I • 3	b層	e e	丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰褐	にぶい褐	φ4灰、φ4褐、φ2赤褐、φ2灰白、 φ1透明光沢	推定口径 14.1cm 器高 8.0cm (口唇部・外)スス付着症
200	J•5	VI	舌状張出部	丁寧なナデ	ナデ	橙	橙	微細白半透明、微細白、微細透明 光沢、微細黄灰	
201	H•1	Ш		浅い貝殻条痕後ナデ	浅い貝殻条痕後ナデ	橙	明赤褐	φ1灰、φ1黄灰、φ1褐、微細透明、 微細半透明光沢	推定口径 17.9cm
202	C • 2 3	IV		貝殼腹緣文	貝殼腹緣文	にぶい黄橙	淡黄	φ2黄灰、φ2灰、微細透明、微細 黒光沢、微細白半透明光	(口唇部・外)スス付着
203	C • 2 1	-		工具による粗いナデ	工具によるナデ	オリーブ黒	灰黄	φ2黄灰、φ2灰、φ2乳白、微細透明、微細黒光沢	(外)スス付着
204	B 2 3	IV		肥厚帯、板状工具によるナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3茶、φ3赤褐	(外)スス付着
205	D·21	IV	横ナデ	肥厚帯、板状工具によるナデ	貝殻条痕後ナデ	明黄褐	明黄褐	φ1.5黒鋭光沢、φ1.5白半透明	(外)スス付着
206	A⊠	_		断面台形状突帯文、ナデ	貝殼条痕文	黄灰	黄灰	φ2白半透明、φ2黒鋭光沢	(外)スス付着
207	C · 2 3	IV		刺突文(孔列文)、貝殻条痕後 ナデ	刺突による盛り上がり、貝殻 条痕後ナデ	にぶい黄	にぶい黄	φ2黒鋭光沢、φ2白半透明	9
208	C · 2 4	IV		肥厚带、刺突文、貝殼条痕文	ヘラナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2白半透明、φ2黒鋭光沢	
209	F·18	VI		肥厚带、刺突文、貝殼条痕文	ヘラナデ	橙	橙	φ3白半透明、φ3黒鋭光沢、φ3 茶	(外)スス付着
210	B • 2 2	IV		四叉文?、沈線文、穿孔、ヘラ磨き	沈線文、ヘラ磨き	にぶい橙	にぶい橙	φ2赤褐、φ2白半透明、微細白半透明	推定口径 17.0cm
211	F • 2 4	_		沈線文、ヘラ磨き	ヘラ磨き	にぶい橙	にぶい橙	φ1,5白半透明	
213	E区	VI/VII		ヘラ磨き	ヘラ磨き	褐灰	褐灰	微細黒鋭光沢	
212	E区	VI/VII		沈線文、ヘラ磨き	ヘラ磨き	褐灰	褐灰	微細白半透明	
214	A区	_		ヘラ磨き	ヘラ磨き	にぶい黄橙	にぶい黄橙	微細白半透明	
215	E区	VI/VII		ヘラ磨き	ヘラ磨き、ヘラナデ	オリーブ黒	黄灰	銀色鱗片状	
216	D'22	IV		ナデ、工具によるナデ	ヘラ磨き	橙	にぶい赤褐	微細白半透明、微細黒鋭光沢	8
217	B·24	IV		組織痕(網み目状)	ヘラナデ	橙	橙	φ2白半透明、φ2黒鋭光沢、φ2 やや黄白	(外)スス付着
218	H•3	b層		貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ3黄灰、φ3灰、φ3乳白、微細半 透明、微細黒光沢	底径 5.8cm 高台状
219	A区	Ш'	,	ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	φ2白、φ2黒、φ2灰、φ2透明光 沢	底径 9.4cm 高台状
220	A区	IV		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	浅黄橙,にぶ い橙	黄灰	φ2白、φ2灰白、φ2赤褐、φ1黒、 φ1透明光沢	底径 13.5cm あげ底
221	AK	IV'		貝殻・板状工具による条痕後 ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、微細透明、 微細黒光沢	底径 11.8cm あげ底
222	AZ	a'		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙, 褐灰	褐灰	φ2灰白、φ2明褐、φ2透明光沢、 微細黒光沢	底径.11.8cm あげ底
223	AZ	IV		なで	ナデ	にぶい黄橙, 褐灰	灰黄,黄灰	φ4赤褐、φ3灰白、φ3半透明光沢、 φ2黒光沢	底径 10.9cm あげ底 (外)スス付着
224	AΚ	IV'	a	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	黄灰	φ3灰褐、φ2黄橙、φ2灰白、φ1 黒光沢、φ1半透明	底径 10.4cm

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	口唇部	文様及び調整 外	内	9 色	調 内	胎土	備考
225	A⊠	Ш,	H H H	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙	浅黄橙	φ2赤褐、φ1灰白	底径 12.3cm
226	-	IV		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	φ2黒褐、φ2灰白、φ2ガラス状 半透明	底径 6.0cm
227	AΚ	a'		貝殻条痕後ナデ、木の葉圧痕	貝殻条痕後ナデ	にぶい橙	褐灰	φ1黒光沢、φ1白半透明光沢、微 細灰白	底径 8.3cm
228	B·24	IV		貝殼条痕文	貝殼条痕文	橙,にぶい黄 褐	にぶい赤褐	φ3薄茶、φ3無色透明、φ3黒鋭 光沢	底径 7.1cm (外)スス付着
229	AΚ	IV		貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい黄橙	φ1褐灰、φ1黒褐	底径 12.8cm
230	AK	Ш'		ナデ、底面に竹管様工具によ る刺突文	ナデ	橙	にぶい橙	φ2灰、φ2白、φ2褐、微細透明光 沢	底径 8.6cm
231	A⊠	IV'		貝殻条痕後一部ナデ	ナデ	明赤褐,灰褐	にぶい黄褐	φ2白半透明、φ2白	底径 11.1cm (外)スス 付着 (内)炭化物付着
232	H•1	Ш'		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	φ5灰褐、φ3にぶい黄橙	底径11.0cm (外)スス付 着痕、底面に白色物付着
233	А	_		板状工具によるナデ	ナデ	橙	橙	φ1褐灰	底径 10.0cm
234	AΣ	Ш'		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ3黄灰、φ3灰、微細透明、微細 黒光沢	底径 9.9cm
235	H•2	b		ナデ	ナデ	橙	橙	φ2黄灰、φ2灰、φ2褐、微細透明 光沢	底径 6.9㎝
236	AZ	a'		ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2灰、φ2黄灰、微細透明、微細 黒光沢、微細半透明光沢	底径 11.0cm
237	S C 4	-		なで	ナデ、指押さえ	にぶい橙,に ぶい黄橙	にぶい橙	φ3灰、φ2白半透明、φ1.5黒	底 6.5cm
238	M•4	b下層		ナデ、底面外縁に刻目	ナデ	灰黄	にぶい橙	φ1.5金色光沢、φ1白、φ0.5無 色透明光沢	
239	A	_		ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	φ1黒光沢、φ1無色透明光沢、φ 1白半透明、微細灰白	底径 12.0cm
240	A区	IV		貝殻条痕文、アジロ状圧痕	ナデ	にぶい黄橙・ 褐灰	褐灰	φ2灰白、φ2白半透明、φ2黒光 沢	底径 10.3cm (外)スス付着
241	A区	IV'		貝殻条痕後ナデ、アジロ状圧 痕	ナデ	にぶい橙,浅 黄	淡黄	φ3灰白、φ1赤褐、φ1白半透明、 φ1黒光沢	1
242		b層		貝殻条痕、アジロ状圧痕		にぶい黄橙	不明	φ1灰白	245と同一個体
243	A	_		ナデ、アジロ状圧痕	貝殼条痕文	にぶい黄橙, 褐灰	褐灰	φ1.5白半透明光沢、φ1.5灰白、 φ1黒	
244	A区	IV		貝殻条痕文、アジロ状圧痕	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	φ2.5褐灰	
245	, -	b層		貝殻条痕文、アジロ状圧痕		にぶい黄橙, 灰黄褐	にぶい橙	φ2白半透明光沢、φ1黒、φ1灰 白	(外)スス付着 242と同一個体
246	I • 3	b層		貝殻条痕後ナデ、アジロ状圧 痕	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙, にぶい橙	明黄褐	φ1.5灰白、φ1黒	底径 9.0㎝
247	F 2 7	_		丁寧なナデ、アジロ状圧痕	貝殻条痕後粗いナデ	にぶい黄橙, にぶい橙	橙,褐灰	φ3灰白、φ2透明光沢、φ2黒光 沢	底径 13.2cm (内)炭化物付着
248	A区	IV	191	貝殻条痕後ナデ、アジロ状圧 痕	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	φ2白、φ2半透明、φ2黒光沢、φ 2灰白	底径 10.7cm
249	AΖ	IV	,	粗いナデ、アジロ状圧痕	ナデ	橙,黒褐	褐灰,にぶい 黄橙	φ3灰白、φ3透明光沢、φ2黒、φ 1橙	(外)スス付着
250	AK	IV		貝殻条痕後ナデ、アジロ状圧 痕		にぶい橙,褐 灰	にぶい橙	φ1.5白半透明、φ1黒光沢、φ1 灰白	底径 11.1cm 一部高台状の高まり
251	I • 3	b下層	s _	貝殻条痕後ナデ、アジロ状圧 痕	ナデ	にぶい黄橙, にぶい橙	にぶい黄橙	φ2灰白、φ2白半透明、φ1黒光 沢	底径 10.6cm
252	H•7	VI		ナデ、アジロ状圧痕		にぶい黄橙	にぶい黄褐	φ3にぶい橙、φ2灰白、φ2白不 透明、φ2金色光沢	底径 8.6cm
253	AΚ	IV		ナデ、アジロ状圧痕		にぶい黄褐	にぶい黄褐	φ1灰白、φ1白半透明、φ1透明 光沢	(外)スス付着
254	AΚ	IV		貝殻条痕後ナデ、指頭痕、ア ジロ状圧痕	ナデ	浅黄	にぶい黄橙	φ1浅黄橙	底径 5.8cm (内)炭化物付着
255	A区	IV		貝殻条痕後ナデ、アジロ状圧 痕	ナデ、貝殻条痕文	にぶい橙	灰褐	φ3白半透明、φ1灰白、φ0.5黒 光沢	底径 8.7cm (外)スス付着痕?
256	AΚ	IV'		貝殻条痕文、アジロ状圧痕		にぶい橙	不明	φ2にぶい黄橙	底径 11.0cm 底部外縁部に高台状高まり
257	D	-	, 4	スダレ状圧痕	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	φ2白半透明、φ1赤褐、φ1透明 光沢	

3、包含層出土の石器

石器の報告は、Ah上の包含層中で出土したものを一括して行なう。

 $258 \sim 440$ は石鏃である。利用石材をみると、姫島産黒曜石が最も多く、チャートがそれに次ぐ。平面形は、 $311 \cdot 312$ など両脚が外に開くもの、 $317 \cdot 321$ など五角形のものなど多様である。372 など、素材剥片形状を大きく残すものも一定量見られる。315 の先端には樋状剥離が見られる。使用の結果残されたものであろう。 $294 \cdot 329 \cdot 357$ は局部的に研磨され、「局部磨製石鏃」とした。 $384 \sim 440$ は石鏃のうち欠損の著しいものである。 $441 \sim 487$ は石鏃未製品である。素材剥片から製品に向かっての、様々な加工過程のものがある。456 は石鏃未製品であるが、背面が研磨される。472 は砂岩製。製品である可能性がある。

 $488 \sim 490$ は石錐、497 はその未製品である。いずれも不定形剥片素材で、チャート製のものが多い。錐部の作出は粗雑である。498 は楔形石器である。

 $491 \sim 496 \cdot 499 \sim 503$ は石匙である。 $491 \sim 496$ は小形の不定形剥片・縦長剥片を素材とする。両側縁に抉りを入れ、つまみ部が作出される。下端部に、わずかな加工が施されるものと素材剥片のままのものとがある。 $499 \sim 502$ は横匙である。503 は横長剥片素材で、他の石匙と石材も異なり、珪質シルト岩製である。

 $504 \sim 506 \cdot 508 \cdot 509$ は異形石器である。様々な形態がある。 $507 \cdot 510$ は異形局部磨製石鏃である。507 は表裏面ともによく研磨される。510 は安山岩製である。本遺跡出土の異形局部磨製石鏃は、510 を除いてすべてチャート製である。

511~516は尖頭器とした。形態は様々であり、素材剥片面を残す資料が多い。

517~520は掻器である。全て黒曜石製。不定形剥片素材で、刃部は剥片端部の厚みを利用して 設けられる。

 $521 \sim 574$ は削器とした。様々な形態がある。小形のものにはチャート・黒曜石・姫島産黒曜石が多用され、平面形・刃部形態ともに多様である。大形のものには砂岩・頁岩が多用される。他器種との関連が想定されるもの、区別の明確でないものもここに含めた。 $566 \cdot 567 \cdot 569 \cdot 570$ は砂岩製で大形の縦長剥片を素材とする一群である。566 は抉りのみの加工である。石匙との関連が想定される。 $567 \cdot 570$ は折断により整形され、鋭い側縁全体を刃部とした石器と考えられる。568 は磨製石斧の転用、574 は石核の転用と考えられる。

575~588は何らかの二次加工が入る石器を一括した。575はナイフ形石器の可能性がある。580は石器全面の稜が磨耗する。587は石匙との関連が考えられる。

589~647は石核である。利用石材をみると、小形の石核は南九州産と思われる黒曜石(黒色の一群・黒色で白色斑晶を顕著に含む一群)と姫島産黒曜石、少量のチャートのものがある。大形の石核は、砂岩が圧倒的に多く、少量の頁岩、姫島産黒曜石のものがある。剥片剥離をみると、小形の石核は、礫打面か若干の調整を入れた打面から、不定形剥片または縦長剥片が剥離されるものが多い。打面は単一打面が多い。斑晶を含む黒曜石製の一群は、斑晶の影響で剥片剥離が困難であったようである。大形の石核は打面調整がなされず、礫面から縦長剥片が剥離される一群と石核周縁から不定形剥片が剥離される一群とがある。小形の石核、大形の石核とで、利用石材、剥片剥離に

明確な差がある。

648~650は礫器である。648・650は周縁の稜が顕著に摩滅する。

 $651 \sim 661$ は石錘である。全て砂岩の扁平な円礫を素材とし、礫の長軸に打ち欠きがある。重量で分けると、100g 前後の一群・200g 前後の一群・ $600 \sim 700g$ 前後の一群がある。

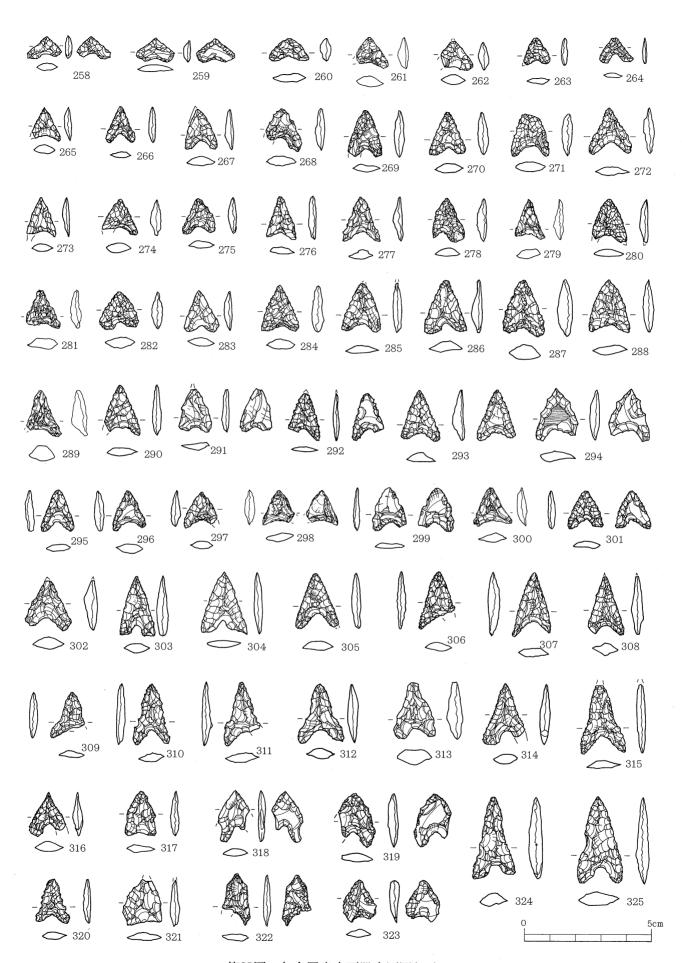
 $662 \cdot 663 \cdot 665 \cdot 666$ は磨製石斧である。小形から中形のものである。刃部はいずれもうすい。 663 の基部側は礫器状に成形される。

 $664 \cdot 667 \sim 675 \cdot 678 \cdot 679$ は敲石である。重量で分けると、60g 以下の一群、130g 前後の一群、 $200 \sim 250g$ までの一群、1kg 近いものの 4 群に分かれる。670 は磨製石斧の転用品である。 $676 \cdot 677 \cdot 680 \sim 700$ は磨石である。磨面が明確でなく、礫形状から磨石の可能性のあるものも含めた。重量 500g 前後を中心に、900g 前後のものまで見られる。 $701 \cdot 702$ は凹石である。 $703 \sim 710$ は石皿類である。凹面の明確なものとそうでないものとがある。710 は後に石核として再利用された可能性がある。

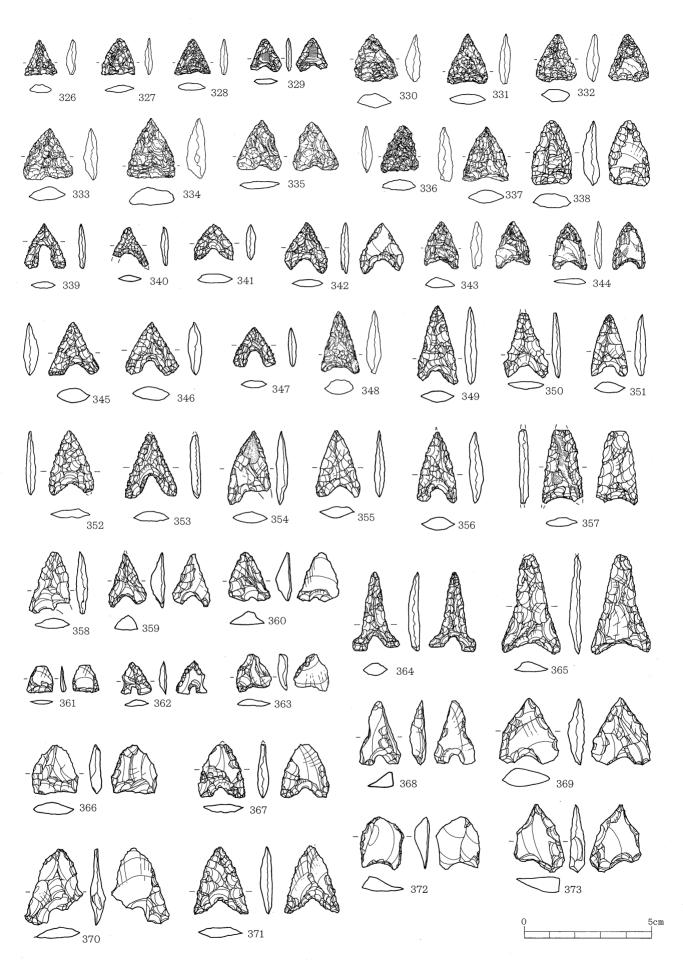
 $711 \sim 735$ は、竪穴住居を除く、各遺構より出土したものである。 $726 \sim 735$ の敲石類は、すべて集石を構成していた礫である。

 $736 \sim 764$ はトレンチー括で取り上げられたもの、 $765 \sim 792$ は表採や注記不明などの理由で出土 位置が明確でないものを一括し掲載した。

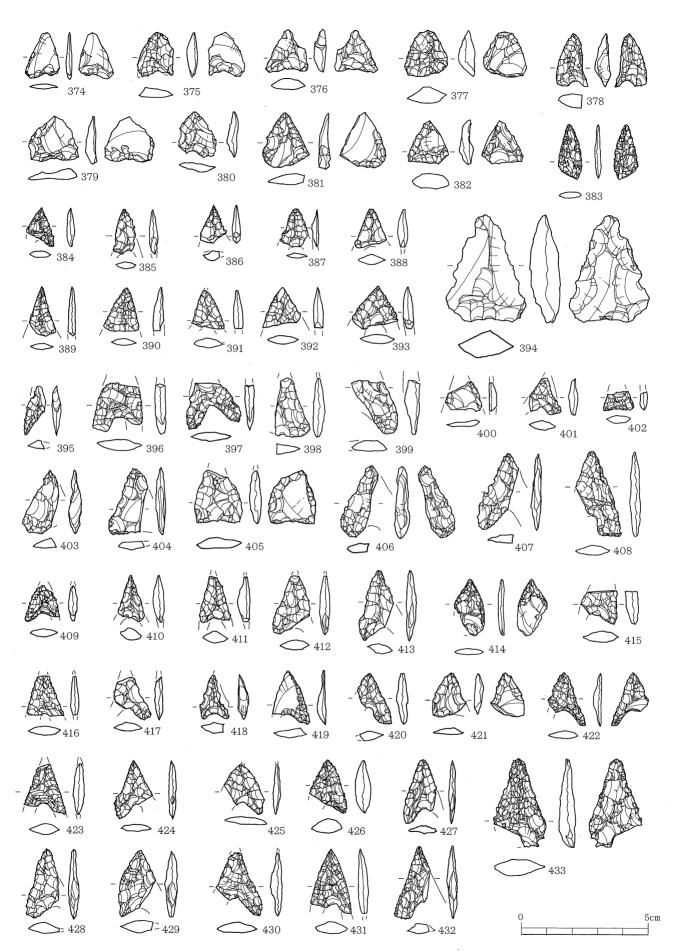
Ah上の包含層中で出土した石器の中には、本来、Ah下に包含されていたものが、遺構形成の過程などで混入した可能性が予想される。また、Ah上出土の石器について、細かな時期の検討を行なえていない。これらの問題点については、Ah上出土の石器にのみ見られる器種、器種の中での形態的特徴などを抽出、さらには、他遺跡との比較・検討を通じて明確にできるであろう。詳細は、今後の調査・研究の中で明らかにしていきたい。



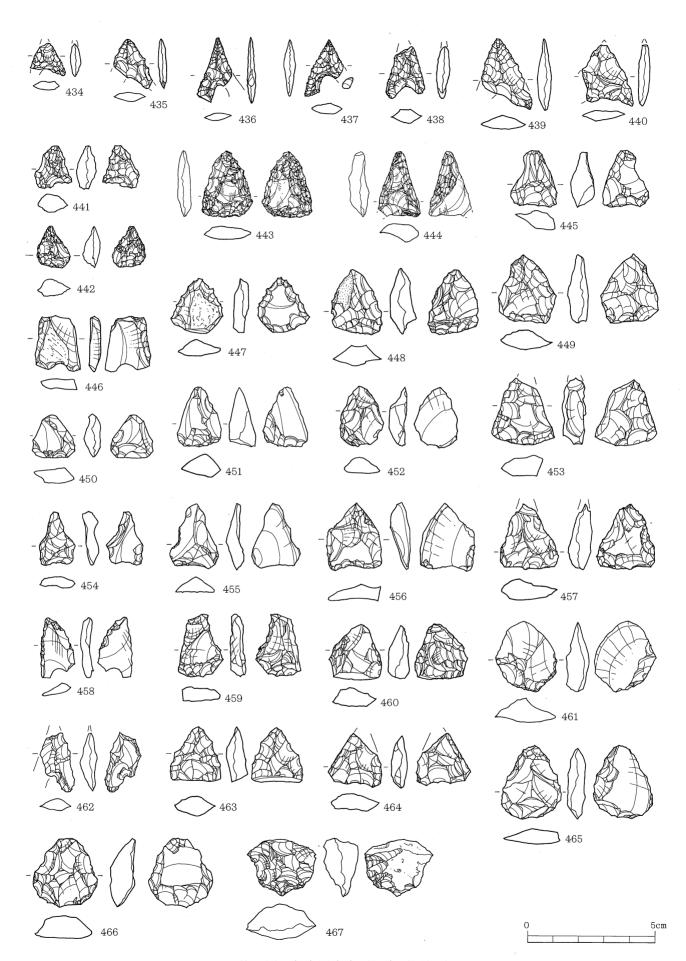
第25図 包含層出土石器実測図(1)



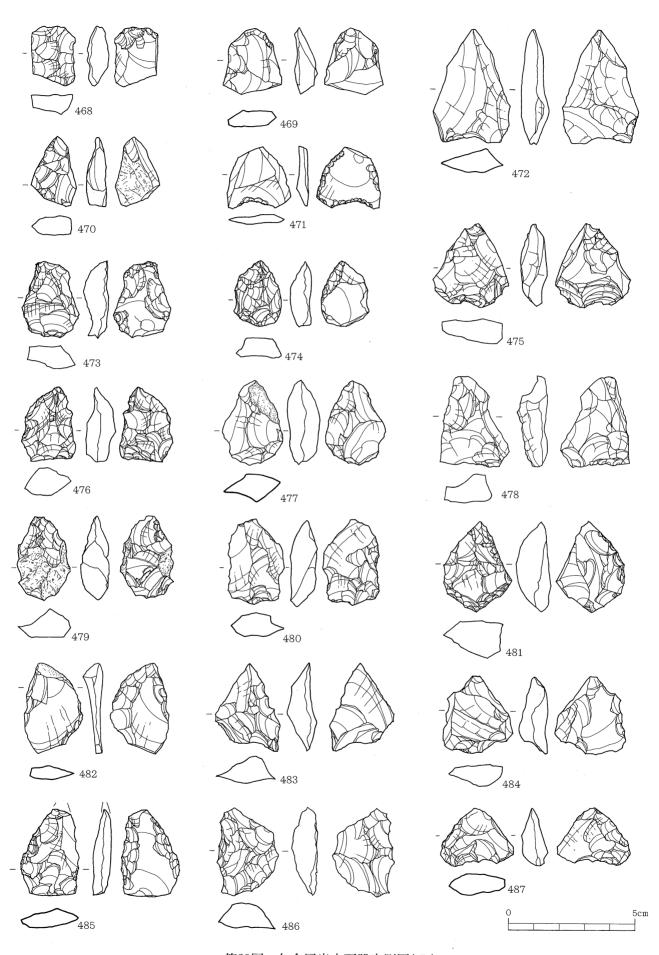
第26図 包含層出土石器実測図(2)



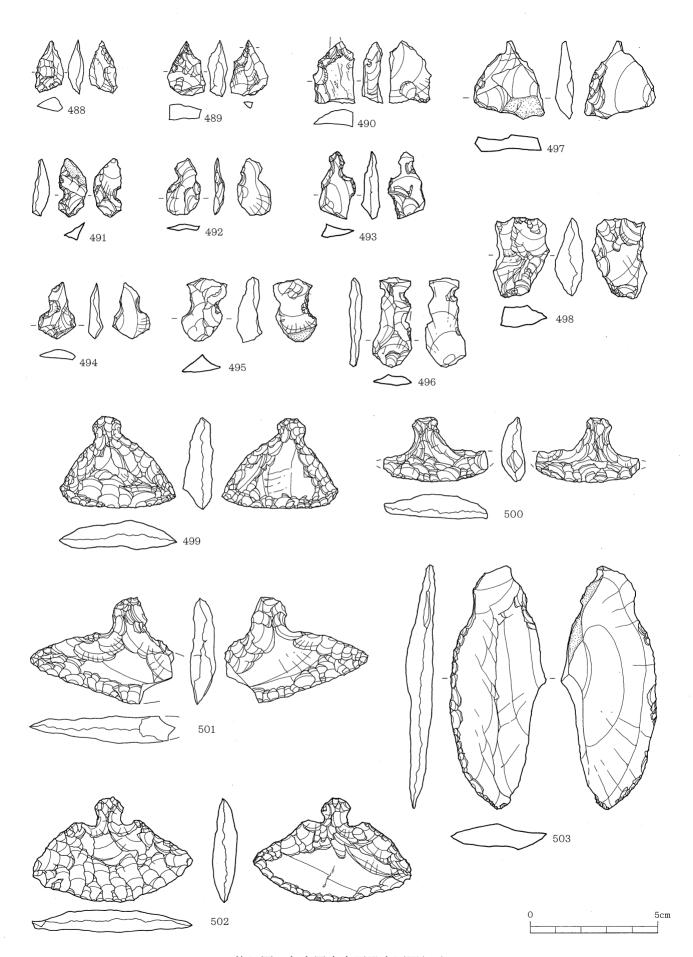
第27図 包含層出土石器実測図(3)



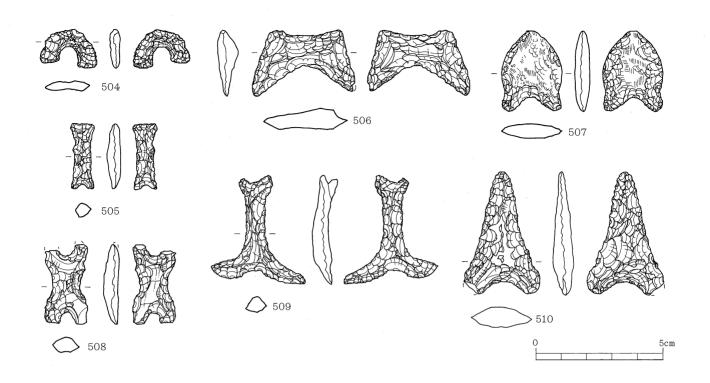
第28図 包含層出土石器実測図(4)



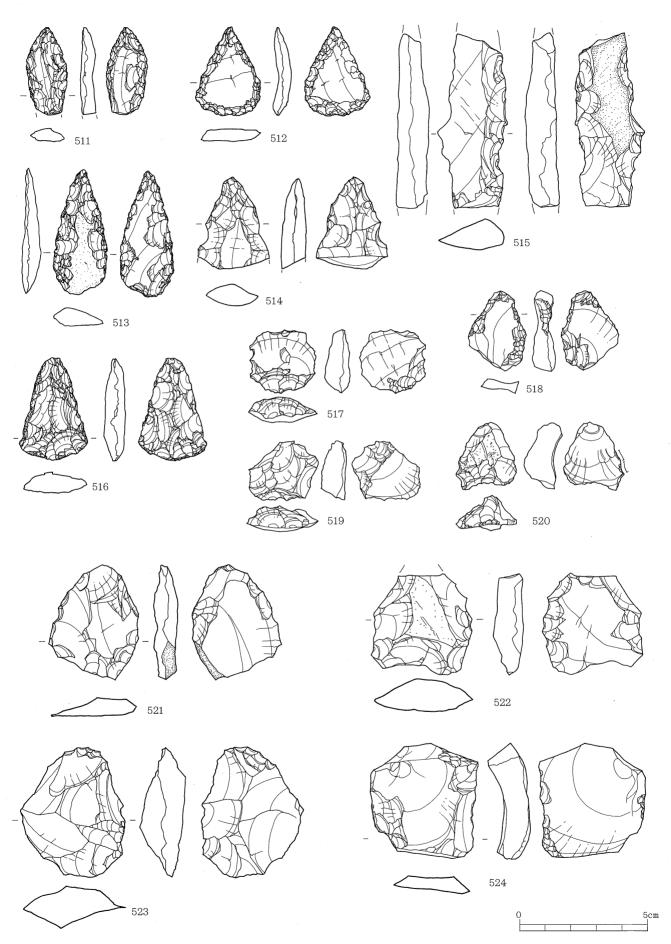
第29図 包含層出土石器実測図(5)



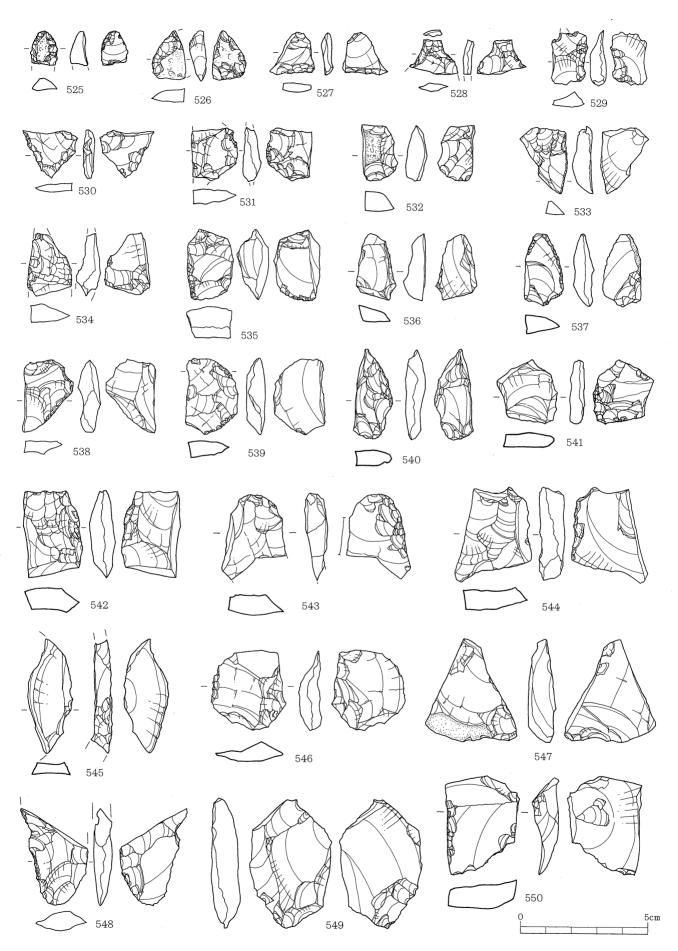
第30図 包含層出土石器実測図(6)



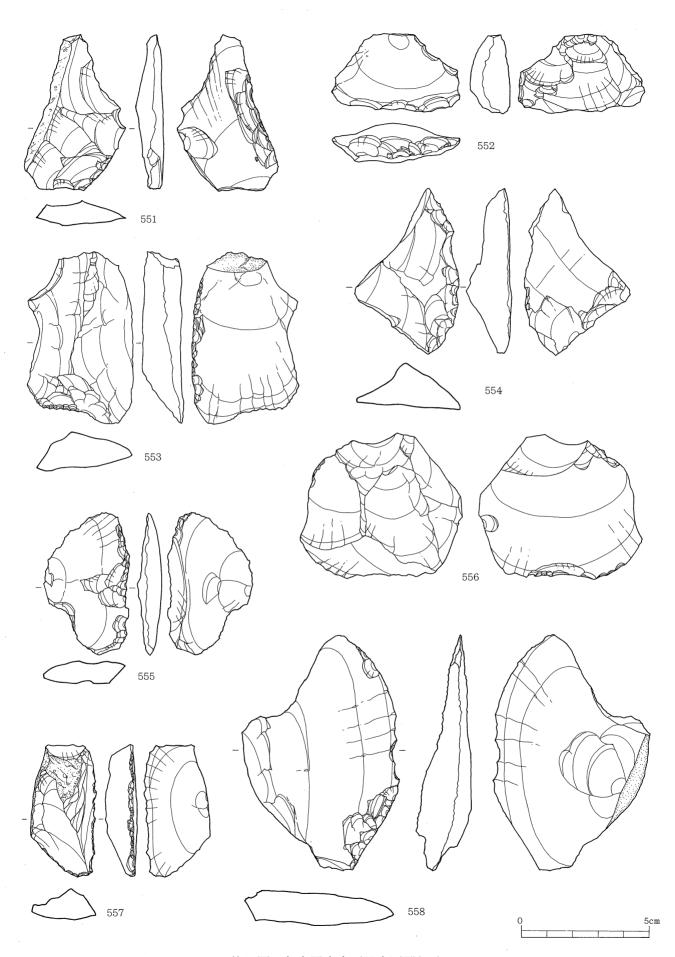
第31図 包含層出土石器実測図(7)



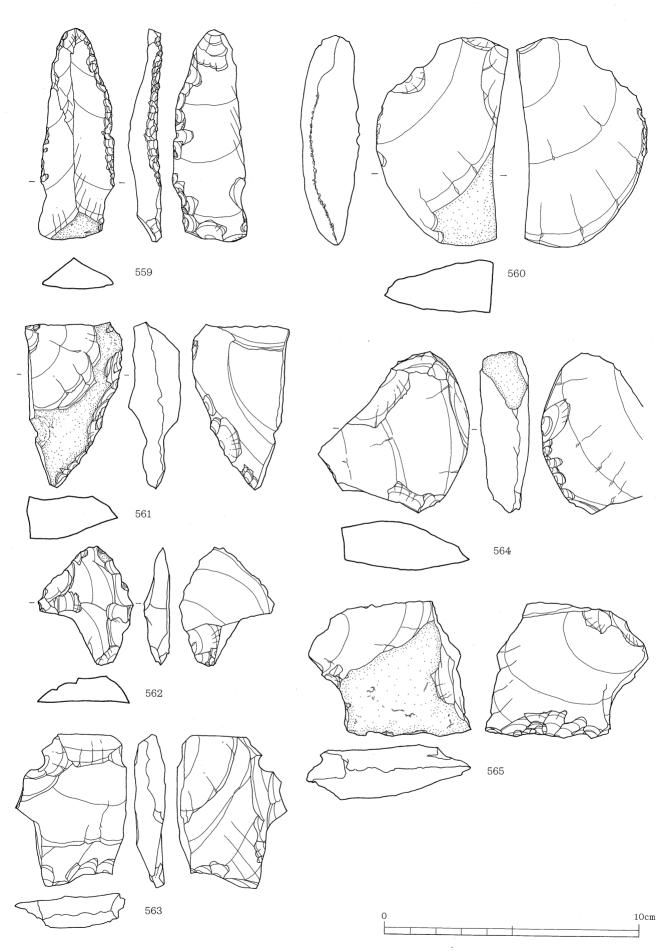
第32図 包含層出土石器実測図(8)



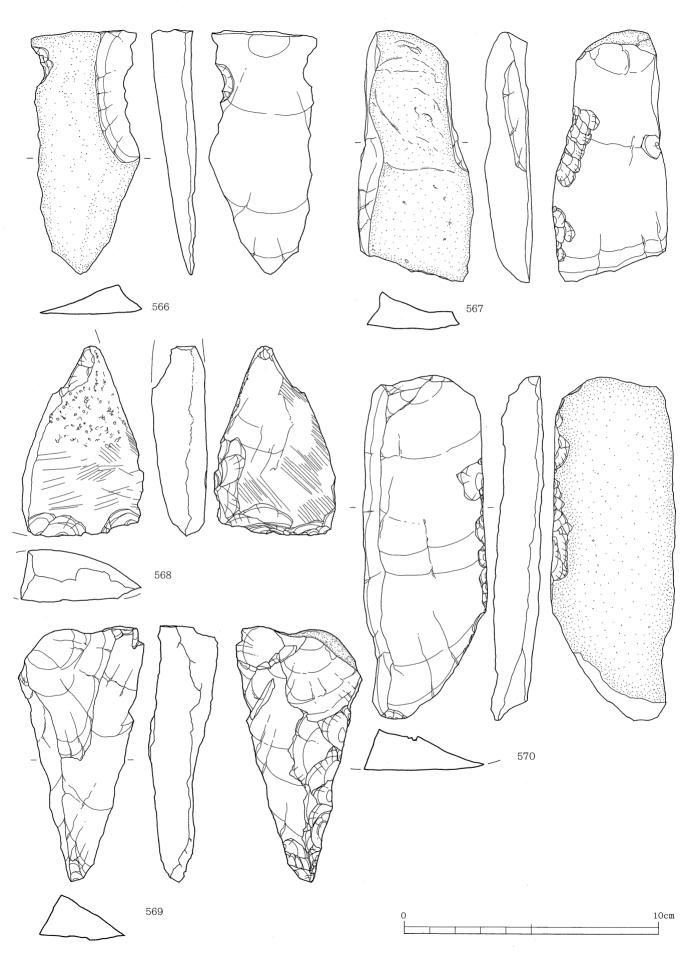
第33図 包含層出土石器実測図(9)



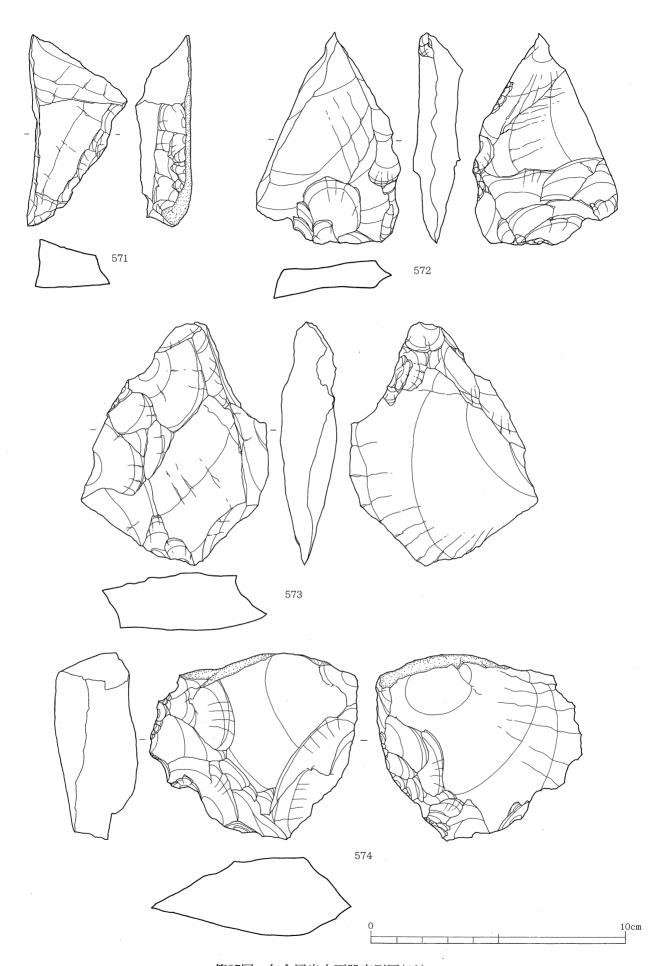
第34図 包含層出土石器実測図(10)



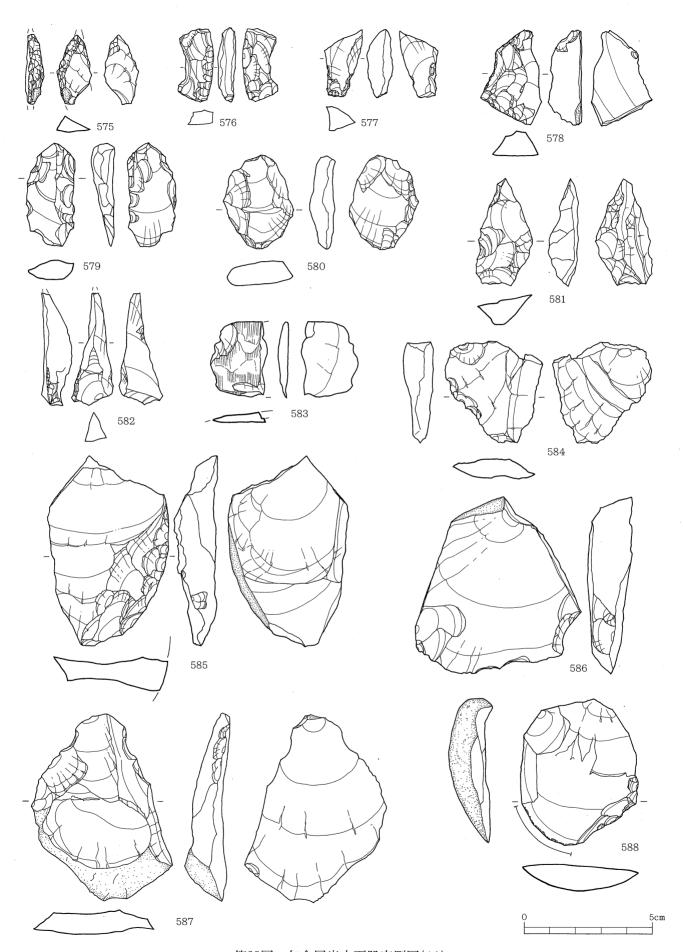
第35図 包含層出土石器実測図(11)



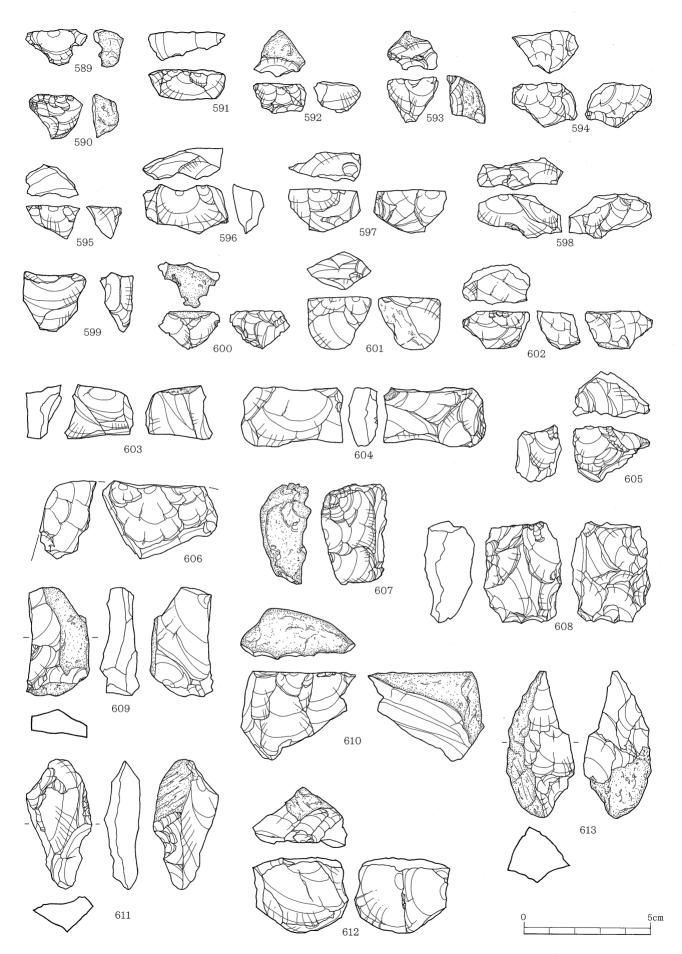
第36図 包含層出土石器実測図(12)



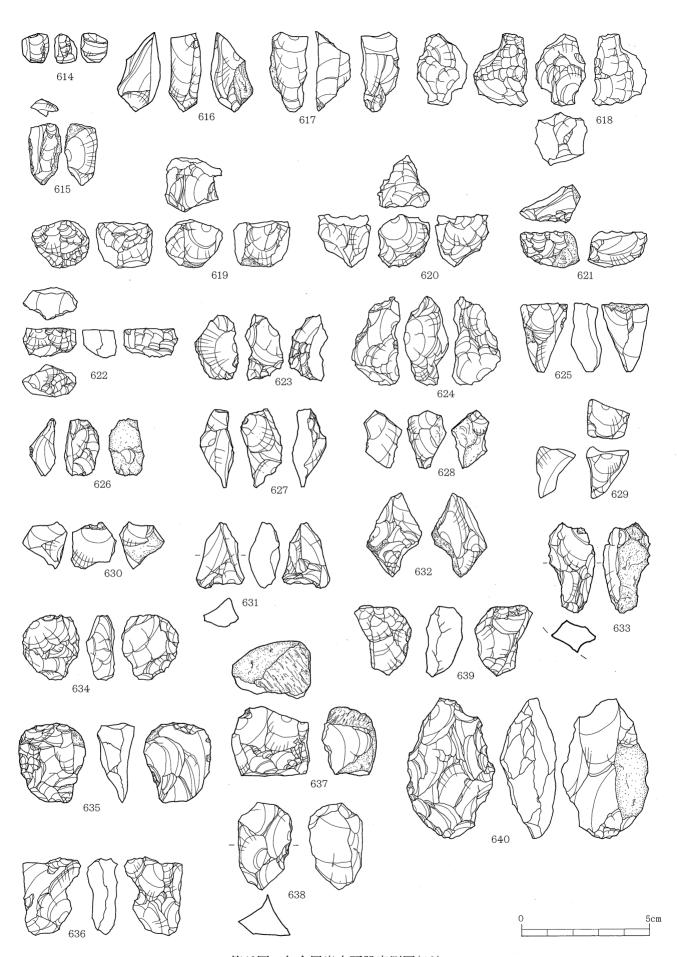
第37図 包含層出土石器実測図(13)



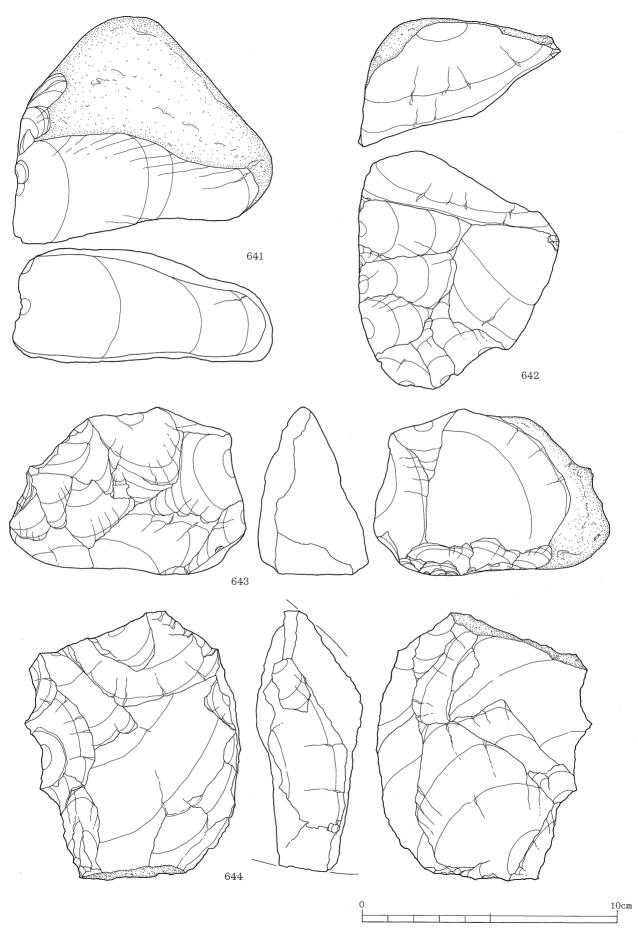
第38図 包含層出土石器実測図(14)



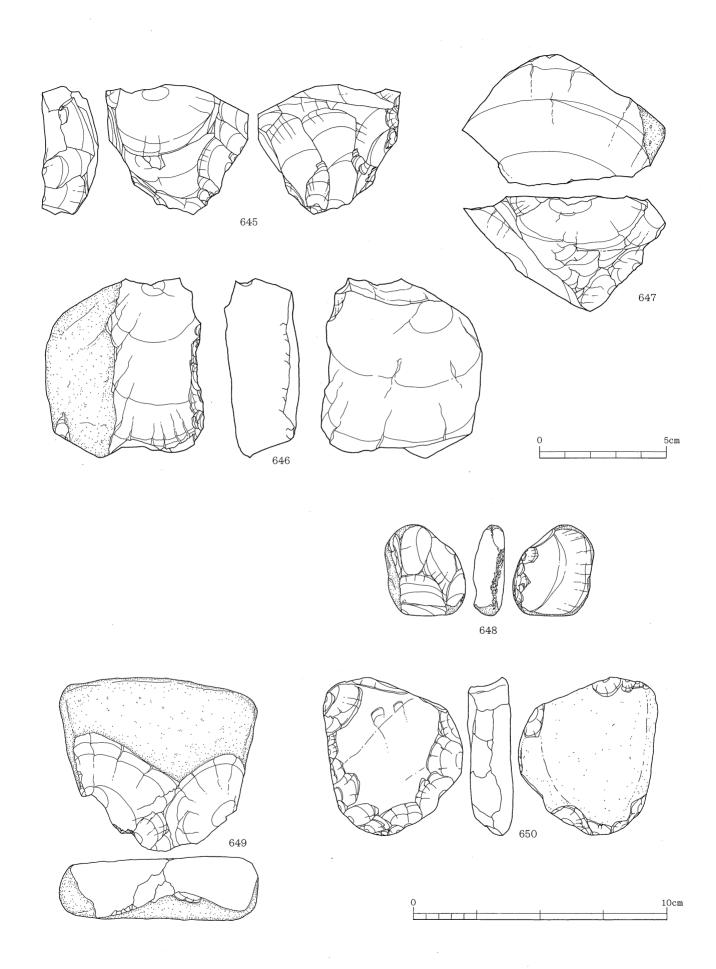
第39図 包含層出土石器実測図(15)



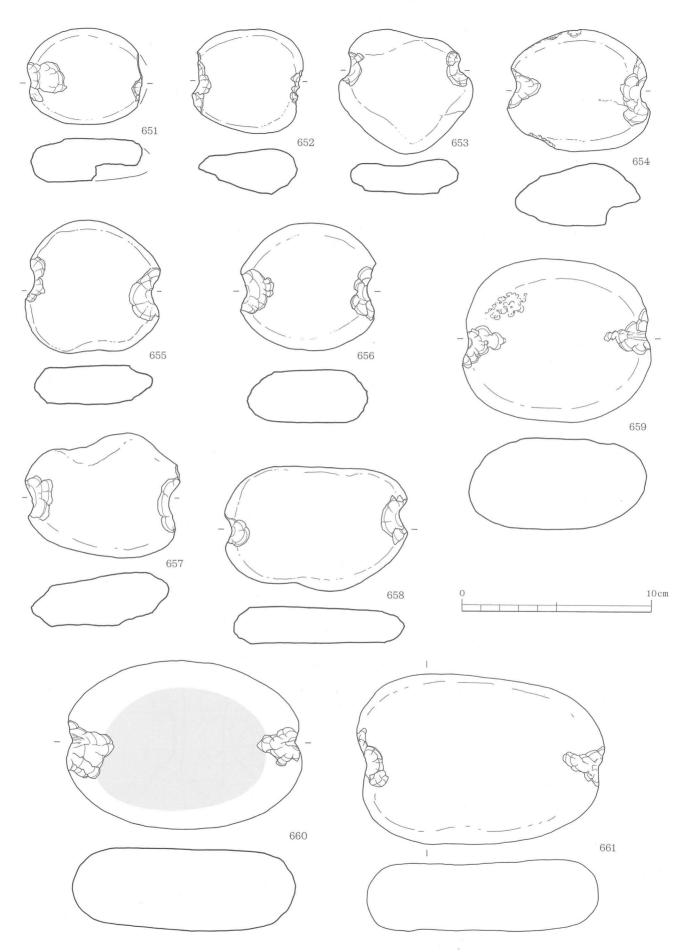
第40図 包含層出土石器実測図(16)



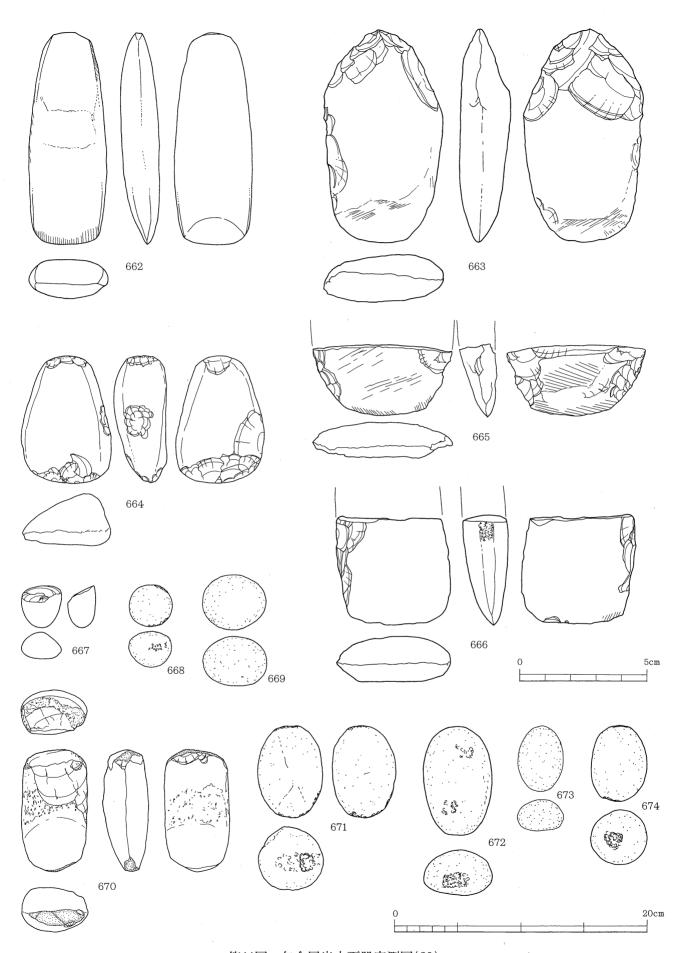
第41図 包含層出土石器実測図(17)



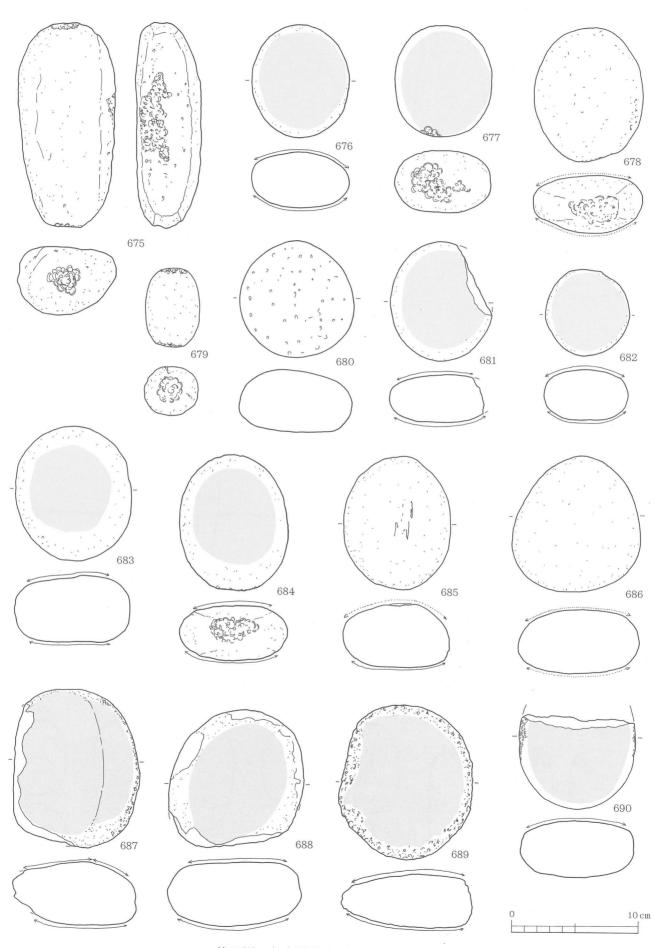
第42図 包含層出土石器実測図(18)



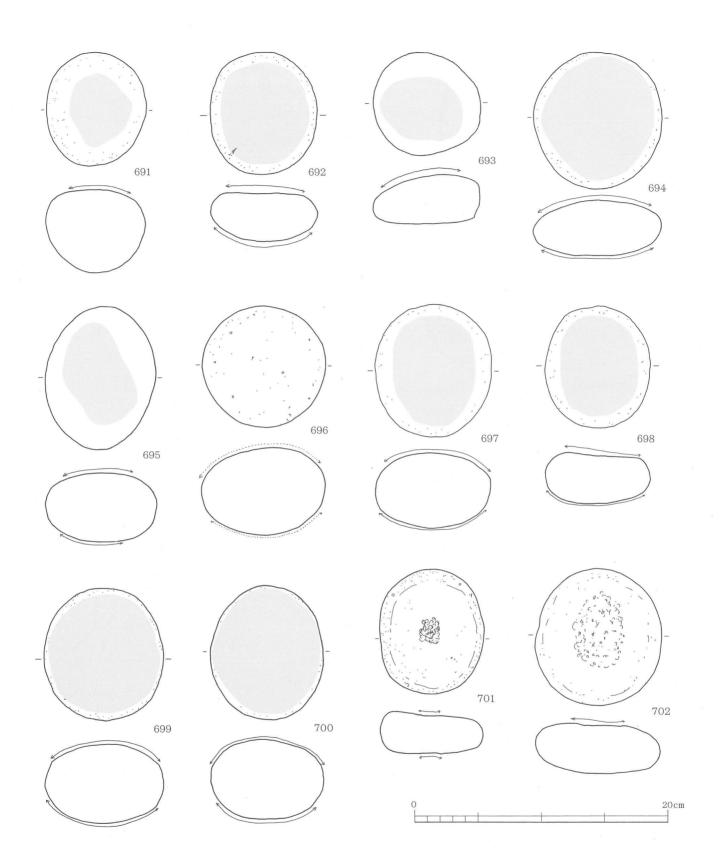
第43図 包含層出土石器実測図(19)



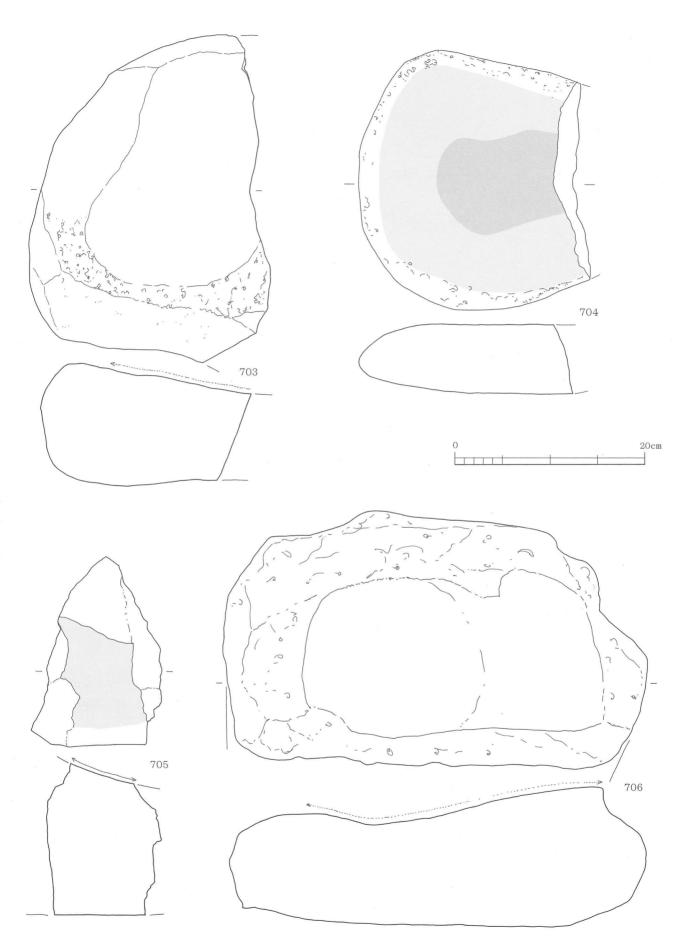
第44図 包含層出土石器実測図(20)



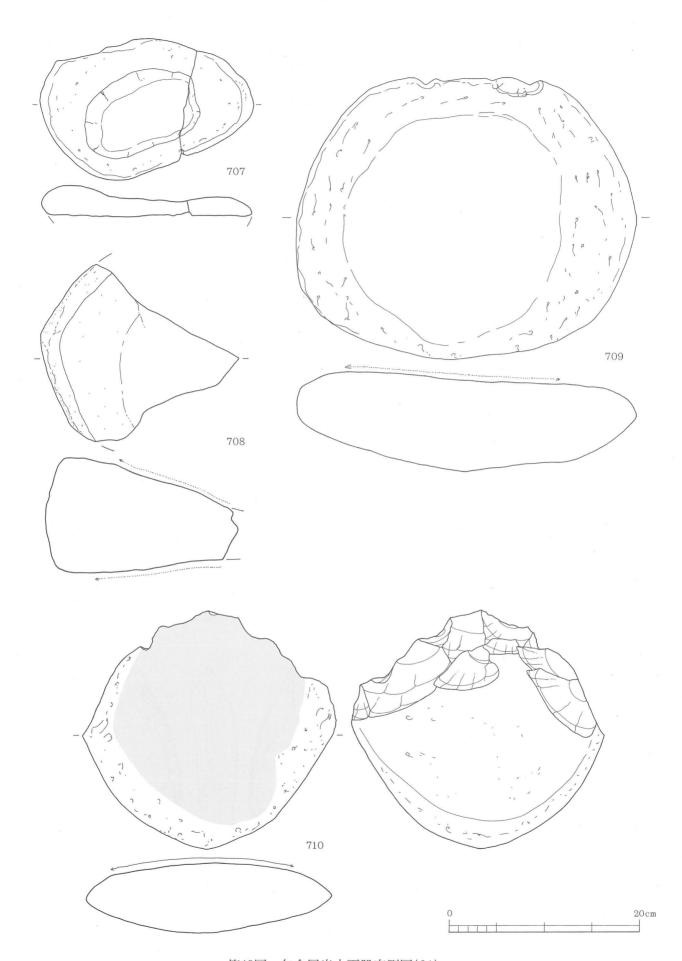
第45図 包含層出土石器実測図(21)



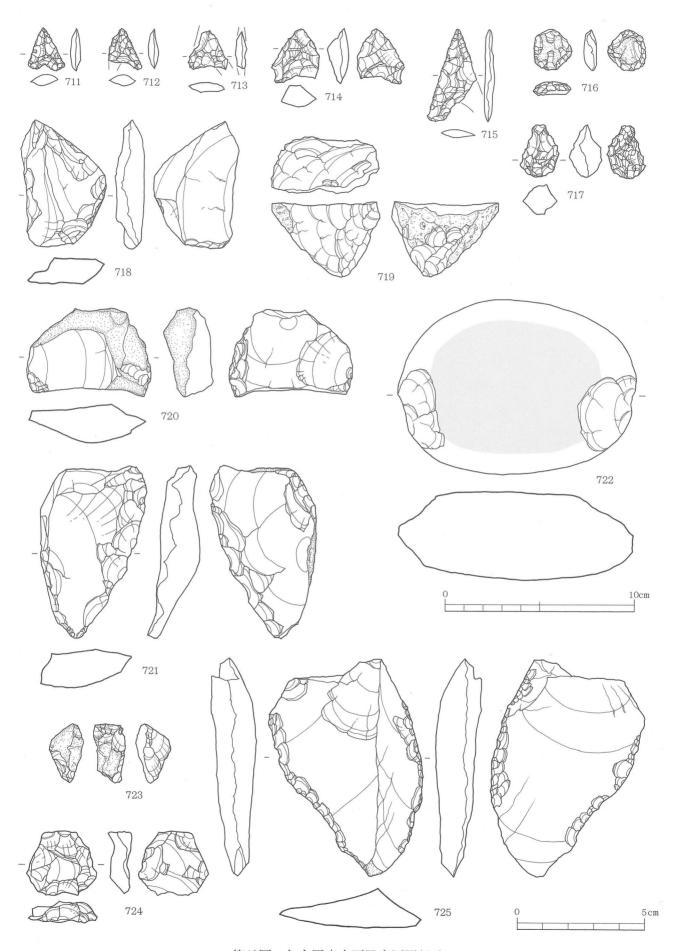
第46図 包含層出土石器実測図(22)



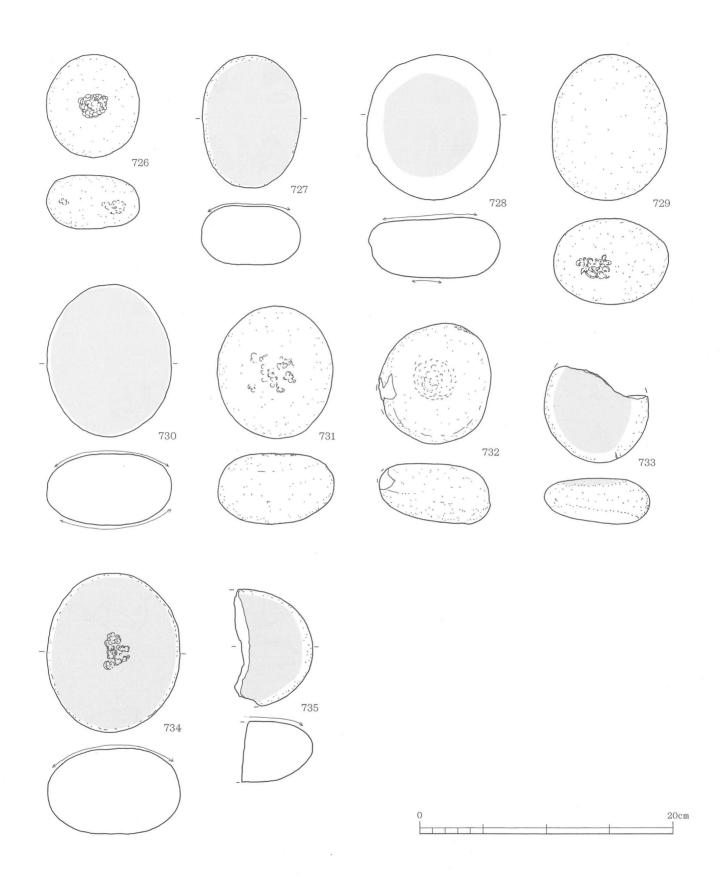
第47図 包含層出土石器実測図(23)



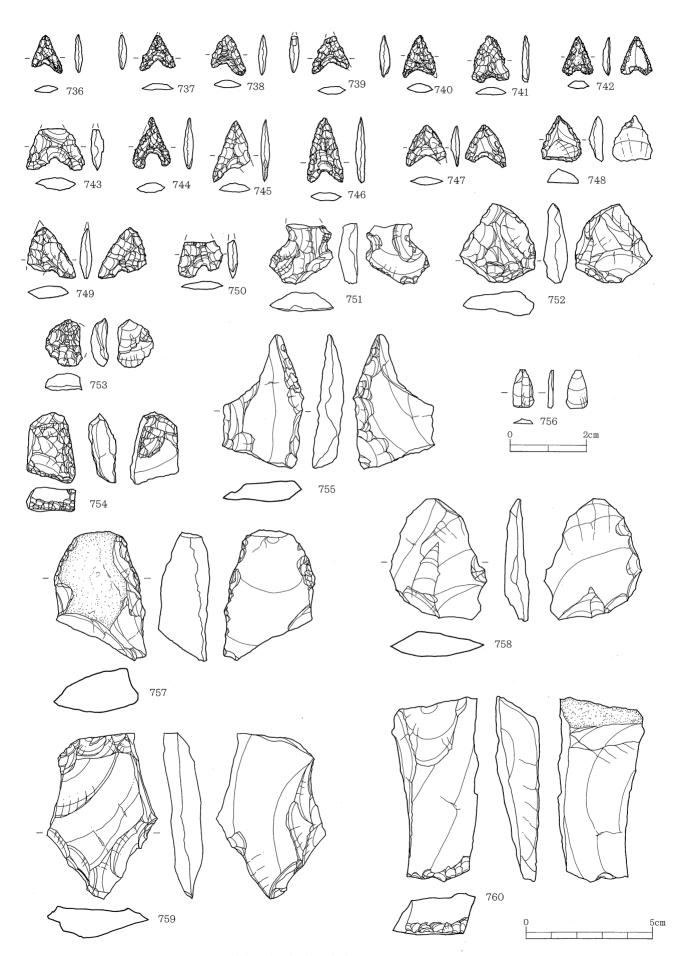
第48図 包含層出土石器実測図(24)



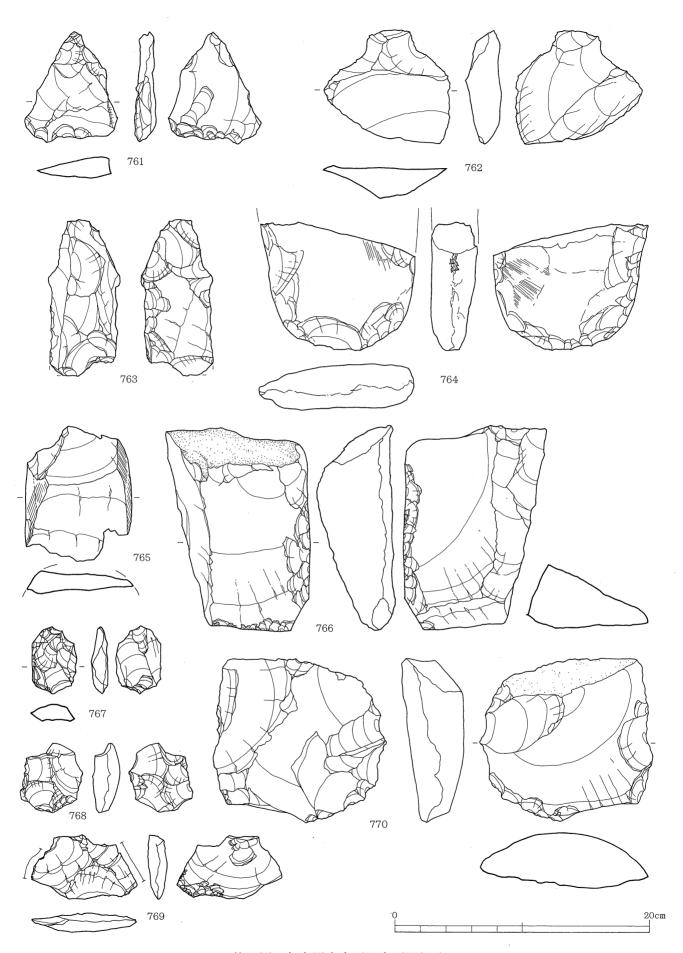
第49図 包含層出土石器実測図(25)



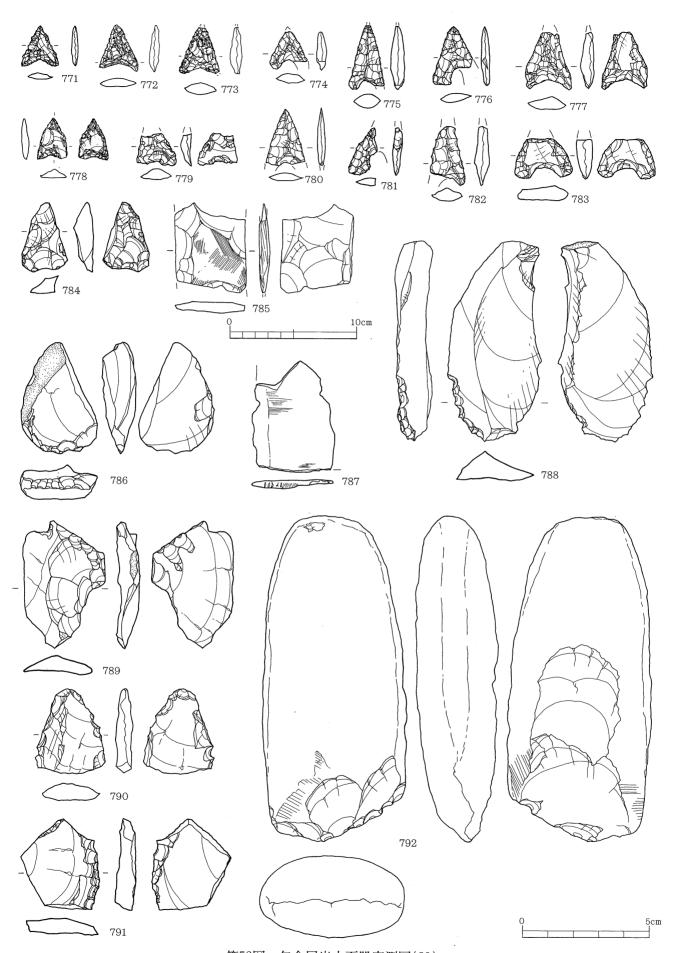
第50図 包含層出土石器実測図(26)



第51図 包含層出土石器実測図(27)



第52図 包含層出土石器実測図(28)



第53図 包含層出土石器実測図(29)

第3表 石器観察表(2)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
258	С	G5		石鏃	0.9	1.4	0.3	0.2	0b	VIII 5
259	b	I4		石鏃	1.0	1.5	0.3	0.4	0b	
260	a	A区	308	石鏃	0.9	1.6	0.5	0.4	Ch	X 5.1
261	b	I4		石鏃	1.3	1.3	0.5	0.4	0b	左脚欠損。
262	b	НЗ		石鏃	1.2	1.3	0.5	0.4	0b	先端より欠け。左脚欠損。
263	IV	A区	1378	石鏃	1.1	1.1	0.3	0.1	Ch	左脚欠損。
264	b	Н2	55	石鏃	1.1	1.4	0.2	0.2	Ch	22017 1010
265	IV -		9	石鏃	1.3	1.2	0.3	0.3		左脚欠損。
266	b	Н3	4	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.3		江/中八IR。
267	b	J2	7	石鏃	1.6	1.3	0.4	0.5	0b2	
268	b	H3		石鏃	1.7	1.5	0.4	0.5	0b1	左脚欠損。
269	b	Н3		石鏃	1.9	1.4	0.4	0.6		左脚欠損。
270	b	H4		石鏃	1.7	1.4	0.4		0b	左脚 次镇。
								0.7	Ch	上地方42公 五hr
271	b	Н3	0.1	石鏃	1.7	1.5	0.5	0.8	0b1	先端欠損後、再加工。
272	C		21	石鏃	1.8	1.7	0.4	0.7	S 1	J. No. C. De
273	IV		298	石鏃	1.6	1.2	0.3	0.4	Ch	左脚欠損。
274	b	M2	51	石鏃	1.4	1.4	0.5	0.5	0b1	左脚欠損。
275		A	660	石鏃	1.4	1.3	.0.4	0.5	0b1	A STATE OF THE STA
276	b	13		石鏃	1.8	1.2	0.3	0.4	0b1	0.000
277	Ш		171	石鏃	1.8	1.5	0.4	0.4	S	Marie Land
278	b	J2		石鏃	1.8	1.3	0.4	0.5	0b	左脚欠損後、再加工か。
279		A	436	石鏃	1.6	1.2	0.4	0.3	0b1	The second secon
280	b	Н3		石鏃	1.8	1.4	0.4	0.5	0b1	両脚欠損。
281		A	54	石鏃	1.6	1.4	0.3	0.3	0b	
282	b	H4		石鏃	1.5	1.6	0.5	0.6	0b	
283		A	651	石鏃	1.7	1.4	0.3	0.5	0b1	
284	IV		268	石鏃	1.8	1.5	0.5	0.9	0b1	
285	b	НЗ		石鏃	2.0	1.6	0.4	0.7	0b1	先端欠損。
286	Ш -			石鏃	2.1	1.6	0.5	1.0	Ch)
287	b	Н3		石鏃	2.3	1.7	0.6	1.5	0b	ALCOMO ALCOMO ACCORDANCE AND ACCORDA
288	b	НЗ		石鏃	2.1	1.6	0.5	1.0	0b1	
289	IV	AX	1331	石鏃	1.8	1.4	0.8	0.7	0b1	基部付近に瘤あり。
290	b	***	784	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.6	0b1	左脚欠損。
291	b	13	701	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.5	S	不定形剥片素材。
292	b	J2		石鏃	1.9	1.3	0.3	0.3		左脚·先端欠損。
293	b	H3		石鏃	2.1	1.5	0.5	0.8		工师*儿细人1貝。
294	IV	AX	243	局部磨製石鏃	2.1	1.6	0.3		Ch	北石 / 江 麻 木 川
	IV IV	AIX	1358					1.0	Sh	背面に研磨あり。
295		H4	1999	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.4	An	The state of the s
296	b			石鏃	1.6	1.3	0.4	0.5	0b1	
297	b	J2	0.5	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.4	0b1	右脚欠損。
298	IV	A 1:7	35	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.4	An	右脚欠損。
299	IV	AIX	476	石鏃	1.7	1.4	0.2	0.5	0b	
300	b	Н5	35	石鏃	1.5	1.6	0.4	0.3	0b1	
301	b	G2	17	石鏃	1.5	1.4	0.4	0.4	0b1	
302		J2	40.	石鏃	2.0	1.9	0.6	1.1		先端欠損。
303	IV		1318	石鏃	2.4	1.4	0.5	0.9	Ch	
304	b	H4		石鏃	2.5	1.9	0.3	0.9	0b1	
305	b	H4		石鏃	2.2	1.2	0.4	0.8	0b1	A 1 1
306	b下	13		石鏃	2.3	1.4	0.4	0.6	0b1	右脚欠損。
307	1.		404	石鏃	2.1	1 5	0.4	1 0	0.1	
	b		104			1.5		1.2	Sh	
308	b	Н3	104	石鏃	2.3	1.3	0.5	1.0	Ch	
309		H3 A⊠	214	石鏃 石鏃						先端欠損。 右脚欠損。
	b			石鏃	2.3	1.3	0.5	1.0	Ch	
309	b III	A区		石鏃 石鏃	2.3 1.8	1.3 1.3	0.5	1.0	Ch Ob1	
309 310	b III b	A⊠ H4		石鏃 石鏃 石鏃 石鏃	2.3 1.8 2.4 2.5	1.3 1.3 1.4 1.5	0.5 0.4 0.4 0.4	1.0 0.4 0.7	Ch Ob1 Ob1 An	右脚欠損。
309 310 311 312	b III b b	A⊠ H4		石鏃 石鏃 石鏃 石鏃	2.3 1.8 2.4	1.3 1.3 1.4 1.5 1.8	0.5 0.4 0.4 0.4 0.5	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9	Ch Ob1 Ob1 An An	右脚欠損。 右脚欠損。
309 310 311 312 313	b III b	A区 H4 J2	214	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2	1.3 1.3 1.4 1.5 1.8 1.6	0.5 0.4 0.4 0.4 0.5 0.6	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9	Ch Ob1 Ob1 An An Ch	右脚欠損。 右脚欠損。 左端欠損。
309 310 311 312 313 314	b III b b	A区 H4 J2 I4 A	214	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8	Ch Ob1 Ob1 An An Ch	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。
309 310 311 312 313 314 315	b III b b b F b	A区 H4 J2	214 18 585	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1	Ch Ob1 Ob1 An An Ch H1 Ob1	右脚欠損。 右脚欠損。 左端欠損。 左端欠損。 右脚欠損。 先端から欠損。
309 310 311 312 313 314 315 316	b III b b b b b b	A × H4 J2 I4 A J2	18 585 909	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7	1.3 1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0	Ch Ob1 An An Ch H1 Ob1 Ch	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。
309 310 311 312 313 314 315 316 317	b III b b b IV	A MA J2 I4 A J2 F21	214 18 585	石 石	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.4	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6	Ch	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。 右脚欠損。 先端から欠損。 右脚欠損。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318	b III b b b IV b	A × H4 J2 I4 A J2	214 18 585 909 カ	石 五 振 五 振 五 振 五 振 五 振 五 振 五 振 五 振 、 五 、 振 、 五 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.3	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.5	Ch Ob1 Ob1 An An Ch H1 Ob1 Ch Ob Ob1	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。 左脚欠損。 先端から欠損。 右脚欠損。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319	b III b b b IV b b	H4 J2 I4 A J2 F21 J2	18 585 909	石 石	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0 2.1	1.3 1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.4 0.3	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.9	Ch	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。 先端から欠損。 右脚欠損。 「両脚欠損。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320	b III b b b IV b b b b b b	A X	214 18 585 909 カ	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0 2.1 1.8	1.3 1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3 1.3	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.9	Ch Ob1 Ob1 An An Ch H1 Ob1 Ch Ob Ob Ob1 Ob Ob1	右脚欠損。 右脚欠損。 左端欠損。 右脚欠損。 左端欠損。 右脚欠損。 左端から欠損。 右脚欠損。 両脚欠損。 馬脚欠損。 ・左端・左脚欠損。 ・ 佐端・左脚欠損。 ・ 鋸歯縁。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321	b III b b b T V b b b T b b b T b b b T b b b T b b b T b b b T b b b T T b b b T T b b b T T b b b T T b b T T b b T T T b T	A⊠ H4 J2 I4 A J2 F21 J2 F21 J2 I4 J5	214 18 585 909 703	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石 番鏃 石 番 番 番 番	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0 2.1 1.8	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3 1.3 1.4 1.6	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.9 0.5 0.9	Ch Ob1 Ob1 An An Ch H1 Ob1 Ch Ob Ob Ob1 Ob1 Ob1 Ob1	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 病脚欠損。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322	b	A⊠ H4 J2 I4 A J2 F21 J2 F21 J2 I4 J5 A⊠	214 18 585 909 カ 703	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石 番鏃 石 番 鏃 番 番 鏃 番 番 鏃 番 番 番 番	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0 2.1 1.8 1.9	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3 1.3 1.5 1.4 1.6	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.9 0.5 0.9	Ch	右脚欠損。 右脚欠損。 左端欠損。 右脚欠損。 左端欠損。 右脚欠損。 左端から欠損。 右脚欠損。 両脚欠損。 馬脚欠損。 ・左端・左脚欠損。 ・ 佐端・左脚欠損。 ・ 鋸歯縁。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323	b	A⊠ H4 J2 I4 A J2 F21 J2 F21 J2 I4 J5	214 18 585 909 703	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石 番鏃 石 番 鏃 石 番 鏃 石 番 鏃 石 番 銭 番 番 番 番 番 番 番 番 番 番 番 番 番 番 番 番 番	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0 2.1 1.8 1.9 2.0	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3 1.3 1.5 1.4 1.6	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.9 0.5 0.9 0.5 0.9	Ch Ob1 Ob1 An An An Ch H1 Ob1 Ch Ob Ob1 Ob Ob1 Ob Ob1 Ob1 Ob1 Ob1 Ob1 Ob	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 病脚欠損。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324	b	A⊠ H4 J2 I4 A J2 F21 J2 F21 J2 I4 J5 A⊠ H2	214 18 585 909 カ 703	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石 五鏃 石 五鏃	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0 2.1 1.8 1.9 2.0 1.7	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3 1.3 1.5 1.4 1.6 1.1	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.5 0.9 0.5 0.9	Ch Ob1 Ob1 An An An Ch H1 Ob1 Ch Ob Ob Ob1 Ob1 Ob1 Ob1 An	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 病脚欠損。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325	b	A⊠ H4 J2 I4 A J2 F21 J2 F21 J2 I4 J5 A⊠	214 18 585 909 703 124 97	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石 石鏃 石 石鏃 石 石鏃 石	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0 2.1 1.8 1.9 2.0 1.7 3.2	1.3 1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3 1.3 1.5 1.4 1.6 1.1	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.6 0.6	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.9 0.5 0.9 0.5 0.9 0.5 0.9 0.7 0.8	Ch Ob1 Ob1 An An Ch H1 Ob1 Ch Ob Ob1 Ob1 Ob1 Ob1 Ch Ob1 An An	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 病脚欠損。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。
309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324	b	A⊠ H4 J2 I4 A J2 F21 J2 F21 J2 I4 J5 A⊠ H2	214 18 585 909 カ 703	石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石鏃 石 五鏃 石 五鏃	2.3 1.8 2.4 2.5 2.4 2.2 2.4 2.7 1.7 1.8 2.0 2.1 1.8 1.9 2.0 1.7	1.3 1.4 1.5 1.8 1.6 1.7 1.8 1.5 1.3 1.3 1.5 1.4 1.6 1.1	0.5 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3 0.4 0.3	1.0 0.4 0.7 0.8 0.9 1.8 1.1 1.0 0.6 0.5 0.5 0.9 0.5 0.9	Ch Ob1 Ob1 An An Ch H1 Ob1 Ch Ob Ob1 Ob1 Ob1 Ob1 An An Ob1	右脚欠損。 右脚欠損。 先端欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 た端から欠損。 右脚欠損。 病脚欠損。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。

第3表 石器観察表(2)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
328	b	G4	田勺	石鏃	1.4	1.5	0.3	0.3	0b	川
329	b		1369	局部磨製石鏃	1.4	1.2	0.3	0.3	Sh	表裏面に研磨痕。
330	b	J2		石鏃	1.9	1.7	0.6	1.2	.0b	3000 CE 10 1 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1
331	b	I4		石鏃	2.0	1.6	0.4	0.9	0b	
332	b	H4		石鏃	1.9	1.6	0.5	1.2	Ch	the state of the s
333	b	H4		石鏃	2.1	1.9	0.5	1.6	Ch	
334	b		405	石鏃	2.4	1.9	0.7	2.4	KSh	A MARIE AND A SECOND ASSESSMENT OF A SECOND ASSESSMENT
335	b		755	石鏃	2.0	1.8	0.3	1.0	An	al , a e g p
336	IV		456	石鏃	1.8	1.5	0.5	0.9	Ch	477
337	1.	A	414	石鏃	2.3	1.8	0.5	1.8	Ch	
338	b N/	H3	0	石鏃	2.6	1.6	0.6	2.2	Ch	
339	IV b	E20	1052	石鏃	1.8	1.6	0.2	0.5	Ch	+ 840 fra 4D
341	b		1052	石鏃 石鏃	1.6	1.4	0.3	0.3	0b1	左脚欠損。
342	VI	J5	148	石鏃	2.0	1.7	0.4	0.6	Ch Ob1	
343	b	H4	140	石鏃	1.9	1.4	0.4	0.6	0b1	
344	b	J2		石鏃	1.9	1.4	0.4	0.4	0b1	
345	b	A区	704	石鏃	2.1	2.0	0.6	1.5	0b	
346	a	AK	74	石鏃	2.1	2.2	0.6	1.6	Ch	
347	b	H4		石鏃	1.6	1.7	0.3	0.5	Ch	
348	b	H4		石鏃	2.5	1.5	0.6	1.4	An	
349	b	Н3		石鏃	3.1	1.6	0.5	1.3	0b	腰岳産黒曜石の可能性高い。
350	b	J2		石鏃	2.6	1.8	0.4	1.1	0b1	8-10
351	b	Н3		石鏃	2.5	1.4	0.5	1.1	Ch	
352	b	J2		石鏃	2.6	1.7	0.4	1.1	An	右脚を調査中に欠損。
353	С		163	石鏃	2.6	2.1	0.4	1.6	S 1	先端欠損。
354	b下	I4		石鏃	2.9	1.7	0.5	1.2	H1	右脚欠損。
355	b	I3		石鏃	2.6	1.7	0.4	1.5	0b2	
356	b IV	I4		石鏃 局部磨製石鏃	2.8	1.6	0.6	1.7	An	distribution for the con-
357 358	b	C区	92	石鏃	2.9	1.6	0.4	1.9	KS 1	背面に研磨あり。
359	IV		252	石鏃	2.4	1.5	0.6	1.1	Ob1 An	右脚欠損。
360	b	Н2	202	石鏃	2.0	1.6	0.6	2.0	0b1	
361	b	G5		石鏃	1.0	1.1	0.0	0.2	Ch	
362	b	J2		石鏃	1.2	1.2	0.3	0.3	0b	
363	b	Н3		石鏃	1.5	1.4	0.4	1.6	Ch	
364	b	H4		石鏃	3.2	1.9	0.5	1.3	Ch	* 611 1.
365	b	J2		石鏃	4.0	2.3	0.4	2.7	An	先端は調査中に欠損。
366	b	НЗ		石鏃	1.9	1.8	0.5	1.6	Ch	
367	b		916	石鏃	2.2	1.9	0.4	1.2	0b1	素材剥片の縁辺を石鏃先端としてそのまま利用
368	b下	Н3	0.0	石鏃	2.5	1.6	0.6	1.4	An	素材剥片の折断面を右側縁に残す。
369	b			石鏃	2.6	2.3	0.7	2.8	S	
370	b	I4		石鏃	3.0	2.3	0.6	2.7	Ch	
371	b	G5		石鏃	2.7	2.2	0.5	1.6	0b1	
372		I4		石鏃	2.1	1.7	0.6	1.3	0b1	素材剥片にほとんど無調整で成形。
373		H3		石鏃	2.7	2.0	0.7	2.5		右側縁に、素材剥片の打面を残す。
	b IV	13	1115	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.4	0b1	素材剥片形状をほぼそのまま残す。
375	b	I4	1115	石鏃	1.8	1.5	0.5	1.0	0b1	
377	b	H3		石鏃	1.8	1.7	0.5	1.0	Ch Ob	
378	С	110	218	石鏃	2.1	1.7	0.6		0b	
379	b	Н3	210	石鏃	1.8	2.0	0.5	1.3	Ch	素材剥片形状をほぼそのまま残す。
	b	J2		石鏃	1.8	1.6	0.4		0b	裏面は素材剥片の剥離面のまま
381	b			石鏃	2.2	1.8	0.5	1.3	0b1	右側面は素材剥片の折断面。
382	b	Н3		石鏃	1.7	1.6	0.6	1.1	Ch	右側面は素材剥片の折断面。
383	a	A区	392	石鏃	2.2	0.9	0.2	0.4	0b	完形品。欠損品の再加工か。
384	b	J2		石鏃	1.5	1.1	0.3	0.4	0b	左脚欠損。
385	a		385	石鏃	1.7	0.9	0.3	0.5	An	両脚欠損。
386	b	12		石鏃	1.5	1.0	0.4		0b2	両脚欠損。
387	b	J2		石鏃	1.5	1.2	0.3	0.3	0b1	両脚欠損。
	b	G4		石鏃	1.5	1.2	0.4	0.5	0b1	両脚欠損。
389	b	H3		石鏃	1.9	1.1	0.3	0.5	0b2	両脚欠損。
390	b	I4	E00	石鏃	1.8	1.9	0.5	0.7	0b1	両脚欠損。
	b n/		788	石鏃	1.6	1.3	0.4		0b1	而脚欠損。
392	IV		1627	石鏃	1.6	1.5	0.4	0.6	0b	両脚欠損。 声脚な出
393	b b		200	石鏃	1.7	1.8	0.4	1.0	Ch	両脚欠損。 (株の石供は、大阪
394 395	b	13	328	石鏃 石鏃	4.3	3.2	1.2	11.5	S	他の石鏃に比べ、大形。
	b	H4		石鏃	2.0	0.9	0.4	0.3	0b1	左脚のみ残存。 生態、左脚を提
306		0.94		7.1到肽	1.9	4.0	0.4	1.9	Ch	先端·右脚欠損。
396 397	IV	J1/2		石鏃	1.9	2.2	0.4	0.9	0b	先端欠損。

第3表 石器観察表(2)

398	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
	b	Н3		石鏃	2.4	1.4	0.5	1.2	Ch	節理により破損。
	b	Н3		石鏃	2.2	1.8	0.6	1.3	0b1	右脚のみ残存。
	IV		180	石鏃	1.2	1.5	0.3	0.5	Ch	先端·両脚欠損。
	b	H4	1.5	石鏃	1.4	1.3	0.4	0.5	0b	先端·左脚欠損。
_	b	H4		石鏃	0.8	1.2	0.3	0.3	0b	先端欠損。
	b	J2		石鏃	2.5	1.4	0.5	1.2	0b1	右側欠損。
_	IV		80	石鏃	2.6	1.6	0.4	1.2	Ch	右側欠損。
_	b -	Н3		石鏃	2.1	1.9	0.5	1.8	Ch	先端欠損。
	b	H4	150	石鏃	2.9	1.0	0.6	1.3	0b	右側欠損。
	IV		459	石鏃	3.0	1.7	0.4	1.1	0b1	右側欠損。
	b	A区	775	石鏃	3.4	1.8	0.4	1.9	Ch	左脚欠損。
	b			石鏃	1.5	1.4	0.4	0.4	0b1	先端·右脚欠損。
	b		270	石鏃	1.9	1.1	0.5	0.7	H1	両脚欠損。
	b	13		石鏃	1.9	1.3	0.5	0.9	0b1	先端·両脚欠損。
-	b	13		石鏃	2.3	1.5	0.4	1.0	0b1	先端·右脚欠損。
	b	13		石鏃	2.8	1.3	0.4	1.1	0b1	右脚欠損。
	Ш	A区	161	石鏃	2.3	1.2	0.2	0.6	0b2	右脚欠損。
	a		104	石鏃	1.3	1.4	.0.5	0.9	Ch	先端•左脚欠損。
_	b	12		石鏃	1.6	1.5	0.4	0.7	0b1	先端·両脚欠損。
	b	Н3		石鏃	1.7	1.4	0.3	0.6	Ch	先端·左脚欠損。
	b	J2		石鏃	1.7	1.2	0.4	0.5	0b1	右側欠損。
	b	I4		石鏃	2.2	1.5	0.4	0.7	0b1	左脚欠損。
-	b	H2	66	石鏃	2.0	1.4	0.5	0.7	Ch	左脚欠損。
_	b	J2	7	石鏃	1.6	1.4	0.4	0.6	0b1	右脚欠損。
422	b	Н3		石鏃	2.1	1.5	0.4	0.5	0b1	左脚欠損。
_	b下	13		石鏃	2.0	1.2	0.4	1.0	Ch	先端·両脚欠損。
424	b	H2	1	石鏃	2.3	1.6	0.3	0.7	0b1	右脚欠損。
425	b	J2	455.0	石鏃	2.0	1.6	0.3	0.6	0b1	左脚欠損。
426	b	J2		石鏃	2.1	1.5	0.6	1.3	0b	左脚欠損。
427	IV		394	石鏃	2.5	1.3	2.5	0.7	0b1	右脚欠損。
428	b	J2		石鏃	2.7	1.3	0.4	1.1	0b1	右脚欠損。
429	b下	I3		石鏃	2.7	1.5	0.5	1.3	0b	右脚欠損。
430	b	G4		石鏃	2.5	1.9	0.5	1.4	0b1	先端·左脚欠損。
431	b		1316	石鏃	2.6	1.7	0.5	1.4	Ch	両脚欠損。
432	b	Н3		石鏃	2.9	1.4	0.4	1.2	Ch	右脚欠損。
433	b	A区	801	石鏃	3.6	2.1	0.7	3.5	Ch	両脚欠損。
434	b			石鏃	1.3	1.4	0.4	0.4	0b1	先端·左脚欠損。
435	IV -	J1/2		石鏃	2.0	1.6	0.4	0.8	0b2	左脚欠損。
436	b下	13		石鏃	2.6	1.5	0.3	0.7	Ch	右脚欠損。
437	b	Н3	1	石鏃	2.3	1.6	0.5	0.7	0b	右脚欠損。
438	b	H4		石鏃	2.1	1.5	0.5	1.3	Ch	先端欠損。
439	b	J2		石鏃	2.9	2.0	0.6	1.9	0b1	左脚欠損。
440	b	G2	15	石鏃	2.5	2.1	0.5	1.7	Ch	先端·左脚欠損。
	Ш -	1.00	306	石鏃未製品	1.7	1.5	0.8	1.4	Ch	厚みあり。
442		A	245	石鏃未製品	1.7	1.3	0.7	1.0	0b	厚みあり。
443	b	3 6 7	221		2.6	2.1	0.5	2.1		「尖頭状石器」。
444	b下	Н3		石鏃未製品	2.6	1.7	0.6	1.7	0b1	先端部の調整に失敗か。
_	Ш -		434	石鏃未製品	2.2	1.8	0.9	3.0		厚みあり。
446	b		721	石鏃未製品	2.2	1.8	0.4	2.2		A STATE OF THE STA
_	a	J3		石鏃未製品	2.2	2.1	0.6	2.1		厚みあり。
448				石鏃未製品	2.1	2.0	1.1	4.1	Sh	ヒンジフラクチャー。
	c		108	石鏃未製品	2.7	2.3	0.9	4.9		「尖頭状石器」。
450		13		石鏃未製品	1.8	1.8	0.6	1.4		厚みあり。
451		G4		石鏃未製品	2.4	1.8	1.1	2.8		厚みあり。
452		Н3		石鏃未製品	2.4	1.7	0.7	2.2		裏面は素材剥片の剥離面のまま。
453			77		2.7	2.5	0.9	5.4		厚みあり。
454		H4		石鏃未製品	2.1	1.5	0.6	1.1		先端に厚みあり。
455		Н3		石鏃未製品	2.6	2.0	0.7	1.9		素材剥片?
456		J2		石鏃未製品	2.6	2.1	0.6	4.4		背面に研磨あり。
	IV -	J1/2		石鏃未製品	2.6	2.3	0.9	4.3		ヒンジフラクチャー。
		H3		石鏃未製品	2.4	1.4	0.5		0b1	石鏃の可能性あり。
458			1365		2.5	1.8	0.7	2.9		- A Machine 25 A 0
		J1	1000	石鏃未製品	2.2	2.1	0.9	3.4		
459	()			石鏃未製品	2.8	2.4	0.9	4.5		素材剥片に近い。
459 460		1 13		日郊人/下ると日日	4.0		0.7	1.1	0b1	先端・左脚を欠く。
459 460 461	b	I3		石鏃未製品	9 1	1 /1				
459 460 461 462	b b	I4		石鏃未製品	2.4	1.4			-	
459 460 461 462 463	b b b	I 4 H4		石鏃未製品	2.2	2.0	0.8	2.5	0b1	「尖頭状石器」。基部は面をなす。
459 460 461 462 463 464	b b b b b	H4 H4	0	石鏃未製品 石鏃未製品	2.2	2.0	0.8	2.5 2.4	Ob1 Ch	
461 462 463	b b b b b b	I 4 H4	6	石鏃未製品 石鏃未製品	2.2	2.0	0.8	2.5	Ob1 Ch S	「尖頭状石器」。基部は面をなす。

第3表 石器観察表(2)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
468	b	H4	ш	石鏃未製品	2.4	1.8	0.9	3.2	0b1	不定形剥片素材。
469	b	H1		石鏃未製品	2.7	2.4	0.9	4.4	0b1	不定形剥片素材。
470	b			石鏃未製品	1.8	1.7	0.8	3.4	0b1	裏面は礫面。
471	b	13		石鏃未製品	2.5	2.5	0.5	2.5	0b1	先端側に素材剥片の打面を残す。
472	a		2	石鏃未製品	4.6	3.0	1.1	12.2		右側縁は折断により成形。
473	b	Н3		石鏃未製品	3.1	2.3	1.0	5.4	Ch	縦長に近い不定形剥片素材。
474	b	I4		石鏃未製品	2.6	1.9	0.9	3.1		先端部を先行して作出。
475	b	Н3	000	石鏃未製品	3.3	3.1	1.0	8.3		基部周辺を先行して作出。
476 477	b	A	922 353	石鏃未製品 石鏃未製品	3.0	2.2	1.2	5.7		厚みあり。
478	b	H3	555	石鏃未製品	3.4	2.4	1.2	7.8	_	素材剥片を折断し、折断面から調整。
479	b	H4		石鏃未製品	3.3	2.1	1.2		0b2	表裏面に礫面を残す。
480	b	H4		石鏃未製品	3.4	2.2	1.0	7.9		厚みあり。
481	b	13		石鏃未製品	3.6	2.7	1.4	10.8	S. 500 (100)	左側縁から先行して作出。
482	b	Н3		石鏃未製品	3.6	2.4	0.7	4.5		素材剥片に近い。
483	b	H4		石鏃未製品	3.5	2.6	1.2	5.9		厚みあり。
484	b	Н3		石鏃未製品	3.0	2.7	1.1	8.3	Ch	厚みあり。
485		A	566	石鏃未製品	3.5	2.4	0.7	6.3	Sh	先端から欠損。尖頭器様の石器として使用か。
486	b	I4		石鏃未製品	3.5	2.5	1.1	7.5	Ch	厚みあり。
487	b下	H2		石鏃未製品	2.4	2.9	1.0	4.8	Ch	左脚厚みあり。
488	b	H2		石錐	2.1	1.2	0.6	0.8		錐部は扁平。
489	b	IIC.	463	石錐	2.2	1.5	0.8	1.9		錐部左側面は無調整。
490	b	Н3	100	石錐	2.5	1.7	0.8	2.6		錐部は欠損。背面に礫面残す。
491 492	b	Δ.	102 415	石匙	2.4	1.1	0.6	1.1	0b	「抉入石器」?
492	b下	A H4	415	石匙 石匙	2.3	1.3	0.4	0.8		石器下端は素材剥片のまま。
493	IV	П4 I4		石匙	3.7	1.3	0.7	1.4		つまみ部の作出は明確。 石器下端にわずかな加工。
495	b	H2	96	石匙	2.6	1.6	1.0	3.0	An Ob	石器下端は礫面を残す。縦長剥片素材。
496	b	H4	50	石匙	3.6	1.6	0.5	1.9	Ch	両側縁に抉り。縦長剥片素材。
497	b	H2	103	石錐未製品	3.1	2.8	0.7	5.2		#部は折断によって成形したまま。
498	b			楔形石器	3.0	2.0	1.0	6.9		横長に近い厚手の不定形剥片素材。
499	b	Н3		石匙	3.6	4.6	0.9	14.1	Ch	D.Z 2 1 1 3 1 7 C/D 447 1 7 K F4 6
500	С		1149	石匙	2.6	4.1	1.0	7.2	An	両端は欠損。
501	VIb	M6	83	石匙	4.2	5.7	1.0	13.6		右側は欠損。
502	b下	H4		石匙	4.2	6.3	0.9	19.3	Ch	
503	VII	L8	68	石匙	9.7	3.8	0.9	29.2	KS 1	つまみ部は、左側縁は折断、右側縁は抉りで整形。
504	b	H4		異形石器	1.6	2.3	0.4	1.0	0b	石鏃様。
505	b	13		異形石器	2.6	1.0	0.6	1.1	Ch	
506	b	H4.		異形石器	2.7	4.1	0.8	6.3		
507	h	110	100	異形局部磨製石鏃	3.3	2.4	0.6	5.8	Ch	顕著に摩滅(研磨?)。「トロトロ石器」。
508 509	b	H2 H3	109	異形石器 異形石器	3.2	1.7	0.6	3.2		X字形?
510	b	лз J2		異形局部磨製石鏃	4.4	3.8	0.8	6.3	Ch	背面に研磨あり。
	b	H4		尖頭器	3.5	1.6	0.6	3.7	An KSh	基部を欠損。表裏面に素材剥片面を残す。
	b	Н3		尖頭器	3.5	2.7	0.6		S	不定形で反り返った剥片素材。尖頭器か?
513		13		尖頭器	5.0	2.1	0.7	8.1		縦長に近い不定形剥片素材。背面に礫面を残す。
514	С		322	尖頭器	3.6	2.8	1.0	7.8		下端は欠損。
515	b	Н5		尖頭器	6.9	2.8	1.2	21.9		調整は粗い。上下端を欠く。
516	IV	A区	1079	尖頭器	4.1	2.7	0.9	8.6		先端から欠け。
517	b	J2		掻器	2.5	2.6	1.0		0b	素材剥片打点周辺の厚みを刃部の厚みとして利用か。
	b	J2		掻器	3.2	2.3	0.9	4.7	0b	裏面左側縁にも調整あり。
	b	10	475	掻器	2.4	2.7	1.0		0b	不定形剥片末端部に刃部を設定。
	b	J2		掻器 ****	2.7	2.4	1.5		0b	不定形剥片末端部に刃部を設定。
521	a	115	307	削器	4.6	3.5	1.0	14.4		両側縁に粗い加工。
	L.			HII-Z	4.0	3.9	1.4	22.1	KS 1	裏面を中心に加工。
522	b -	H5	12					00 0	C1.	
522 523	b ~		805	削器	5.2	4.0	1.6		Sh	表右側縁下方が刃部。
522 523 524	b IV	A区		削器 削器	5.2 4.6	4.0	1.6 1.6	26.1	Sh	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。
522 523 524 525	b IV	A区 G5	805	削器 削器 削器	5.2 4.6 1.4	4.0 4.2 1.1	1.6 1.6 0.7	26.1 0.9	Sh Ob	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。
522 523 524 525 526	b IV b b	A区 G5 J2	805 189	削器 削器 削器 削器	5.2 4.6 1.4 2.0	4.0 4.2 1.1 1.4	1.6 1.6 0.7 0.7	26.1 0.9 1.3	Sh Ob	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。
522 523 524 525 526 527	b IV b b b F	A区 G5	805 189 40	削器 削器 削器 削器 削器	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5	26.1 0.9 1.3 0.9	Sh 0b 0b 0b1	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。
522 523 524 525 526 527 528	b IV b b	A区 G5 J2	805 189	削器 削器 削器 削器 削器 削器	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7 1.4	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8 1.9	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5 0.5	26.1 0.9 1.3 0.9 0.9	Sh Ob Ob Ob1 KSh	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。 下端を欠損。
522 523 524 525 526 527 528 529	b IV b b F IV	A区 G5 J2 I4	805 189 40	削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5 0.5	26.1 0.9 1.3 0.9 0.9	S h 0b 0b 0b1 KSh 0b2	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。 下端を欠損。 右側縁が刃部。
522 523 524 525 526 527 528 529 530	b IV b b IV V b IV b b IV	A区 G5 J2 I4	805 189 40	削器 削器 削器 削器 削器 削器	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7 1.4 2.1	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8 1.9 1.5	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5 0.5	26.1 0.9 1.3 0.9 0.9 1.4 1.5	Sh Ob Ob Ob1 KSh	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。 下端を欠損。 右側縁が刃部。 両側縁が刃部。上面は折断面で、わずかに加工あり。
522 523 524 525 526 527 528 529 530 531	b IV b b F IV b b b b b b b b b b b b b	A⊠ G5 J2 I4 I4 J2	805 189 40	削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7 1.4 2.1 1.9	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8 1.9 1.5 2.1	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5 0.5 0.7	26.1 0.9 1.3 0.9 0.9 1.4 1.5 2.7	S h 0b 0b 0b1 KSh 0b2 Ch	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。 下端を欠損。 右側縁が刃部。
522 523 524 525 526 527 528 529 530 531	IV b b b F IV b b IV b	A区 G5 J2 I4 I4 J2 J6	805 189 40	削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7 1.4 2.1 1.9 2.1	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8 1.9 1.5 2.1	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5 0.5 0.7 0.5	26.1 0.9 1.3 0.9 0.9 1.4 1.5 2.7 2.5	S h 0b 0b 0b1 KSh 0b2 Ch KS 1	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。 下端を欠損。 右側縁が刃部。 両側縁が刃部。上面は折断面で、わずかに加工あり。 右側縁が刃部。 周縁が刃部。
522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534	b IV b b F IV a b F	A⊠ G5 J2 I4 I4 J2 J6 H4	805 189 40	削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7 1.4 2.1 1.9 2.1 2.2	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8 1.9 1.5 2.1 1.9	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5 0.5 0.7 0.5 0.7	26.1 0.9 1.3 0.9 0.9 1.4 1.5 2.7 2.5 2.7	S h 0b 0b 0b1 KSh 0b2 Ch KS 1 S 1	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。 下端を欠損。 右側縁が刃部。 両側縁が刃部。上面は折断面で、わずかに加工あり。 右側縁から下端部が刃部。
522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535	b IV b b IV b b IV a b F b b a	A⊠ G5 J2 I4 I4 J2 J6 H4	805 189 40 32	削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 制器 制器 制器 制器 制器 制器 制器 制器 制器 制器 制器 制器 制器	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7 1.4 2.1 1.9 2.1 2.2 2.7 2.5 2.8	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8 1.9 1.5 2.1 1.9 1.4 1.9 1.8	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5 0.5 0.7 0.5 0.7 0.8 0.8 1.0	26.1 0.9 1.3 0.9 0.9 1.4 1.5 2.7 2.5 2.7 3.0 6.5	S h 0b 0b 0b1 KSh 0b2 Ch KS 1 S 1 Ch	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。 下端を欠損。 右側縁が刃部。 両側縁が刃部。上面は折断面で、わずかに加工あり。 右側縁が刃部。 周縁が刃部。 下端は尖頭部を意識か。右側縁に細かい加工。 右側縁が刃部。 下端は尖頭部を意識か。右側縁に細かい加工。
522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536	b IV b b F IV a b F b b F b b F b F b F b b F b F b b F b F b b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F b F C F F C F F C F F C F F C F F C F F C F C F F C	A⊠ G5 J2 I4 I4 J2 J6 H4	805 189 40 32	削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削器 削	5.2 4.6 1.4 2.0 1.7 1.4 2.1 1.9 2.1 2.2 2.7 2.5	4.0 4.2 1.1 1.4 1.8 1.9 1.5 2.1 1.9 1.4 1.9	1.6 1.6 0.7 0.7 0.5 0.5 0.7 0.5 0.7 0.8 0.8	26.1 0.9 1.3 0.9 0.9 1.4 1.5 2.7 2.5 2.7 3.0 6.5	S h Ob Ob1 KSh Ob2 Ch KS 1 S 1 Ch Ch	表右側縁下方が刃部。 両側縁に刃部。 尖頭部を意識?厚手の縦長剥片素材。 表裏面に礫面残す。右側面は折断により成形。 不定形剥片の末端に刃部。 下端を欠損。 右側縁が刃部。 両側縁が刃部。上面は折断面で、わずかに加工あり。 右側縁が刃部。 周縁が刃部。 下端は尖頭部を意識か。右側縁に細かい加工。 右側縁が刃部。

第3表 石器観察表(2)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
538	b	Н3		削器	2.9	2.0	0.9	3.5		素材剥片末端を折断し、そこに刃部を設定。
539	b	Н3	- 49	削器	3.0	2.1	0.8	5.1	Ch	右側縁が刃部。左側縁は欠損か。
540	С		112	削器	3.6	1.0	0.9	4.5	Ch	右側縁が刃部。左側縁は欠損か。
541	b	1 1 1 1	831	削器	2.6	2.3	0.6	4.1	Ch	右側縁・下端の裏面に加工。
542	b	J2		削器	3.5	2.4	1.0	8.9	100 0000	上縁・右側面に刃部。
543		A	159	削器	3.4	2.5	0.9	6.3	20000000	左側縁に刃部。右側面には微細剥離あり。
544	C	** (0	123	削器	3.7	3.0	1.0	12.0		右側縁裏面に加工あり。
545	IV -	J1/2		削器	4.5	1.8	0.8	6.1	S	大形の削器の一部か。
546		A	440	削器	3.2	2.9	0.9		KSh	両側縁に加工あり、刃部か。
547	b	13	. 00	削器	4.1	3.5	1.0	14.9		下端に粗い加工あり。刃部か。
548	b	J2	000	削器	3.8	2.7	0.8	5.4		下端を突出させる意識ありか。平坦剥離で整形。
549	IV -	OF.	322	削器	5.1	3.3	1.2	18.0		下端部が刃部。
550	C	G5	400	削器	4.0	2.9	1.0	10.9		縦長剥片を折断し、折断面から細かい加工を入れる。
551	III -	IIA	463	削器	6.3	4.0	1.1	20.9		右側面は礫面で、礫面から石器裏面に加工あり。
552	b n/ -	H4	74	削器	3.2	5.0	1.5	25.7		厚手の不定形剥片末端に、裏面に刃部を設定。
553	IV -	AX	74	削器	6.8	4.1	1.6	46.7		縦長剥片右側縁と下端に刃部。下端は微細剥離か。
554	IVa	J4	284	削器	6.5	4.2	1.9	29.6	2	右側縁にゆるく外湾した刃部。
555	b		122	削器	5.7	3.4	1.0	16.2	Sh	両面ポジの不定形剥片素材。素材剥片末端に直線的な列 部を設定。
556		A	17	削器	5.8	6.5	1.8	59.5	S	不定形剥片末端に直線的な刃部を設定。裏面上の加工に 整形に伴うもの。
557	b下	НЗ		削器	5.2	2.6	1.2	14.8	0b1	横長に近い厚手の不定形剥片素材。右側縁・左側縁下に
001	U I	110		រាប់ម៉ាជា	0.4	4.0	1.4	14.0	ODI	微細剥離が連続。加工か。
558	ш -		403	削器	9.5	6.2	2.2	81.2	S	不定形剥片素材。石器左側縁下に刃部?刃部周辺の稜は
										やや摩滅。
559	IV -	No.	385	削器	8.5	3.0	1.4	26.9	Sh	A Language Model Control of the
560	IV	I4		削器	8.4	5.2	2.1	103.7	S	厚手の剥片素材。右側面は折断面。左側縁は下側を中心 に稜が摩滅。
561	b	H4		削器	6.6	3.9	2.1	46.0	Sh	素材剥片は剥片剥離の衝撃で縦裂けか。
562	b		229	削器	4.8	3.8	1.0	12.8	Sh	木の葉状の石器であったか。下端を欠損。粗い加工。
563		A	228	削器	6.1	4.4	1.3	35.9	S	素材剥片折断後、石器末端に刃部を設定。
564	Ⅲ -	H1	34	削器	6.4	6.0	1.9	73.4	S	左側の三面は折断。右側縁は外湾し、稜は摩滅する。
565	IV -		400	削器	5.4	6.5	2.3	64.5	Sh	不定形剥片末端に刃部。背面には礫面残る。
566	b		1328	削器	9.7	4.2	1.8	51.1	S	3 Bar 2 S
567	IV	A区	19	削器	9.9	4.5	1.8	82.6	S	背面は礫面。右側縁に加工あり。
568	IV	A区	220	削器	7.5	4.8	2.2	90.0	S	磨製石斧の転用。下端の刃部正面観は波打つ。
569	b		1057	削器	10.1	5.0	2.8	92.8	S	先細りの縦長剥片素材。剥片末端に向けて、加工。
570 .	IV	A区	193	削器	13.6	4.9	1.8	118.2	S	縦長剥片素材。右側面は折断面か。左側縁に刃部を設定 石器下部は表裏面ともに赤変。
571	IV	A区	405	削器	7.7	3.9	2.3	51.9	S	裏面は礫面。右側面は折断面。左側縁に粗い加工。
572	b	J2	in partie	削器	8.5	5.7	1.9	69.7		右側縁を刃部とするものか。
573		A	683	削器	9.7	7.4	2.2	129.7	S	表裏面上部に抉り?
574	b	13	10,010	削器	7.5	8.1	3.2	200.2		石核の転用か。左側縁裏面に平坦剥離。刃部か。
575	IV	A DATE	102	二次加工剥片	2.8	1.5	0.8	17.1	0b	I Start Start Start Start
576	b	J2		二次加工剥片	2.9	1.4	0.7	2.5	0b1	右側面は折面。折面から、表裏面に加工あり。
577	b	НЗ		二次加工剥片	2.7	1.5	1.1	2.7		左側面に加工あり。上縁は素材剥片末端を残し、直線で 鋭い。
578	b下	НЗ		二次加工剥片	3.7	2.4	1.3	8.3	0b1	尖頭部を意識?
579	b下	14		二次加工剥片	4.1	1.9	0.8	6.0		両側縁に粗い加工。
580	0 1			二次加工剥片	3.7	2.8	1.0	9.7		周縁から中心に向かって加工。石器全体に、稜が磨耗。
581	b	A	319	二次加工剥片	4.2	2.2	1.2	8.9		尖頭器状。
582	b	НЗ	010	二次加工剥片	4.4	1.7	0.7	4.4		石器基部?に加工。先端(図の上側)は素材剥片の形状を 残す。尖頭部を意識?
583	b	14		研磨ある石器	3.0	2.2	0.4	2.9	Sh	背面に研磨あり。何らかの磨製石器の剥落したものであ
E 0 4	h		940	二次加工剥片	4.0	9 0	1 1	15.3	Ch	ろう。 スウンシュルキャナ 大側径に知り加工をい
584 585	b	J2	249	一次加工剥斤 二次加工剥片	8.0	3.9	1.1			不定形剥片素材。左側縁に粗い加工あり。
586		A A	29	二次加工剥片	7.1	6.5	2.0	51.4 89.3		素材剥片裏面の末端に刃部?加工は粗い。掻器的な機能
587	b	12	20	二次加工剥片	7.5	5.6	5.6	48.2	2	か? 不定形剥片の打点近くの両側縁に、抉りか。
588	Ш -	A区	218	二次加工剥片	5.8	4.6	1.7	43.1		円礫から剥離された円形の剥片素材。裏面は礫面。剥片
589	IV		1322	石核	1.5	2.5	1.2	2.1	0b	末端に加工あり。 単一打面。打面調整あり。横広の不定形剥片剥離。
590			1319		1.8	2.1	1.1	3.4		単一打面。弾打面。横広の不定形剥片剥離。
	b	12	1919	石核	1.8	3.1	1.1	3.4		単一打面。磔打面。傾広の不定形剥片剥離。 単一打面。剥離面打面。横広の不定形剥片剥離。
592		14	209	石核	1.3	2.1	1.9	3.5		単一打面。列離回打面。傾広の不足形列片列離。 単一打面。打面調整あり。横広の不定形剥片剥離。
593		J3	209	石核	1.3	2.1	1.5	3.4		複打面。寸話まりの縦長剥片剥離。
594		00	1366	石核	1.8	2.6	1.7	6.5		不定形剥片剥離。
		J2	1000	石核	1.4	2.1	1.4	1.8		引離面打面。不定形剥片剥離。
595	l h							1.0	LUUI	

第3表 石器観察表(2)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
597	b	J2	1	石核	1.7	3.8	1.2	4.7	0b1	剥離面打面。不定形剥片剥離。
598	Ⅲ ´		88	石核	1.8	3.4	1.3	4.4	0b1	剥離面打面。不定形剥片剥離。
599	b	J2		石核	2.5	2.5	1.4	6.0	0b1	剥離面打面。不定形剥片剥離。
coo	1.	TA		7.14	4.0					裏面は先行剥離面。打面転移後、礫打面より不定形剥片
600	b	14		石核	1.6	2.4	1.8	3.7	0b	剥離。
601	b -	J2	17 (1)	石核	2.0	2.4	1.4	5.5	0b1	剥離面打面。不定形剥片剥離。
		02			2.0	2.1	1.1	0.0	ODI	剥離面打面。裏面は右側面を打面とする先行剥離。不定
602	b	I4		石核	1.5	2.7	1.7	6.2	0b	
COS	l.	IIA		T'4t:	0.0	0.7			01.4	形剥片剥離。
603	b	H4		石核	2.2	2.7	1.4	5.5	0b1	礫打面。不定形剥片剥離。
604	b	J2		石核	2.4	4.0	1.2	10.2	S 1	剥離面打面。不定形剥片剥離。
605	b	14		石核	2.2	3.1	1.8	9.4	0b	左面を打面に剥片剥離(上面)の後、その剥離面を打面と
000				The state of the s	2.2	0.1	1.0	0.1	OD	して不定形剥片剥離。
606	С		319	石核	3.1	4.5	2.2	35.7	珪岩	礫打面。不定形剥片剥離。
607		A	593	石核	2.6	4.1	2.0	19.9	0b	礫打面。不定形剥片剥離。
806	b	J2	10.3	石核	4.1	3.2	1.9	26.3	K	石核周縁から中央に向かって不定形剥片剥離。
609	b	Н3		石核	4.4	2.5	1.5	13.5	0b	不定形剥片剥離。
310	a		370	石核	3.6	4.6	2.1	23.8	Sh	礫打面。縦長に近い不定形剥片剥離。
611	b	J2	010	石核	5.2	2.6	1.3	10.6	0b1	
					_					不定形剥片剥離。裏面の抉りは意図的か?
512	b	J2		石核	3.0	3.8	2.4	20.9	S 1	打面調整あり。不定形剥片剥離。
313	b	14		石核	5.9	2.7	2.2	2.1	0b1	良質でない石材。不定形剥片剥離。
614	Ⅲ -	I2		石核	1.2	1.1	0.9	1.1	0b1	打面は急傾斜。超小形の縦長剥片剥離。
615	IV	670 B	1057	石核	2.5	1.3	0.7	2.1	0b	不定形剥片と縦長剥片を剥離。
16	b	J2		石核	3.2	1.3	1.7	5.1	0b1	打面は急傾斜。縦長剥片剥離。
317	b	12	U 1 10	石核	3.2	1.5	1.4	4.2	0b1	打面は急傾斜。縦長剥片剥離。
318	Ш -		436	石核	2.9	2.0	2.2	9.8	0b	斑晶のため剥離困難。不定形剥片剥離。
19	a		18	石核	1.9	2.3	2.2	9.0	0b	斑晶のため剥離困難。不定形剥片剥離。
620	а	Λ	556	石核						
	1.	A	990		2.1	2.1	2.1	6.2	0b	斑晶のため剥離困難。不定形剥片剥離。
321	b	G4		石核	1.5	2.4	1.5	3.7	0b	打面調整あり。不定形剥片剥離。
22		A	98	石核	1.2	2.1	1.4	2.8	0b	打面調整あり。不定形剥片剥離。
523	b	H4	61	石核	2.7	1.5	1.8	4.6	0b	頻繁な打面転移。不定形剥片剥離。
524		A	562	石核	3.6	1.9	1.8	8.3	0b	斑晶のため剥離困難。不定形剥片剥離。
325	b	J2	(100)	石核	2.7	1.8	1.2	4.2	0b1	礫打面。縦長に近い不定形剥片剥離。
526	b	G4	- 13	石核	2.3	1.4	1.0	2.7	0b	下側と右側より不定形剥片剥離。
327	b	J2		石核	3.1	1.6	1.3	4.3	0b1	剥離面打面。不定形剥片剥離。
528	b	J2		石核	2.3					
					1000000	1.5	1.5	3.8	0b	不定形剥片剥離。
529	b	J2	10 L M	石核	2.0	1.7	1.6	3.3	0b1	剥離面打面。縦長に近い不定形剥片剥離。
30	b	J2		石核	1.8	1.8	1.8	3.4	0b1	頻繁な打面転移。不定形剥片剥離。
331	2 10 30	A	109	石核	2.6	1.9	1.3	3.6	0b1	不定形剥片剥離。
332	b	12	(D)	石核	3.4	2.2	1.5	6.0		
333		A	602	石核	3.6	1.9	1.3	7.0	0b	打面調整あり。不定形剥片剥離。
334		A	167	石核	2.6	2.3	1.2	6.1	0b	斑晶のため剥離困難。不定形剥片剥離。
35	b	H4		石核	3.1	2.6	1.4	10.1	Ch	上面は礫面。石核周縁から不定形剥片剥離。
36	a	12.7	273	石核	3.1	2.3	1.2	5.8	0b	斑晶のため剥離困難。不定形剥片剥離。
337	b	J2		石核	2.8	3.1	2.3	20.5	0b1	小形の円礫素材。礫打面より、不定形剥片剥離。
338	b	H5	1	石核				S 100 WA	19000	
339	b下	H4	1		3.6	2.1	1.5	10.8		不定形剥片剥離。
009	n L.	П4		石核	2.8	2.3	1.5	8.9	Ch	剥離面打面。不定形剥片剥離。
340	b	J2		石核	5.6	3.5	2.2	34.4	Sh	表面は石核周縁から中央に向かって不定形剥片剥離。尖
				10000			11 1000		0.11	頭器などの未製品の可能性あり。
41	b	12		石核	10.2	9.0	4.5	370.0	0b1	亜円礫素材。縦長剥片剥離。
342	b	18/19/3	1132	石核	7.9	9.5	5.2	320.0	S	亜円礫素材。縦長剥片剥離。
43		A	114	石核	6.7	9.3	4.3	282.2	S	亜円礫素材。不定形剥片剥離。
44	Ш -	Α区	457	石核	10.7	8.5	4.1	331.6		不定形剥片剥離。
45	b -	J2		石核	5.1	5.6	2.2	69.5	S 1	縦長·不定形剥片剥離。
346	-	A	1189	石核	7.2	6.3	3.0	137.4		削器として転用
47		A								
	13.7		1183	石核	8.0	5.1	4.6	130.3		打面は節理面。不定形剥片剥離。
348	IV	A区	66	礫器	7.3	6.4	2.5	143.9		石核の転用。側縁は顕著に磨耗。磨耗部は面をなす。
49	IV Î	A区	356	礫器	13.9	15.7	5.2	1410.0	S	石核か?表面のみ粗い加工。亜円礫素材。
550	b		1218	礫器	12.4	11.1	2.0	650.0	S	右側縁は稜が顕著に潰れる。石材は粗粒の砂岩。
51	b	G5		石錘	5.1	6.0	2.3	90.3	S	裏面右は節理に沿って剥落。
52	Ш	4 9 4	127	石錘	5.6	5.9	2.4	98.5	S	
_	IV	FIL (40)	100	石錘	6.7	7.1	1.9	125.7	S	
554	III		121	石錘	6.6	7.5	3.4	191.1	S	表面上下に潰れ。
	Ш			5.51.000						公田上「に 俱11。
			48	石錘	7.1	7.0	2.1	159.2	S	79-14-14-14-14-14-14-14-14-14-14-14-14-14-
_	III -		405	石錘	6.7	7.0	2.8	206.7	S	
357	Ш		224	石錘	8.2	6.6	2.9	206.6		
358	b	13		石錘	6.6	9.6	2.0	199.6	S	
359	IV	AIX	1504	石錘	8.6	9.8	4.8	608.0		
200	b	Н5		石錘	8.9	12.5	4.4	686.0	S	トーン部分は磨面。磨面は、使用痕?磨石の転用品?
60		5010000								, 一品, 10. 四四, 6. 四四, 6. 区, 11 区, 12 C, 12
	b	H2 1	79	石錘	9 0 1	19 01				
61	b b	H2	79	石錘 磨製石斧	9.0	12.9	3.7	677.1 58.6	S	全面研磨。基部端に面あり。